愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

── 2001・2002年度 ──

愛媛大学
寄贈
附属図書館

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２００４

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

── 2001・2002年度 ──

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２００４

序　　文

愛媛大学は、松山市および愛媛県内各所に大小のキャンパスをもち、敷地総面積は464ヘクタールに及ぶ。そのうち、本部事務局と４つの学部が所在する城北団地には文京遺跡、農学部と附属高等学校がある樽味団地には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地では鷹子遺跡、教職員宿舎のある北吉井団地では桑原西稲葉遺跡など、数多くの遺跡をかかえている。愛媛大学では、埋蔵文化財調査室を設置し、こうした埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合、影響度に応じて、本格調査、立会調査、あるいはその影響度をはかるための試掘調査を実施し、保護処置を講じている。また、1992年度からは、大学構内における埋蔵文化財の有無や精度の高い分布状況を把握する確認調査を実施してきてもいる。

こうした調査成果を客観的に資料化し、調査報告書にまとめて公開することによって遺跡の評価が行われる。ところが、規模の大きい本格調査については、調査報告書刊行には現地での発掘作業と同等の時間を、記録類や出土品の整理作業に要する。愛媛大学の場合、出土品の多さと、1994年度から続く頻繁な発掘調査によって、速やかな報告書刊行を容易に行えない状況にあった。そこに、2000年11月の旧石器捏造事件を承けた、文化庁から愛媛県教育委員会を通じて、「埋蔵文化財の発掘調査に関する事務の改善について」（庁保記第236号、2000年11月17日）の通知がなされ、調査の目的、調査主体や調査担当者の責任、検証性の必要性などを含めた、適切な発掘調査の実施とともに、速やかな正式報告書の刊行が改めて喚起された。埋蔵文化財調査室では、この通知に基づき、大学事務局と協議を行い、本格調査の報告書刊行に向けて調査室の体制を再整備し、整理作業を前進させることとした。昨年度刊行した『樽味遺跡Ⅳ』は、その正式報告書刊行の端緒である。一方で、小規模調査である試掘・立会・確認調査についての報告と、本格調査の概要報告を併せた、年度毎の埋蔵文化財調査室の事業報告である『埋蔵文化財調査室年報』を、2000年度から1995年度分まで遡って刊行してきた。本書は、その2001・2002年度分であり、ようやく本来の年度に追いついたことになる。

本書をまとめるにあたり、多くの機関・部局・個人の方々から協力を得た。深く感謝するとともに、本書が大学内外の多くの方々に利用・活用されることを祈念します。

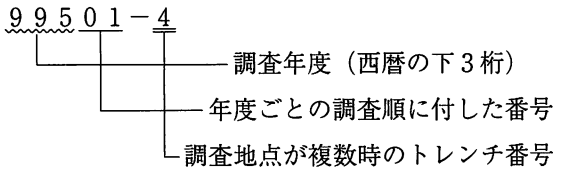
平成16年１月20日

愛媛大学埋蔵文化財調査室
室長　下　條　信　行

例　　言

1．本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が2001年度と2002年度に愛媛大学構内で実施した大規模本格調査の概要と、試掘・立会・確認形式で行った小規模調査の成果を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅺにあたる。

2．埋蔵文化財調査室では、本格全面調査・構内遺跡確認調査については、遺跡毎に調査次数を付しているが、同時にすべての小規模調査も含めて、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下３桁の後に各年度ごとの調査順に01からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点（トレンチ）を調査した場合、－の後に地点番号を付して表示している。



3．本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、竪穴式住居：SC、溝：SD、炉・竈：SF、柵列：SA、水田：SS、土壙：SK、柱穴・小穴：SP、自然流路：SR、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。

4．本書で表示した方位・標高数値は、本格調査においては、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第Ⅳ系にしたがった。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示した。

5．土色・遺物の色調は、1991年以降、小山正忠・竹原秀雄編著（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）『新版標準土色帖』に準拠しているが、本文中ではマンセル記号は省略した。

6．本書に使用した遺構図は、田崎博之・吉田広・三吉秀充・宮崎直栄が作成浄写を行った。

7．本書に使用した遺物図は、吉田・武田尊子が作成し浄写を行った。

8．本書で使用した写真は、田崎・吉田・三吉が撮影した。

9．本書は田崎・吉田・三吉が執筆し、下條信行の指導のもとに、田崎・三吉・宮崎・横本順子の協力を得ながら、吉田が編集を行った。

10．本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。

本文目次

Ⅰ　2001・2002年度の事業 …… 1
1　埋蔵文化財調査委員会 …… 1
2　発掘調査 …… 3
3　整理作業 …… 6
4　印刷物の刊行 …… 7
5　広報・資料の利活用 …… 7
6　資料の保管 …… 10

Ⅱ　2001年度の調査報告 …… 11
00101　同窓会連合会による五葉松移植工事に伴う調査 …… 11
00102　農学部寄附建物新営予定に伴う調査 …… 12
00103　四国電力による城北団地構内高圧線敷設工事に伴う調査（文京遺跡23次調査）…… 16
00104　工学部屋外給水管布設替工事に伴う調査 …… 28
00105　（城北）総合研究棟新営（Ⅱ期）工事に伴う調査（文京遺跡24次調査）…… 30
00106　農学部寄附建物新営工事に伴う調査（樽味遺跡６次調査）…… 40
00107　事務局構内外灯設備移設工事に伴う調査 …… 47
00108　教育学部４号館便所改修電気設備工事に伴う調査 …… 48

Ⅲ　2002年度の調査報告 …… 50
00201　農学部２号館改修工事に伴う調査（樽味遺跡７次調査）…… 50
00202　（城北）情報教育棟新営工事に伴う調査（文京遺跡25次調査）…… 63
00203　（城北）情報教育棟用地埋蔵文化財調査に伴う土木工事に伴う調査 …… 71
00204　（城北）総合研究棟等改修工事に伴う調査（文京遺跡26次調査）…… 72
00205　（城北）総合研究棟等改修電気設備工事に伴う調査 …… 85
00206　（城北）情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営その他工事（その２）に伴う調査 …… 86
00207　（城北）総合研究棟新営電気設備工事に伴う調査 …… 88
00208　2002年度構内遺跡確認調査 …… 89
00209　（城北）総合研究棟新営電気・機械設備工事に伴う調査 …… 97
00210　（城北）情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営電気設備工事に伴う調査 …… 105
00211　（城北）総合研究棟等改修電気設備工事に伴う調査 …… 106

Ⅳ　構内の遺跡 …… 108
1　調査の手続き …… 108
2　遺跡の把握状況 …… 108

挿図目次

Ⅰ　2001・2002年度の事業

図１　2001・2002年度城北団地調査地点位置図
（縮尺 1/3,500）…… 4

図２　2001・2002年度樽味団地調査地点位置図
（縮尺 1/2,500）…… 5

図３　2001・2002年度山越団地調査地点位置図
（縮尺 1/3,500）…… 5

Ⅱ　2001年度の調査報告

図４　00101調査地点位置図（縮尺 1/400）……11

図５　00102調査１・２トレンチ位置図
（縮尺 1/400）……13

図６　00102調査１・２トレンチ実測図
（縮尺 1/100・1/40）……14

図７　00103調査（文京遺跡23次）１～３トレンチ
位置図および実測図（縮尺 1/400、1/40）…17

図８　00103調査（文京遺跡23次）４・５トレンチ
位置図および実測図（縮尺 1/400、1/40）…19

図９　00103調査（文京遺跡23次）６・７トレンチ
位置図および実測図（縮尺 1/400、1/40）…22

図10　00103調査（文京遺跡23次）８・９トレンチ
位置図および実測図（縮尺 1/400、1/40）…24

図11　00103調査（文京遺跡23次）10～12トレンチ
位置図および実測図（縮尺 1/400、1/40）…26

図12　00104調査１～３トレンチ位置図および
土層柱状図（縮尺 1/400、1/40）……28

図13　00105調査(文京遺跡24次)Ⅲ層上面遺構全体図
（縮尺 1/200）……31

図14　00105調査（文京遺跡24次）
SX-10出土破鏡実測図（縮尺 1/1）……33

図15　00105調査（文京遺跡24次）Ⅲ層遺構全体図
（縮尺 1/200）……34

図16　00105調査（文京遺跡24次）Ⅴ層上面地形図
（縮尺 1/200）……38

図17　00106調査（樽味遺跡６次）全体図
（縮尺 1/150）……41-42（折り込み）

図18　00107調査１・２トレンチ位置図および
土層柱状図（縮尺 1/400、1/40）……48

図19　00108調査地点位置図および土層柱状図
（縮尺 1/1,000、1/40）……49

Ⅲ　2002年度の調査報告

図20　00201調査（樽味遺跡７次）位置図、
Ⅱ・Ⅲ区全体図およびⅡ・Ⅲ区土層断面図
（縮尺 1/1,000、1/100、1/50）……51

図21　00201調査（樽味遺跡７次）
Ⅰ区実測図およびSR-13・SX-29実測図
（縮尺 1/100、1/50）……53-54（折り込み）

図22　00201調査（樽味遺跡７次）Ⅳ・Ⅴ区実測図
（縮尺 1/100）……59-60（折り込み）

図23　樽味団地北西部の検出遺構分布図
（縮尺 1/500）……62

図24　00202調査（文京遺跡25次）上層水田
（縮尺 1/200）……64

図25　00202調査（文京遺跡25次）中層水田
（縮尺 1/200）……65

図26　00202調査（文京遺跡25次）下層水田
（縮尺 1/200）……66

図27　00202調査（文京遺跡25次）水田下の自然流路
（縮尺 1/200）……67

図28　00203調査土層柱状模式図（縮尺 1/40）……71

図29　00204調査（文京遺跡26次）調査位置図
（縮尺 1/1,000）……73

図30　00204調査（文京遺跡26次）Ⅰ区全体図
（縮尺 1/50）……74

図31　00204調査（文京遺跡26次）Ⅱ区実測図
（縮尺 1/300、1/50）……77

図32　00204調査（文京遺跡26次）
Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ区実測図（縮尺 1/50）……79

図33　00204調査（文京遺跡26次）Ⅴ区実測図①
（縮尺 1/200、1/50）……81-82（折り込み）

図34　00204調査（文京遺跡26次）Ⅴ区実測図②
（縮尺 1/50）……83

図35　00204調査（文京遺跡26次）出土遺物実測図
（縮尺 1/2）……84

図36　00205調査地点位置図、土層柱状図および
周辺土層断面図
（縮尺 1/750、1/40、1/750・1/80）……85

図37　00206調査地点位置図、土層柱状図および
周辺土層断面図

（縮尺 1/200、1/40、1/200・1/100） ……86
図38 00207調査地点位置図および土層柱状図
（縮尺 1/100、1/40） ……88
図39 00208調査地点位置図および土層柱状図
（縮尺 1/2,000、1/40）……90
図40 00208調査５トレンチ東壁土層断面図
（縮尺 1/40）……93
図41 00209調査地点位置図（縮尺 1/1,500）……98
図42 00209調査１・２トレンチ実測図
（縮尺 1/50）……98
図43 00209調査３・４トレンチ土層断面図および
５トレンチ実測図（縮尺 1/50）……100
図44 00209調査６トレンチ実測図（縮尺 1/50）…102
図45 00210調査地点位置図および土層柱状図
（縮尺 1/400、1/40）……105
図46 00211調査地点位置図（縮尺 1/1,000）……107
図47 00211調査１トレンチ土層柱状図および
２トレンチ実測図（縮尺 1/40）……107
Ⅳ 構内の遺跡
図48 埋蔵文化財調査に関わる
手続きフローチャート ……109
図49 城北団地の区割
（縮尺 1/5,000、1/1,000、1/200） ……110

写真目次

Ⅰ 2001・2002年度の事業
写真 1 00105調査（文京遺跡24次）現地説明会 …7
写真 2 体験発掘（発掘作業） ……9
写真 3 体験発掘（遺物見学） ……9
写真 4 『文京遺跡～体験発掘の思い出～』……9
Ⅱ 2001年度の調査報告
写真 5 00101調査区（北から）……12
写真 6 00102調査１トレンチ全景（南から）……15
写真 7 00102調査１トレンチ南端土層
（北西から）……15
写真 8 00102調査２トレンチ全景（西から）……15
写真 9 00102調査２トレンチSK-1（南から）……15
写真 10 00102調査２トレンチSK-2（西から）……15
写真 11 00102調査２トレンチSP-3（北西から）…15
写真 12 00103調査（文京遺跡23次） １トレンチ
（北東から）……20
写真 13 00103調査（文京遺跡23次） ２トレンチ
（西から）……20
写真 14 00103調査（文京遺跡23次） ３トレンチ
（北東から）……20
写真 15 00103調査（文京遺跡23次） ４トレンチ
（北から）……20
写真 16 00103調査（文京遺跡23次） ５トレンチ
（北から）……20
写真 17 00103調査（文京遺跡23次） ６トレンチ
（北から）……20
写真 18 00103調査（文京遺跡23次） ７トレンチSR-5
（東から）……23
写真 19 00103調査（文京遺跡23次） ７トレンチ
Ⅳ層上面遺構検出（北西から） ……23
写真 20 00103調査（文京遺跡23次） ７トレンチ完掘
（北西から）……23
写真 21 00103調査（文京遺跡23次） ８トレンチ
（北西から）……23
写真 22 00103調査（文京遺跡23次） ９トレンチ
SX-16土器出土状況（北から） ……25
写真 23 00103調査（文京遺跡23次） ９トレンチ
SX-16検出状況（西から） ……25
写真 24 00103調査（文京遺跡23次） ９トレンチ完掘
（北西から）……25
写真 25 00103調査（文京遺跡23次） ９トレンチ
東壁土層（西から） ……25
写真 26 00103調査（文京遺跡23次）10トレンチ
（西から）……25
写真 27 00103調査（文京遺跡23次）11トレンチ
（西から）……25
写真 28 00104調査港湾実験室南側掘削状況
（西から）……29
写真 29 00104調査１トレンチ（北から）……29
写真 30 00104調査２トレンチ（西から）……29
写真 31 00104調査３トレンチ（北から）……29

写真 32　00105調査（文京遺跡24次）Ⅲ層上面遺構
完掘全景（西から）……32
写真 33　00105調査（文京遺跡24次）SD-12・SD-6
（西から）……32
写真 34　00105調査（文京遺跡24次）SC-26
（南から）……32
写真 35　00105調査（文京遺跡24次）
SX-10出土破鏡……33
写真 36　00105調査（文京遺跡24次）Ⅲ層遺構
完掘全景（北西から）……35
写真 37　00105調査（文京遺跡24次）南半Ⅲ層遺構
（西から）……36
写真 38　00105調査（文京遺跡24次）SD-34
（西から）……36
写真 39　00105調査（文京遺跡24次）SK-32
（北西から）……36
写真 40　00105調査（文京遺跡24次）SC-45
（東から）……36
写真 41　00105調査（文京遺跡24次）SX-28上層下部
遺物出土状況（北東から）……36
写真 42　00105調査（文京遺跡24次）SX-28・SR-56
（東から）……36
写真 43　00105調査（文京遺跡24次）Ⅳ層完掘全景
（西から）……39
写真 44　00105調査（文京遺跡24次）SX-73
土器出土状況（南西から）……39
写真 45　00105調査（文京遺跡24次）SX-75
（西から）……39
写真 46　00105調査（文京遺跡24次）Ⅳ層中
土器出土状況（北東から）……39
写真 47　00105調査（文京遺跡24次）東壁北部土層
（西から）……39
写真 48　00106調査（樽味遺跡６次）完掘全景
（西から）……44
写真 49　00106調査（樽味遺跡６次）完掘西半部
（南から）……44
写真 50　00106調査（樽味遺跡６次）西壁土層
（東から）……45
写真 51　00106調査（樽味遺跡６次）K・L-６区
管路部分（東から）……45
写真 52　00106調査（樽味遺跡６次）SB-17
（南から）……45
写真 53　00106調査（樽味遺跡６次）I・J-４・５区
完掘（南から）……45
写真 54　00106調査（樽味遺跡６次）SK-40
（北から）……45
写真 55　00106調査（樽味遺跡６次）SK-７
（南から）……46
写真 56　00106調査（樽味遺跡６次）SK-12
（南西から）……46
写真 57　00106調査（樽味遺跡６次）SK-13
（東から）……46
写真 58　00106調査（樽味遺跡６次）SP-39土層
（北から）……46
写真 59　00106調査（樽味遺跡６次）SP-49土層・
遺物出土状況（南西から）……46
写真 60　00106調査（樽味遺跡６次）SP-59
遺物出土状況（西から）……46
写真 61　00107調査１トレンチ（南東から）……47
写真 62　00107調査２トレンチ（南東から）……47
写真 63　00108調査地点（西から）……49
写真 64　00108調査地点土層（北西から）……49

Ⅲ　2002年度の調査報告

写真 65　00201調査（樽味遺跡７次）
ＩＣ～ＩJ区完掘（南から）……55
写真 66　00201調査（樽味遺跡７次）ＩＤ・ＩE区
Ⅲ-１層上面検出遺構（北から）……55
写真 67　00201調査（樽味遺跡７次）
ＩＣ～ＩG区完掘（北から）……55
写真 68　00201調査（樽味遺跡７次）
ＩＡ～ＩC区完掘（南から）……55
写真 69　00201調査（樽味遺跡７次）ＩＢ・ＩC区
北壁土層（南西から）……55
写真 70　00201調査（樽味遺跡７次）Ｉ区SD-8
（南から）……55
写真 71　00201調査（樽味遺跡７次）Ｉ区SC-17土層
（北東から）……55
写真 72　00201調査（樽味遺跡７次）Ｉ区
SR-13④層上面の礫群検出状況（北から）57
写真 73　00201調査（樽味遺跡７次）Ｉ区
SR-13②層中検出のSX-29（北から）……57
写真 74　00201調査（樽味遺跡７次）Ｉ区SR-13完掘
（南から）……57
写真 75　00201調査（樽味遺跡７次）Ｉ区
SP-39遺物出土状況（西から）……57

写真 76　00201調査（樽味遺跡７次）Ⅰ区SB-77
（西から）……58
写真 77　00201調査（樽味遺跡７次）Ⅰ区SP-56土層
（西から）……58
写真 78　00201調査（樽味遺跡７次）Ⅰ区SP-54土層
（西から）……58
写真 79　00201調査（樽味遺跡７次）Ⅱ区調査状況
（北東から）……58
写真 80　00201調査（樽味遺跡７次）Ⅲ区完掘
（南西から）……58
写真 81　00201調査（樽味遺跡７次）Ⅳ区完掘
（東から）……58
写真 82　00201調査（樽味遺跡７次）
ⅣC・ⅣD区SR-101土層（北東から）……58
写真 83　00201調査（樽味遺跡７次）
ⅣE・ⅣF区SR-102土層（北西から）……58
写真 84　00201調査（樽味遺跡７次）Ⅴ区完掘
（北から）……58
写真 85　00202調査（文京遺跡25次）上層水田
（東から）……68
写真 86　00202調査（文京遺跡25次）中層水田
（東から）……68
写真 87　00202調査（文京遺跡25次）下層水田
（東から）……69
写真 88　00202調査（文京遺跡25次）
水田下の自然流路（東から）……69
写真 89　00203調査地点東壁土層（西から）……71
写真 90　00204調査（文京遺跡26次）Ⅰ区完掘全景
（南から）……75
写真 91　00204調査（文京遺跡26次）Ⅰ区完掘
（東から）……75
写真 92　00204調査（文京遺跡26次）Ⅰ区
Ⅲ層除去後全景（南から）……75
写真 93　00204調査（文京遺跡26次）Ⅰ区
Ⅲ層中遺物出土状況（西から）……75
写真 94　00204調査（文京遺跡26次）Ⅰ区
SK-27炭化板材出土状況（南東から）…75
写真 95　00204調査（文京遺跡26次）Ⅰ区
SF-22検出状況（西から）……76
写真 96　00204調査（文京遺跡26次）Ⅰ区
SF-22完掘（西から）……76
写真 97　00204調査（文京遺跡26次）Ⅱ区全景
（東から）……76
写真 98　00204調査（文京遺跡26次）Ⅱ区東端完掘
（西から）……76
写真 99　00204調査（文京遺跡26次）Ⅱ区SC-50
（北西から）……76
写真100　00204調査（文京遺跡26次）Ⅱ区
SD-53・54土層（北東から）……76
写真101　00204調査（文京遺跡26次）Ⅲ区
完掘状況（北から）……80
写真102　00204調査（文京遺跡26次）Ⅳ区
Ⅲ層検出状況（北から）……80
写真103　00204調査（文京遺跡26次）Ⅴ区
東半部完掘（西から）……80
写真104　00204調査（文京遺跡26次）Ⅴ区
東端部完掘（東から）……80
写真105　00204調査（文京遺跡26次）Ⅴ区
西端部完掘（北から）……84
写真106　00204調査（文京遺跡26次）Ⅵ区
遺構検出状況（北から）……84
写真107　00206調査地点遠景（東から）……87
写真108　00206調査地点（東から）……87
写真109　00206調査西壁土層（北東から）……87
写真110　00207調査地点（西から）……89
写真111　00207調査遺構検出状況（北から）……89
写真112　00208調査２・３トレンチ（北から）……91
写真113　00208調査１トレンチ（北西から）……91
写真114　00208調査１トレンチ東壁土層
（西から）……91
写真115　00208調査２トレンチ（南西から）……91
写真116　00208調査２トレンチ東壁下部土層
（西から）……91
写真117　00208調査３トレンチ（南西から）……92
写真118　00208調査３トレンチ東壁土層
（西から）……92
写真119　00208調査４～７トレンチ（南から）……92
写真120　00208調査４トレンチ（北西から）……92
写真121　00208調査４トレンチ東壁下部土層
（北西から）……92
写真122　00208調査５トレンチ（北西から）……94
写真123　00208調査５トレンチ東壁SK-１土層
（北西から）……94
写真124　00208調査６トレンチ（南西から）……94
写真125　00208調査６トレンチ北壁土層
（南西から）……94

写真126　00208調査７トレンチ（南西から）……96
写真127　00208調査７トレンチ北壁土層
（南西から）……96
写真128　00208調査７トレンチ
④-４層遺物出土状況（西から）……96
写真129　00208調査８トレンチ（南西から）……96
写真130　00208調査８トレンチ北壁下部土層
（南西から）……96
写真131　00209調査調査風景 ……99
写真132　00209調査１トレンチ
（北東から）……99
写真133　00209調査１トレンチ南壁土層
（北から）……99
写真134　00209調査１トレンチ西壁土層
（東から）……99
写真135　00209調査２トレンチ遺構検出状況
（南西から）……99
写真136　00209調査２トレンチ東壁土層
（西から）……99
写真137　00209調査３トレンチ（西から）……101
写真138　00209調査３トレンチ東壁土層
（西から）……101
写真139　00209調査４トレンチ
（南西から）……101
写真140　00209調査４トレンチ東壁土層
（西から）……101
写真141　00209調査５トレンチ近景
（南西から）……101
写真142　00209調査５トレンチ（南西から）……101
写真143　00209調査６トレンチSR-17
（南から）……103
写真144　00209調査６トレンチSX-400遺物出土状況
（南東から）……103
写真145　00209調査６トレンチ東壁土層
（西から）……103
写真146　00209調査６トレンチ北壁土層
（南から）……103
写真147　00210調査地点（北西から）……105
写真148　00211調査１トレンチ（北から）……107
写真149　00211調査２トレンチ（北から）……107

表　目　次

Ⅰ　2001・2002年度の事業
表１　2001・2002年度の埋蔵文化財調査委員会と
埋蔵文化財調査室の体制 ……1
表２　2001・2002年度の調査依頼と回答一覧 ……2
表３　2001・2002年度の発掘調査一覧 ……3
表４　2001・2002年度の整理作業一覧 ……6
表５　2001・2002年度の資料利用一覧 ……8
Ⅲ　2002年度の調査報告
表６　00201調査（樽味遺跡７次）遺構一覧 ……50
表７　00204調査（文京遺跡26次）遺構一覧 ……72
Ⅳ　構内の遺跡
表８　愛媛大学構内における調査一覧
（2003年12月末時点）……113

Ⅰ　2001・2002年度の事業

1　埋蔵文化財調査委員会

愛媛大学埋蔵文化財調査室は、「愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程」に基づく埋蔵文化財調査委員会により設置された組織で、同委員会の審議に基づき、「愛媛大学埋蔵文化財調査室要項」の定めるところにより、業務を行っている。埋蔵文化財調査委員会は、例年１度開催されている。2001・2002年度の埋蔵文化財調査委員会および埋蔵文化財調査室の体制は表１の通りである。

（１）　2001年度埋蔵文化財調査委員会

７月４日に開催され、2000年度の実施事業と会計が報告され、了承された。また、2001年度の事業計画と予算についても、異議なく了承された。

その他の議題として、報告書刊行とそれに向けた整理作業に関して、小規模調査報告と大規模調査概報としての『年報』と、次数に関わらない正式報告書の刊行という方針が、改めて確認されるとともに、今年度

表１　2001・2002年度の埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の体制

2001年度埋蔵文化財調査委員会				2002年度埋蔵文化財調査委員会			
委員長	小松　正幸	副学長		委員長	小松　正幸	副学長	
委　員	藤川　研策	法文学部長	2001.４.１新任	委　員	藤川　研策	法文学部長	
委　員	下條　信行	法文学部教授	2001.４.１再任	委　員	下條　信行	法文学部教授	
委　員	松原　弘宣	法文学部教授	2001.４.１再任	委　員	松原　弘宣	法文学部教授	
委　員	金藤　泰伸	教育学部長		委　員	金藤　泰伸	教育学部長	2002.４.１新任
委　員	川岡　　勉	教育学部教授	2001.４.１再任	委　員	川岡　　勉	教育学部教授	
委　員	真鍋　　敬	理学部長		委　員	柳澤　康信	理学部長	2002.４.１新任
委　員	小西　正光	医学部長	2001.３.１新任	委　員	小西　正光	医学部長	2003.３.１新任
委　員	清水　　顯	工学部長		委　員	鈴木　幸一	工学部長	2002.４.１新任
委　員	白石　雅也	農学部長	2001.６.１新任	委　員	白石　雅也	農学部長	
委　員	塩谷　幾雄	事務局長	2001.１.６新任	委　員	塩谷　幾雄	事務局長	
委　員	大和田和平	総務部長	2001.４.１新任	委　員	大和田和平	総務部長	
委　員	高橋　伸一	経理部長	2001.４.１新任	委　員	高橋　伸一	経理部長	
委　員	土居　昌弘	施設部長		委　員	土居　昌弘	施設部長	
2001年度埋蔵文化財調査室				2002年度埋蔵文化財調査室			
室　長	下條　信行	法文学部教授		室　長	下條　信行	法文学部教授	
調査員	田崎　博之	法文学部教授		調査員	田崎　博之	法文学部教授	
調査員	吉田　　広	法文学部講師		調査員	吉田　　広	法文学部講師	2002.10.１より助教授
調査員	三吉　秀充	法文学部助手		調査員	三吉　秀充	法文学部助手	
専門員	松原　弘宣	法文学部教授		専門員	松原　弘宣	法文学部教授	
専門員	村上　恭通	法文学部助教授		専門員	村上　恭通	法文学部助教授	
専門員	川岡　　勉	教育学部教授		専門員	川岡　　勉	教育学部教授	
	宮崎　直栄	施設部事務補佐員			宮崎　直栄	施設部教務補佐員	
	横本　順子	施設部事務補佐員			横本　順子	施設部事務補佐員	
	上山　喜也	施設部技術補佐員			嶋田　史子	施設部技術補佐員	
	井出野文江	施設部技能補佐員			武田　尊子	施設部技術補佐員	
	生鷹　千代	施設部技能補佐員			井出野文江	施設部技能補佐員	
	門田　　都	施設部技能補佐員			生鷹　千代	施設部技能補佐員	～2002.９.30
	松本美和子	施設部技能補佐員			門田　　都	施設部技能補佐員	
	丸岡美智子	施設部技能補佐員			松本美和子	施設部技能補佐員	
	村上　洋子	施設部技能補佐員			丸岡美智子	施設部技能補佐員	
					村上　洋子	施設部技能補佐員	～2002.11.15

表２　2001・2002年度の調査依頼と回答一覧

依頼				回答		調査番号
日付	発		工事名	日付	内容	
平成12年10月25日	理学部事務長	門田忠昭	（城北）総合研究棟（Ⅱ期）工事	平成14年9月24日	埋蔵文化財調査について（報告）	00105
平成13年4月23日	教育学部長	金藤泰伸	愛媛大学教育学部附属中学校電話線改修工事	平成13年4月23日	調査必要なし・慎重工事依頼	
4月26日	総務部企画室		愛媛大学同窓会連合会による五葉松移植工事	5月28日	埋蔵文化財調査について（報告）	00101
5月30日	農学部事務長	程内良豊	農学部寄附建物新営工事予定	6月18日	埋蔵文化財調査について（報告）	00102
6月28日	教育学部長	金藤泰伸	教育学部附属中学校の警備員室への電源配管埋設工事	6月28日	調査必要なし・慎重工事依頼	
7月24日	教育学部長	金藤泰伸	教育学部附属養護学校の遊具の撤去及び設置	7月30日	調査必要なし・慎重工事依頼	
8月1日	施設課長	杉下隆男	工学部屋外配水管布設替工事	8月10日	埋蔵文化財調査について（報告）	00104
9月25日	施設課長	杉下隆男	図書館本館1階便所排水管改修工事	9月26日	調査必要なし・慎重工事依頼	
			四国電力による城北団地構内高圧線敷設工事	10月16日	埋蔵文化財調査について（報告）	00103
10月15日	施設課長	杉下隆男	（城北）総合研究棟新営その他工事	10月17日	調査必要なし・慎重工事依頼	
10月17日	農学部事務長	程内良豊	農学部寄附建物新営工事			00106
11月5日	施設課長	杉下隆男	事務局構内外灯設備移設工事	12月21日	埋蔵文化財調査について（報告）	00107
11月7日	施設課長	杉下隆男	農学部附属農高蒸気管漏改修工事	11月7日	調査必要なし・慎重工事依頼	
11月14日	施設課長	杉下隆男	事務局駐車場整備工事	11月16日	調査必要なし・慎重工事依頼	
12月7日	施設課長	杉下隆男	教育学部附属中学校外灯設備改修工事	12月1日	調査必要なし・慎重工事依頼	
12月10日	教育学部長	金藤泰伸	教育学部3号館屋外排水管破損改修工事	12月11日	調査必要なし・慎重工事依頼	
平成14年1月8日	農学部事務長	程内良豊	農学部暖房配管蒸気漏れ修繕工事	平成14年1月8日	調査必要なし・慎重工事依頼	
1月23日	施設課長	杉下隆男	（城北）総合研究棟（Ⅱ期）新営その他工事（その2）	1月23日	調査必要なし・慎重工事依頼	
2月25日	施設課長	杉下隆男	（溝辺）農学部附属農業高等学校作井設備工事	2月26日	調査必要なし・慎重工事依頼 遺物採集時の連絡依頼	
3月14日	施設課長	杉下隆男	教育学部4号館便所改修電気設備工事			00108
3月19日	施設課長	杉下隆男	（城北）総合研究棟Ⅱ期新営電気設備工事（その2）	3月22日	調査必要なし・慎重工事依頼	
3月19日	施設課長	杉下隆男	（城北）総合研究棟新営電気設備工事	3月28日	調査必要なし・慎重工事依頼	
4月3日	教育学部長	金藤泰伸	教育学部本館北側通路の漏水に伴う復旧工事	4月3日	調査必要なし・慎重工事依頼	
4月5日	施設部長	土居昌弘	（城北）情報教育棟新営工事	1月23日	埋蔵文化財調査について（報告）	00202
4月25日	施設部長	土居昌弘	（城北）総合研究棟等改修工事			00204
4月30日	施設課長	杉下隆男	（城北）総合研究棟新営電気設備工事			00207
5月2日	教育学部長	金藤泰伸	教育学部本館中庭通路の漏水に伴う復旧工事	5月2日	調査必要なし・慎重工事依頼	
5月14日	施設課長	杉下隆男	情報教育棟用地埋蔵文化財発掘調査に伴う土木工事	5月15日 5月28日	調査必要なし・慎重工事依頼 埋蔵文化財調査について（報告）	00203
10月16日	施設課長	杉下隆男	（城北）総合研究棟等改修電気設備工事	10月31日	埋蔵文化財調査について（報告）	00205
11月19日	施設課長	杉下隆男	山越ラグビー場防球ネット取設工事			00208
11月19日	施設課長	杉下隆男	農学部2号館等改修工事（その2）	11月19日	調査必要なし・慎重工事依頼	
11月25日	施設課長	杉下隆男	（城北）引込開閉器設置改修工事	12月18日	調査必要なし・慎重工事依頼	
11月27日	施設課長	杉下隆男	（城北）情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営その他工事（その2）	12月3日	埋蔵文化財調査について（報告）	00206
12月26日	施設課長	杉下隆男	（城北）総合研究棟新営電気・機械設備工事			00209
平成15年1月15日	施設課長	杉下隆男	（城北）情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営電気設備工事	平成15年1月21日	埋蔵文化財調査について（報告）	00210
2月4日	理学部長	柳澤康信	理学部本館から超高圧実験室への水道管埋設工事	2月4日	調査必要なし・慎重工事依頼	
2月14日	施設課長	杉下隆男	共通教育大講義室改修工事	2月19日	調査必要なし・慎重工事依頼	
2月18日	理学部長	柳澤康信	理学部給水管引込替移設工事	2月18日	調査必要なし・慎重工事依頼	
2月24日	施設課長	杉下隆男	（城北）総合研究棟等改修電気設備工事	3月7日	埋蔵文化財調査について（報告）	00211

の発掘調査によっては、報告書刊行計画に変更もあり得ることが報告された。また、四国電力による電柱設置工事に伴う調査と、農学部寄附建物新営工事に伴う調査に関して、経緯と対応が報告された。さらに、埋蔵文化財展示施設計画案と、出土品等収蔵施設の設置についても報告された。

（２）　2002年度埋蔵文化財調査委員会

７月10日に開催され、2001年度の実施事業と会計が報告され、了承された。また、2002年度事業計画と予算についても、異議なく了承された。

その他の議題として、「独立行政法人化に向けての組織目標」が取り上げられ、遺跡の価値評価と利活用、市民への公開、さらには文化財活用研究と外部との事

業連携等を進めるにあたり、遺跡の保存・研究に関する定めのない調査室設置要項、さらには委員会規程の見直しも含めた検討が提起された。埋蔵文化財活用については、グリーンゾーン問題を含めたキャンパス整備とも関わり、しかるべき場所において検討する必要があることが確認され、埋蔵文化財調査室の位置づけについても、必要に応じた検討が埋蔵文化財調査委員会において行われることが確認された。　（吉田）

2　発掘調査

埋蔵文化財調査室では、愛媛大学構内における地盤掘削を伴う工事に際して、規模の大小にかかわらず、工事内容の報告を伴った、埋蔵文化財発掘調査の可否及び実施の依頼を受け、工事による埋蔵文化財への影響を判断し、対応を行っている。具体的には、既往の調査成果に基づき、埋蔵文化財への影響がないと判断できる場合は、調査の必要なしとして慎重工事を依頼し、影響ありと判断される場合は、工事規模・影響の度合いに応じて、立会調査あるいは本格調査を行うことになる。あるいは、工事による埋蔵文化財への影響について判断が難しい場合は、試掘調査を行い、工法変更等の調整を図ることもある（Ⅳ・図48参照）。

2001・2002年度には、38件の依頼を受け（表２）、先年度依頼分等を含めた19件に関して調査を行った（表３・図１～３）。

（１）　2001年度の発掘調査

2001年度は、2000年度から継続の１件の本格調査（文京遺跡21次）と、新たに城北団地で２件（文京遺跡23次・同24次）、樽味団地で１件（樽味遺跡６次）の本格調査を行った。また小規模調査として、城北団地で４件の立会調査他、樽味団地で１件の試掘調査を行っている。合計調査面積は、1,880㎡に及び、出土遺物はコンテナ95箱に達する。

（２）　2002年度の発掘調査

2002年度は、城北団地で２件の本格調査（文京遺跡25次・同26次）と、樽味団地で１件の本格調査（樽味遺跡７次）を行った。また小規模調査は、城北団地で６件の立会調査と１件の試掘調査、山越団地で１件の確認調査を行っている。合計調査面積は1,433㎡に及び、出土遺物数はコンテナ148箱に及ぶ。　（吉田）

表３　2001・2002年度の発掘調査一覧

調査番号	遺跡	次数	調査略号	団地	工事名	調査形式	調査担当	面積（㎡）	調査期間	遺物（箱）
00101	文京			城北	同窓会連合会による五葉松移植工事	－	吉田・三吉	3	20010509	－
00102	樽味			樽味	農学部寄附建物新営予定	試掘	吉田・三吉	16	20010607	－
00103	文京	23次	BNK23	城北	四国電力による城北団地構内高圧線敷設工事	本格	吉田・三吉	17	20010626～20010709	10
00104	文京			城北	工学部屋外給水管布設替工事	立会	吉田・三吉	1	20010801	－
00105	文京	24次	BNK24	城北	（城北）総合研究棟新営（Ⅱ期）工事	本格	吉田・三吉	640	20011001～20020326	80
00106	樽味	６次	TRM６	樽味	農学部寄附建物新営工事	本格	田崎	1205	20011115～20020206	5
00107	文京			城北	事務局構内外灯設備移設工事	立会	吉田	6	20011121～20011127	－
00108	文京			城北	教育学部４号館便所改修電気設備工事	立会	田崎	2	20020326	－
00201	樽味	７次	TRM７	樽味	農学部２号館改修工事	本格	田崎	170	20020403～20020523	30
00202	文京	25次	BNK25	城北	（城北）情報教育棟新営工事	本格	吉田・三吉	1022	20020603～20021218	100
00203	文京			城北	（城北）情報教育棟用地埋蔵文化財調査に伴う土木工事	立会	吉田・三吉		20020515～20020517	－
00204	文京	26次	BNK26	城北	（城北）総合研究棟等改修工事	本格	田崎	145	20020719～20020809	14
00205	文京			城北	（城北）総合研究棟等改修電気設備工事	立会	田崎	3	20021021	－
00206	文京			城北	（城北）情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営その他工事（その２）	試掘	田崎	1	20021127	－
00207	文京			城北	（城北）総合研究棟新営電気設備工事	立会	田崎	2	20021129	－
00208	山越			山越	山越ラグビー場防球ネット取設工事	確認	田崎	65	20021225～20021226	3
00209	文京			城北	（城北）総合研究棟新営電気・機械設備工事	立会	田崎	3	20030123～20030129	1
00210	文京			城北	（城北）情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営電気設備工事	立会	吉田	1	20030115	－
00211	文京			城北	（城北）総合研究棟等改修電気設備工事	立会	田崎・三吉	2	20030303～20030304	○

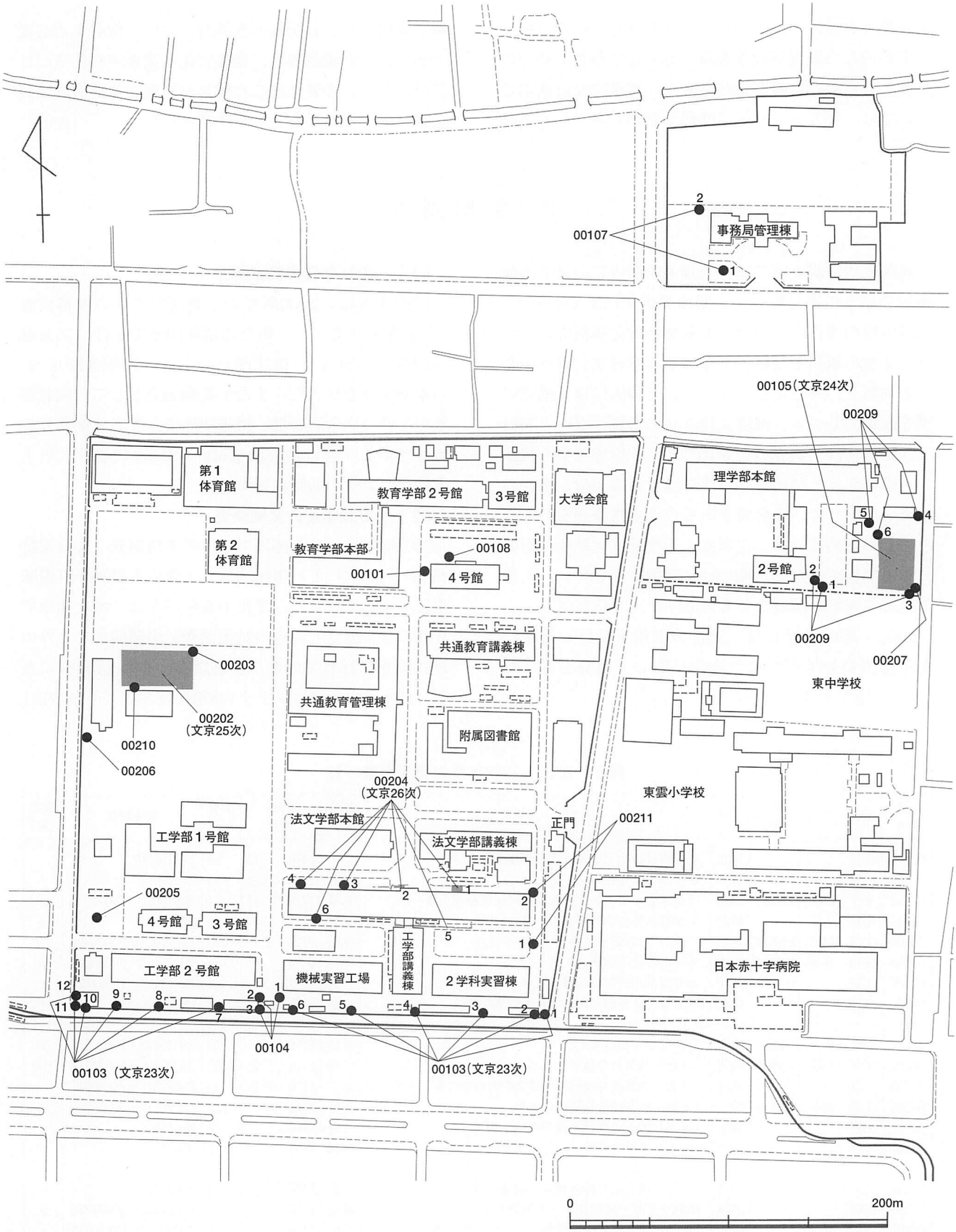


図１　2001・2002年度城北団地調査地点位置図（縮尺 1/3,500）

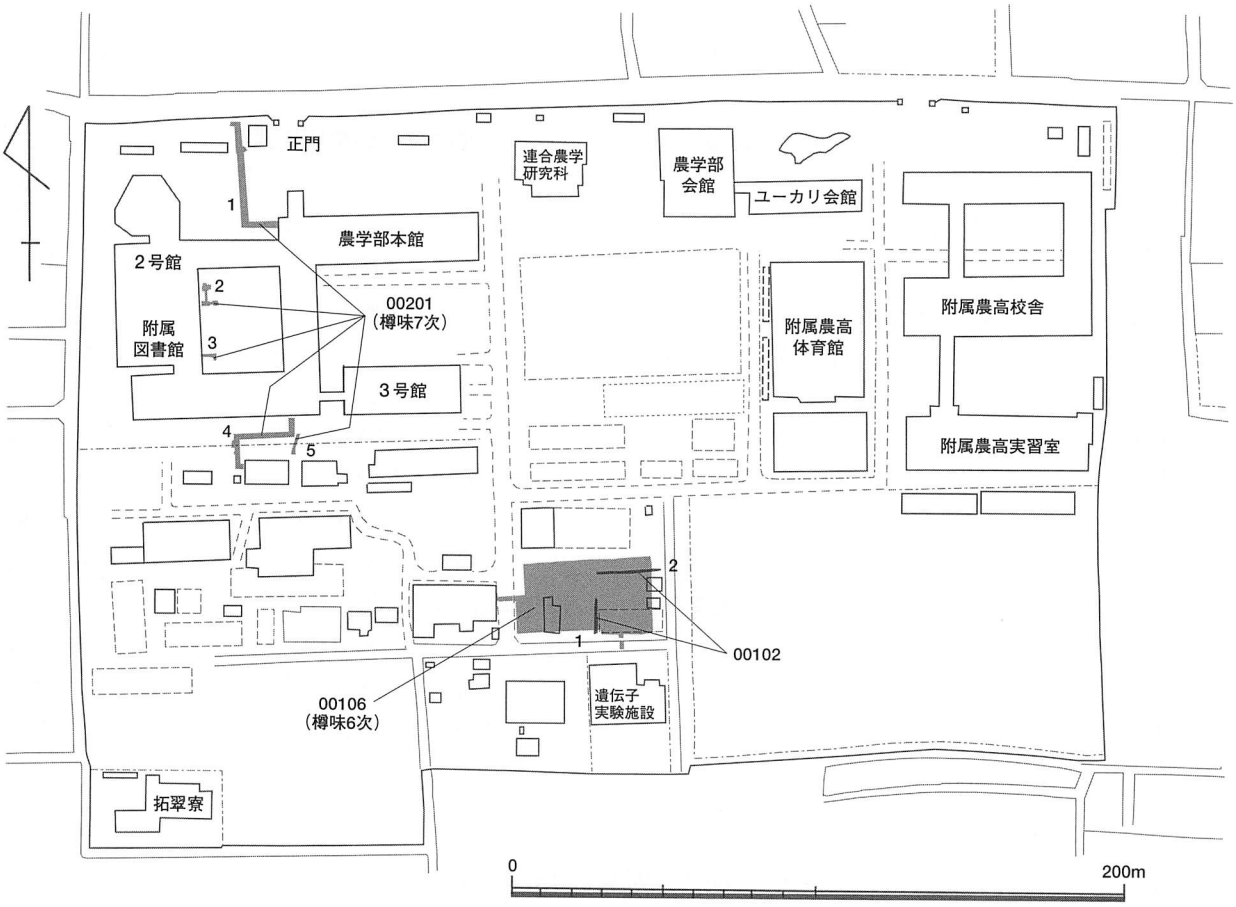


図２　2001・2002年度樽味団地調査地点位置図（縮尺 1/2,500）

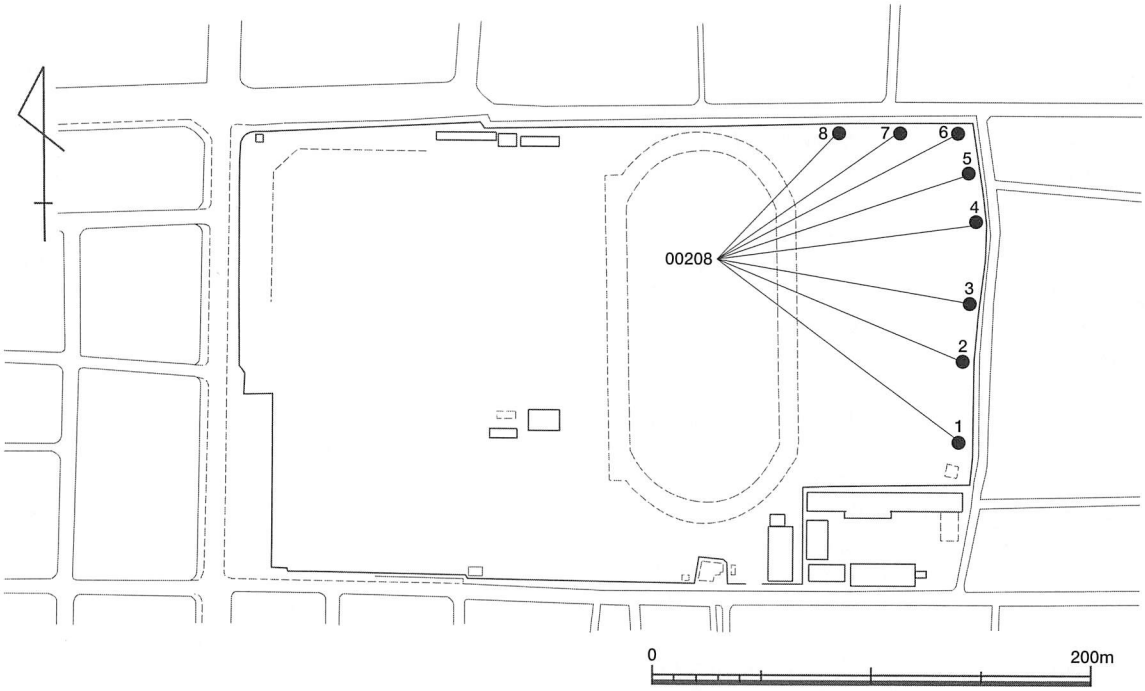


図３　2001・2002年度山越団地調査地点位置図（縮尺 1/3,500）

3　整理作業

調査での出土遺物については、報告書刊行に向けた整理作業を鋭意進めている（表４）。

（１）　2001年度の整理作業

2001年度には、施設部技能補佐員として６名が、出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業と水洗土壌からの微細遺物選別作業にあたり、施設部技術補佐員１名が、出土遺物の実測・製図作業を行った。

洗浄・注記・接合・復元を行ったのは、1999年度の文京遺跡20次調査出土コンテナ100箱と、1998年度の樽味遺跡５次調査30箱である。

水洗土壌からの微細遺物選別は、1994年度の文京遺跡12次調査100箱と、1997年度の樽味遺跡４次調査、同５次調査の、各10箱を行った。

実測・製図は、樽味遺跡５次調査の30箱と、1994年度と1997年度に実施した桑原西稲葉遺跡３～５次（北吉井団地）調査の10箱を行った。

（２）　2002年度の整理作業

2002年度には、施設部技能補佐員として６名が、出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業と水洗土壌からの微細遺物選別作業にあたり、施設部技術補佐員２名が、出土遺物の実測・製図作業を行った。

洗浄・注記・接合・復元は、文京遺跡20次調査出土の100箱、2000年度の文京遺跡21次調査の181箱、2001年度の文京遺跡23次調査の10箱、同24次調査の80箱、樽味遺跡６次調査の５箱について行った。

水洗土壌からの微細遺物選別は、文京遺跡12次調査100箱と、1995年度の文京遺跡13次調査の20箱、文京遺跡20次調査の30箱を行った。

実測・製図は、樽味遺跡４次調査の30箱と、文京遺跡13次調査の200箱の一部、さらに2001年度の樽味遺跡６次調査の５箱を行っている。　（吉田）

表４　2001・2002年度の整理作業一覧

	調査番号	遺跡名　次数	工　事　名	調査担当	面積（㎡）	調査期間	遺物（箱）
2001年度	① 出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業						
	99910	文京20次	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー新営工事	吉田・三吉	588	20000214～20000620	100
	99807	樽味５次	遺伝子実験施設新営その他工事	吉田	979	19990316～19990721	30
	② 水洗土壌からの微細遺物選別作業						
	99410	文京12次	工学部校舎新営（Ⅰ期）工事	田崎	1183	19941110～19950726	100
	99712	樽味４次	農学部附属農業高等学校校舎新営工事	吉田・三吉	1168	19971125～19980204	10
	99807	樽味５次	遺伝子実験施設新営その他工事	吉田	979	19990316～19990721	10
	③ 出土遺物の実測・製図作業						
	99807	樽味５次	遺伝子実験施設新営その他工事	吉田	979	19990316～19990721	30
	99401	桑原西稲葉３次	東長戸他環境整備工事に伴う駐車場整備の配管設置工事	田崎	55	19940510～19940518	5
	99710	桑原西稲葉４次	北吉井宿舎屋外排水管改修工事	吉田・三吉	110	19971008～19971031	4
	99711	桑原西稲葉５次	北吉井宿舎屋外ガス管改修工事	吉田・三吉	32	19971112～19971118	1
2002年度	① 出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業						
	99910	文京20次	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー新営工事	吉田・三吉	588	20000214～20000620	100
	00003	文京21次	（城北）総合研究棟新営（Ⅰ期）工事	田崎	1644	20010115～20010909	181
	00103	文京23次	四国電力による城北団地構内高圧線敷設工事	吉田・三吉	17	20010626～20010709	10
	00105	文京24次	（城北）総合研究棟新営（Ⅱ期）工事	吉田・三吉	640	20011001～20020326	80
	00106	樽味６次	農学部寄附建物新営工事	田崎	1205	20011115～20020206	5
	② 水洗土壌からの微細遺物選別作業						
	99410	文京12次	工学部校舎新営（Ⅰ期）工事	田崎	1183	19941110～19950726	100
	99506	文京13次	地域共同研究センター新営工事	田崎	890	19951017～19960412	20
	99910	文京20次	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー新営工事	吉田・三吉	588	20000214～20000620	30
	③ 出土遺物の実測・製図作業						
	99712	樽味４次	農学部附属農業高等学校校舎新営工事	吉田・三吉	1168	19971125～19980204	30
	99506	文京13次	地域共同研究センター新営工事	田崎	890	19951017～19960412	(200)
	00106	樽味６次	農学部寄附建物新営工事	田崎	1205	20011115～20020206	5

4　印刷物の刊行

埋蔵文化財調査室では、『年報』を定期的に刊行するとともに、正式報告書の作成を継続している。また、一般向け広報パンフレット等も、作成刊行している。

（1）　2001年度の印刷物

2001年度に編集・刊行した印刷物は２件。

『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1997･1998年度－』愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅷ

Ａ４版・本文110頁・付図１枚・1,000部

広報パンフレット『発掘　愛媛大学』（改訂版）

Ａ４版（見開き折り込み）・10,000部

（2）　2002年度の印刷物

2002年度に編集・刊行した印刷物は２件。

『樽味遺跡Ⅳ－樽味遺跡４次調査・樽味遺跡５次調査・桑原西稲葉遺跡３～５次（北吉井団地）調査－』愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅸ

Ａ４版・本文197頁・図版44枚・1,000部

『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1999・2000年度－』愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅹ

Ａ４版・本文90頁・1,000部

なお、2002年度には、2000年度刊行の『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1995・1996年度－』と、2001年度刊行の『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1997・1998年度』を、学内はもとより、全国さらには海外へ、合計約600箇所に発送した。　（吉田）

5　広報・資料の利活用

埋蔵文化財調査の進展により、調査成果に対する学内外からの関心が高まり、埋蔵文化財調査室でも、これに応えるべく、調査成果や埋蔵文化財調査室に関する広報活動を試みている。作成した広報パンフレットの配布であったり、本格調査の際の現地説明会開催等である。さらに、2001年度には初めての試みとして、体験発掘を開催した。保管資料および成果物の公開・活用は、さらに積極的に図っていく必要があり、埋蔵文化財調査室ホームページの開設準備も鋭意進めているところである。

一方、学内外から出土資料に関する調査や借用の依頼が多く寄せられるようにもなっている。教材資料としての利用・借用依頼、学生・研究者の研究資料としての調査依頼、博物館等からの出展依頼等である。埋蔵文化財調査室では、それぞれの要望に対し調整を図りながら、個別に対応している（表５）。

（1）　2001年度の広報・資料の利活用

①　広報パンフレット『発掘　愛媛大学』の配布

1997年度に10,000部作成した広報パンフレットは、全学教職員に配布し、以後関連シンポジウムや現地説明会の機会、そして新入学生・新教職員に配布してきた。ところが、2001年度新入学生・新教職員に配布するに及んで、部数が不足していることが判明し、2001年度新入学生に対しては、最も関連深い法文学部新入学生のみを対象とした配布に留まらざるを得なかった。

②　現地説明会

2001年度中に実施した２件の本格調査に伴って、現地説明会を開催した。

１件は、2000年度から継続していた文京遺跡21次調査においてで、2001年５月12日㈯に開催し、約200名の参加があった。もう１件は、文京遺跡24次調査で、2002年１月12日㈯に開催し、愛媛県内外から、約200名の参加を得た（写真１）。

写真１　00105調査（文京遺跡24次）現地説明会

表５　2001・2002年度の資料利用一覧

	月　日	利　用　者	目　　的	利用資料	内　容
2001年度	5月25日	松山市立湯築小学校６年１組(33名)	体験発掘	文京遺跡21次調査現場・調査室	体験発掘・見学
	5月23日	松山市立湯築小学校６年２組・３組(65名)	体験発掘	文京遺跡21次調査現場・調査室	体験発掘・見学
	5月24日	松山市立東雲小学校６年１組・２組(53名)	体験発掘	文京遺跡21次調査現場・調査室	体験発掘・見学
	7月４日	愛媛大学法文学部教官(１名)	教材利用	文京遺跡10次調査出土弥生土器	借用
	7月４日	愛媛大学法文学部教官(１名)	教材利用	鷹子遺跡・樽味遺跡１次調査出土中世土器	借用
	7月23日	松山市埋蔵文化財センター調査員(１名)	個人研究の資料調査	文京遺跡14次調査出土弥生土器	熟覧
	7月30日	愛媛大学法文学部大学院生(１名)	個人研究の資料調査	鷹子遺跡出土弥生土器	熟覧・実測
	9月10日	京都大学文学部学生(１名)	卒業論文作成の資料調査	文京遺跡10次調査出土の石器	実測・写真撮影
	11月22日	松山市考古館学芸員(１名)	特別展打ち合わせ・図録掲載	文京遺跡出土石器・弥生土器・鏡・石製指輪ほか、同写真資料	打ち合わせ・借用
	12月３日	出雲市教育委員会職員(１名)	個人研究の資料調査	文京遺跡出土の弥生土器ほか	熟覧
	12月４日	愛媛大学法文学部学生(１名)	卒業論文作成の資料調査	樽味遺跡３次調査出土の土師器	熟覧・実測
	12月４日	松山市考古館学芸員(１名)	特別展開催	文京遺跡出土石器・弥生土器・鏡・石製指輪ほか	借用
	12月19日	奈良文化財研究所研究員(１名)	個人研究の資料調査	文京遺跡出土の弥生土器	熟覧
	2002年				
	1月30日	東京大学文学部大学院生･学生(５名)	個人研究の資料調査	文京遺跡出土の弥生土器ほか	熟覧
	2月６日	宮崎県埋蔵文化財センター職員(３名)	西畦原１遺跡関連の資料調査	文京遺跡出土の弥生土器	熟覧
	2月８日	松山市考古館学芸員(１名)	特別展開催	文京遺跡10次調査出土銅鏡・24次調査出土銅鏡写真	借用
	2月13日	奈良女子大学文学部大学院生(１名)	個人研究の資料調査	文京遺跡出土の中世土器ほか	熟覧
	2月20日	横浜市在住個人(１名)	個人研究	文京遺跡24次調査現地説明会資料	資料請求
	2月22日	徳島県埋蔵文化財調査センター職員(１名)	個人研究の資料調査	文京遺跡出土の縄文土器	熟覧
	3月８日	愛媛大学法文学部教官(１名)	教材利用	文京遺跡出土の石器	借用
	3月18日	大手前女子大学教官(１名)	個人研究の資料調査	文京遺跡24次調査出土銅鏡	熟覧
	3月26日	出雲市教育委員会職員(１名)	斐伊川放水路発掘調査報告書作成に伴う資料調査	文京遺跡出土の弥生土器	熟覧
2002年度	4月９日	愛媛大学法文学部教官(１名)	教材利用	文京遺跡10次調査出土弥生土器	借用
	4月10日	愛媛大学法文学部教官(１名)	教材利用	文京遺跡10次調査出土石器	借用
	4月17日	愛媛大学法文学部教官(１名)	教材利用	文京遺跡10次調査出土弥生土器	借用
	5月８日	松山市埋蔵文化財センター調査員(１名)	個人研究の資料調査	文京遺跡14次調査・鷹子遺跡出土弥生土器	熟覧
	4月30日	愛媛大学法文学部教官(１名)	印刷物への掲載	文京遺跡24次調査出土銅鏡写真	借用
	5月28日	愛媛大学法文学部教官(１名)	教材利用	文京遺跡11次調査出土縄文土器	借用
	5月30日	愛媛大学法文学部大学院生(５名)	資料見学	文京遺跡10次・24次調査出土銅鏡	熟覧
	5月30日	放送大学愛媛学習センター所長(１名)	見学	埋蔵文化財調査室	見学
	6月６日	愛媛大学法文学部教官(１名)	講演資料	文京遺跡調査スライド	借用
	6月24日	愛媛大学法文学部教官(１名)	個人研究の資料調査	文京遺跡24次調査出土縄文土器	借用
	7月５日	京都大学文学部教官･学生(25名)	資料見学	文京遺跡25次調査現場・調査室・文京遺跡出土資料	見学
	8月７日	下関市立考古博物館	図録掲載	文京遺跡10次調査出土資料写真	借用
	8月28日	愛媛県立歴史文化博物館学芸員(２名)	特別展開催	文京遺跡出土石器・弥生土器・鏡・石製指輪ほか	借用
	9月19日	宇和町教育委員会職員ほか(10名)	発掘現場見学	文京遺跡25次調査現場	見学
	10月15日	愛媛大学法文学部学生(１名)	卒業論文作成の資料調査	文京遺跡18次調査出土土器	熟覧・実測
	11月20日	東京大学文学部大学院生(１名)	個人研究の資料調査	文京遺跡11次調査出土縄文土器	実測・写真撮影
	12月４日	松山市教育委員会職員(１名)	個人研究の資料調査	文京遺跡25次調査出土土器	熟覧
	2003年				
	2月６日	古代学協会職員(１名)	個人研究の資料調査	文京遺跡出土石器	熟覧・写真撮影
	2月６日	熊本市教育委員会職員(１名)	個人研究の資料調査	文京遺跡出土資料	熟覧
	2月17日	愛媛県埋蔵文化財調査センター職員(１名)	個人研究の資料調査（デジタル化）	文京遺跡シンポジウム資料	借用
	3月３日	㈱新人物往来社	出版物への掲載	文京遺跡出土資料写真	借用

③　体験発掘

2001年度に実施した文京遺跡21次調査・24次調査は、理学部構内南東隅に位置し、すぐ南側に松山市立東中学校・松山市立東雲小学校がある。また、発掘調査排土を構外搬出するために、東側道路に仮設搬出口を設けており、ちょうどこの道路が、2001年３月の芸予地震で東雲小学校に仮移転していた松山市立湯築小学校児童の通学路にあたっていた。このような状況から、興味をもった湯築小学校および東雲小学校からの依頼によって、初めての試みとして、小学生の体験発掘を実施することとなった。

具体的には、授業時間内でクラス単位で受け入れ、発掘調査現場で調査員・作業員の指導によりながら発掘作業を体験するとともに、埋蔵文化財調査室でも、その後の整理作業を調査員・技能補佐員の説明によりながら見学し、出土遺物に直接触れる機会を設けた。

写真２　体験発掘（発掘作業）

写真３　体験発掘（遺物見学）

日程と参加人数は以下の通り。

５月25日；松山市立湯築小学校６年１組 33名

５月28日；松山市立湯築小学校６年２・３組65名

６月１日；松山市立東雲小学校６年１・２組 53名

１クラス30人前後、時間も１時間弱での発掘作業体験・調査室見学と過密スケジュールであったが、小学生には初めての体験として、興味深い時間であったようだ。また、発掘現場作業員にとっても、孫世代との交流の機会として、有意義な時間であったらしい（写真２・３）。このような体験発掘に関する反応については、参加者の感想や質問、さらに質問に対する答えなどを盛り込んで、『文京遺跡～体験発掘の思い出～』とした小冊子にまとめた（写真４）。

④　資料の利活用

2001年度には、学内から５件（教官３件、学生２件）、学外から17件（個人９件、教育委員会等２件、博物館等３件、体験発掘３件）の依頼に対応した。学内では、教官による教材資料として利用と、学生による卒業論文等における資料調査である。学外者についても、東京大学・京都大学・奈良女子大学・大手前大学等の教官・学生による、個人研究の調査依頼が多い。また、宮崎県埋蔵文化財センター・出雲市教育委員会のように、関連資料調査に伴う職員派遣依頼を受け入れたものもある。特別展等に際しての資料借用等は、松山市考古館からの３件があった。

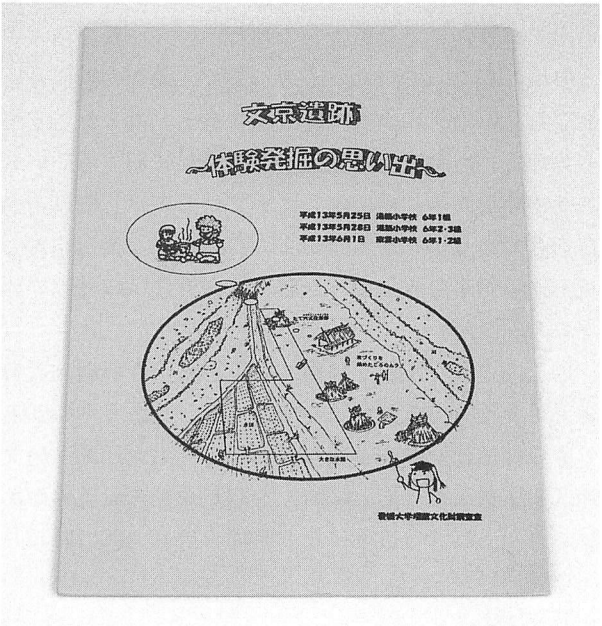


写真４　『文京遺跡～体験発掘の思い出～』

（２） 2002年度の広報・資料の利活用

① 広報パンフレット『発掘　愛媛大学』の配布

先記したように、部数に不足をきたしたため、2001年度中に改訂版を作成し、これを７月に、改めて全学教職員に対して配布を行った。

② 現地説明会

2002年度中に実施した１件の本格調査に伴って、現地説明会を開催した。

文京遺跡25次調査の下層水田完掘後、2002年10月26日㈯の開催である。当日は小雨が残り足元も悪いところながら、約50名の参加があった。

③ 『愛媛大学報』への掲載

文京遺跡25次調査について『愛媛大学報』472（2003.１）に、その調査概要を掲載した。

④ 資料の利活用

2002年度には、学内から９件（教官７件、学生２件）、学外については12件（個人７件、団体見学２件、博物館等２件、出版社１件）の依頼に対応した。学内は、やはり教官による教材資料としての利用と、学生による資料調査である。学外についても、東京大学・京都大学等の教官・学生や、古代学協会や熊本市教育委員会等、全国からの研究用の資料調査依頼が多い。また、特別展等への出展依頼として、愛媛県立歴史文化博物館と下関市考古博物館の２件があり、商業出版物への掲載依頼も１件あった。（吉田）

6　資料の保管

愛媛大学埋蔵文化財調査室保管の資料は、1999年度において既にコンテナ約2,500箱を超え、現有の旧統合車庫や調査室南側の２棟のプレハブ倉庫の収蔵スペースも飽和状態にあった。また、調査がなお継続される状況からは、早晩3,000箱を超えることも予測された。しかも、保管資料の多くが、発掘作業は終了しているものの、文京遺跡で12次調査以降、樽味遺跡でも４次調査以降の調査について、出土資料の整理・報告書の刊行をなし得ていない、未報告資料の累積である。膨大な資料数は、その整理作業スペースすら圧迫する状況にあり、早急な報告書の刊行という命題を阻害する要因ともなっていた。その一方で、調査の進展と新たな知見の増大によって、既報告あるいは未報告資料も含めて、埋蔵文化財調査室保管資料に関する問い合わせや利用の申請が増加してきているのは、先に述べた通りである。しかしながら、このような要望に対して迅速に対応できるような収納・保管にはほど遠い状況にあった。

以上のような現状を解消すべく、新たな収蔵施設の設置を要望してきたところであったが、ようやく2001年度埋蔵文化財調査委員会において、城北団地（樋又地区）事務局圃場あとに新たな収蔵施設の設置案が承認された。実際の設置はなお時間を要し、2001年12月に収蔵施設は竣工した。土間コンクリートのプレハブ平屋建、規模は5.4ｍ×7.2ｍの、床面積38.9㎡である。文京遺跡12次調査と14次調査出土資料を中心に、約800箱の資料を収納した。

それでも700箱近くが調査室内に残り、写場に資料があふれ、整理スペースを圧迫する状況はなお解消されていない。とりわけ、報告書掲載用の遺物写真の撮影スペースの確保が困難な状況である。さらに、2002年３月に文京遺跡24次調査が終了すると、発掘調査資材の一部も収蔵施設内に保管することになった。文京遺跡21次調査以後、調査現場から調査現場へと移動していたため、それ以前の共通教育大講義棟下の収納スペースが使用できなくなったためである。結果、出土資料を保管すべき収蔵施設内に、雨露を避けなければならない発掘資材の一部が持ち込まれ、通路部分にまで資材があふれ、収蔵施設屋外には、一部発掘資材を仮置きしなければならない状況である。

2002年度末で出土資料総数は2,900箱を超えた。そして、新たに発掘資材の保管場所をも確保すべき状況にある。2003年度以降、収蔵施設の設置が改めて必要である。（吉田）

Ⅱ　2001年度の調査報告

00101　同窓会連合会による五葉松移植工事に伴う調査

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地（図１）
調査面積　３㎡
調査期間　2001年５月９日
調査担当　吉田広・三吉秀充
文　　書　総務部企画室発事務連絡（報告）
　　（平成13年４月26日付）

１　調査にいたる経緯

教育学部本館玄関前・教育学部４号館の西側に、松の移植工事が行われていることに気がついた。ところが、この工事に関しては、埋蔵文化財調査室は何ら連絡を受けていないことから、まず施設部企画課を通じて、工事主体および内容についての問い合わせを行った。その結果、同窓会連合会による学外からの松移植工事であり、その場所の選定等にあたっては、総務部企画室がこれを担当したことが判明した。埋蔵文化財調査室では、総務部企画室から、その経緯・工事内容等について口頭で説明を受けるとともに、事務連絡文書（報告）の提出を受けた。

本来なら、工事前に埋蔵文化財調査室に工事内容が提示され、埋蔵文化財との調整を図り、工法変更あるいは立会調査の処置が講じられるべきところだが、既に移植工事は完了してしまっている。したがって、埋蔵文化財への影響・地下の現状については、直接確認することができない。

このような状況に対して、埋蔵文化財調査室では、先に提出を受けた総務部企画室からの報告と、工事後の現状確認に基づいて、事後の調査として報告を行うこととした。

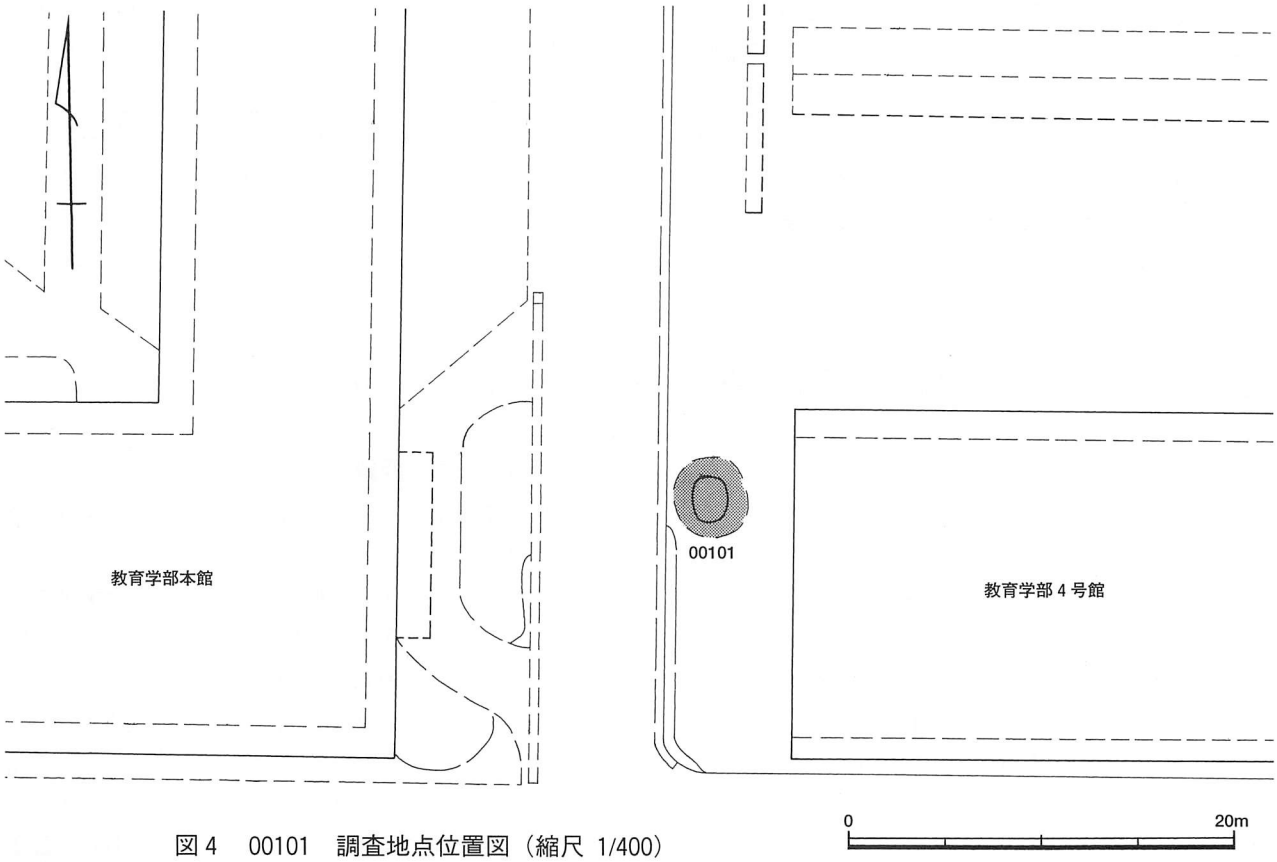


図４　00101　調査地点位置図（縮尺 1/400）

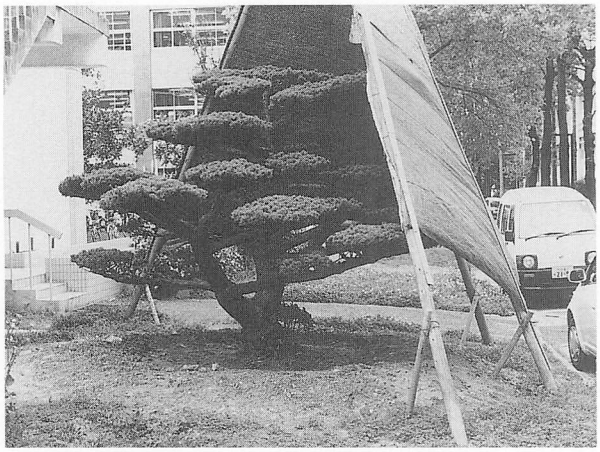


写真５　00101調査区（北から）

２　調査の記録（図４、写真５）

工事地点は図４に示すように、教育学部本館玄関前、教育学部４号館の西側の植栽中である。移植された松は、根周り径約40㎝で、その周囲南北約2.5ｍ・東西約２ｍの楕円形に窪む。おそらくこの範囲が掘削範囲と推定され、凹部を囲むように周堤状に土が盛られている。掘り返された土の中には、土器他の遺物は認められず、城北団地基本層序Ⅲ層に相当する土塊も見あたらない。

総務部企画室からの報告によると、掘削深度は地表下70㎝である。また、その深度決定にあたって総務部企画室は、施工業者から、表土層内での掘削に留め、未攪乱土層に到っていないことを、現地で確認を求められたという。一方、周辺の既往の調査成果（調査番号：99902-10～12）から、掘削地点での地表下70㎝では、遺物包含層であるⅢ層に達していた可能性は低い。掘り返された土層の状況も、このことを示唆する。したがって、今回の移植工事地点では、地表下70㎝では遺物包含層であるⅢ層には達していない可能性が高い。ただし、その地表下70㎝が、教育学部４号館建設に伴う余掘埋め戻し土なのか、そうでないのか、あるいは近代以前の水田土層である城北団地基本層序Ⅱ層を含んでいたのかは不明である。

３　調査の問題点

今回の調査は、事後の追跡調査でしかなく、このこと自体が大きな問題である。原因は、大学構内の埋蔵文化財調査に対する周知が徹底していなかったことにある。立会調査を必要とするような小規模掘削工事や営繕工事については、年度毎に各部局から施設部企画課に集約し、それら一つ一つについて、埋蔵文化財調査室が工事による埋蔵文化財への影響に応じて、対応してきた（Ⅳ・図48参照）。それでも年度末の頃には、急遽、工事計画が立ち上がることもあり、これらにも鋭意対応してきた。

しかし、今回の場合、工事を主管した部局が総務部企画室と、これまで埋蔵文化財に関わることのほとんどなかった部局であり、実際、施工業者から現地確認を求められた時点で初めて埋蔵文化財について意識したと言う。学部単位の部局に限らず、より広く全学的に、埋蔵文化財の周知徹底が図られなければならない。なお、この周知徹底については、報告とあわせて、埋蔵文化財調査室室長から施設部長宛に、改めて依頼したところである。　（吉田・三吉）

00102　農学部寄附建物新営予定に伴う調査

調査地点　松山市樽味町３丁目５番地
　　愛媛大学樽味団地（図２）
調査面積　16㎡
調査期間　2001年６月７日
調査の種別　試掘調査
調査担当　吉田広・三吉秀充
依頼文書　農学部事務長発事務連絡
　　（平成13年５月30日付）

１　調査にいたる経緯

愛媛大学農学部は、寄附講座の充実拡大と環境分野研究の発展のために、研究施設の寄附を受け容れることとなった。予定地は、樽味団地の遺伝子実験施設北側で、埋蔵文化財調査の対象となる掘削範囲は、本体工事部分だけでも800㎡を超えることが予想される。

ところが、外部資金導入という形での工事計画で、寄附講座更新に併せた設備拡充という意向から、年度内の建物竣工が強く促された。しかし、埋蔵文化財調査室の年度計画には存在しなかった案件であり、しか

も、埋蔵文化財調査室はこの時点で、城北団地において総合研究棟新営工事（Ⅰ期）に伴う調査を実施中であり、さらに引き続いて同新営工事（Ⅱ期）に伴う埋蔵文化財調査を８月ないし９月から予定しているところでもあった。

加えて、建設予定地周辺では、樽味遺跡５次調査（調査番号：99807）や小規模調査を行い、埋蔵文化財の存在は確認されているものの、その密度に関するデータは充分をもち得ていなかった。そこで、埋蔵文化財調査に要する時間・費用等をより正確に算出して調査日程を策定するために、寄附建物建設予定地内を事前に試掘調査し、埋蔵文化財の分布状況をより正確に把握することとした。

2　調査の記録

調査時点で、寄附建物建設予定地が正確に決定しておらず、また既存の温室やミカン苗木の植栽などによって、掘削可能範囲は限られている。その中で、比較的長い調査区の設定が可能な場所を選んで、トレンチを設定した。遺伝子実験施設玄関前のガラス温室西側に南北方向の１トレンチ、ガラス温室とライシメータの間に東西方向の２トレンチである（図５）。なお今回の調査では、建物設計との関連において、既設管路の位置・深さの確認も行っている。

［１トレンチ］（図６下、写真６・７）

ガラス温室西側の、幅１ｍ前後・長さ約11ｍの南北方向のトレンチである。

無作為に埋設された散水用塩ビ管に苦慮しながら掘削を行った結果、トレンチ南端で樽味団地基本層序Ⅲ層を一部検出した。深度は地表下64㎝である。ただし、その範囲は南端の一部に限られ、しかも島状に分断されている。攪乱による断面から、Ⅲ層の厚さは10㎝前後とみられる（写真７）。

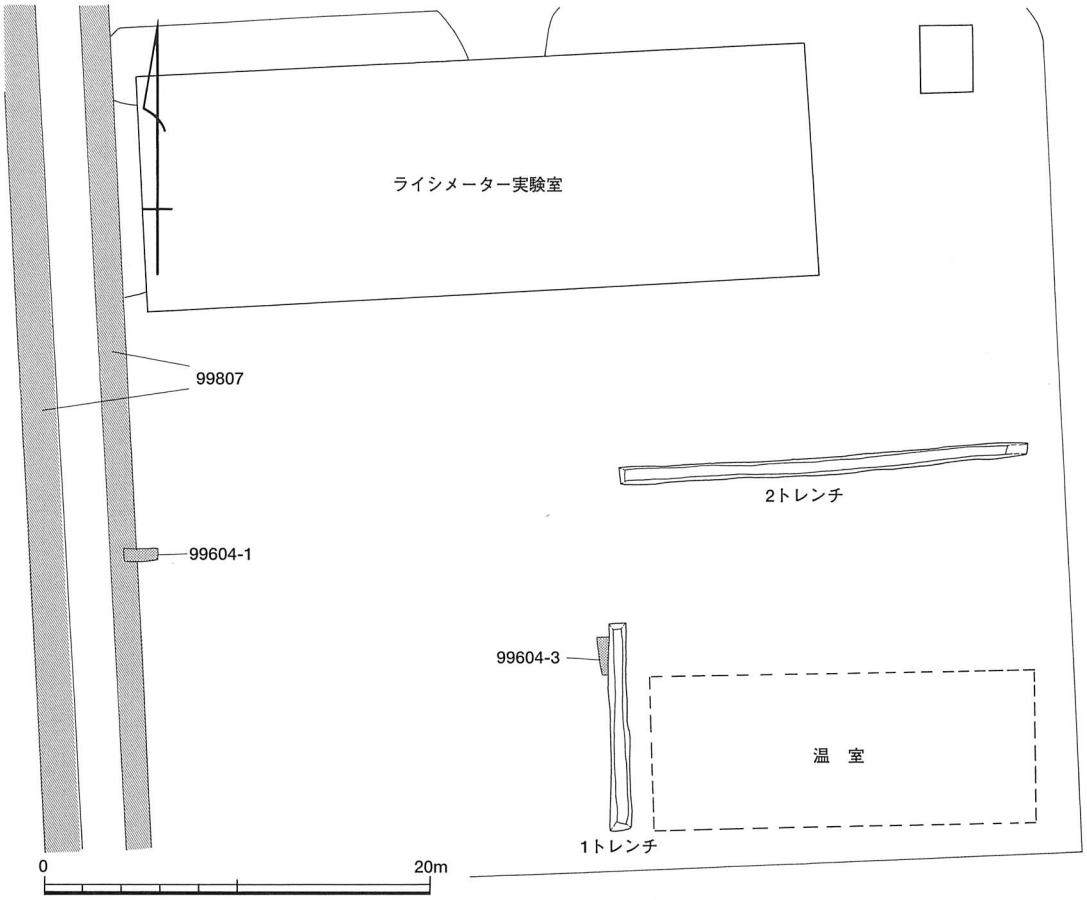
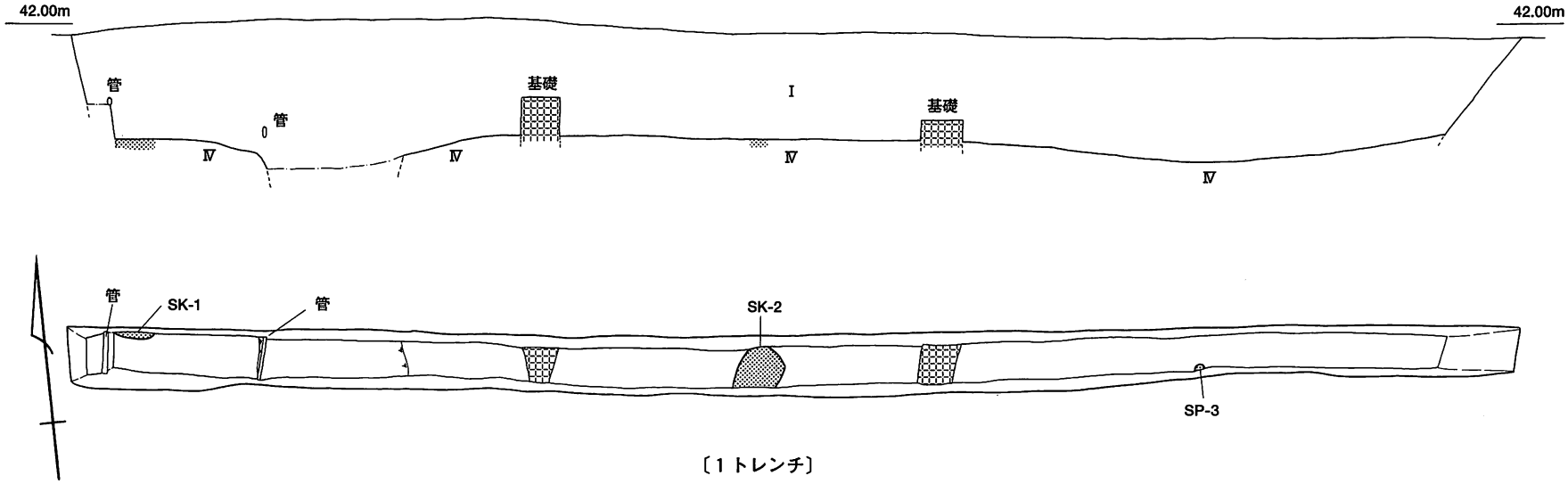
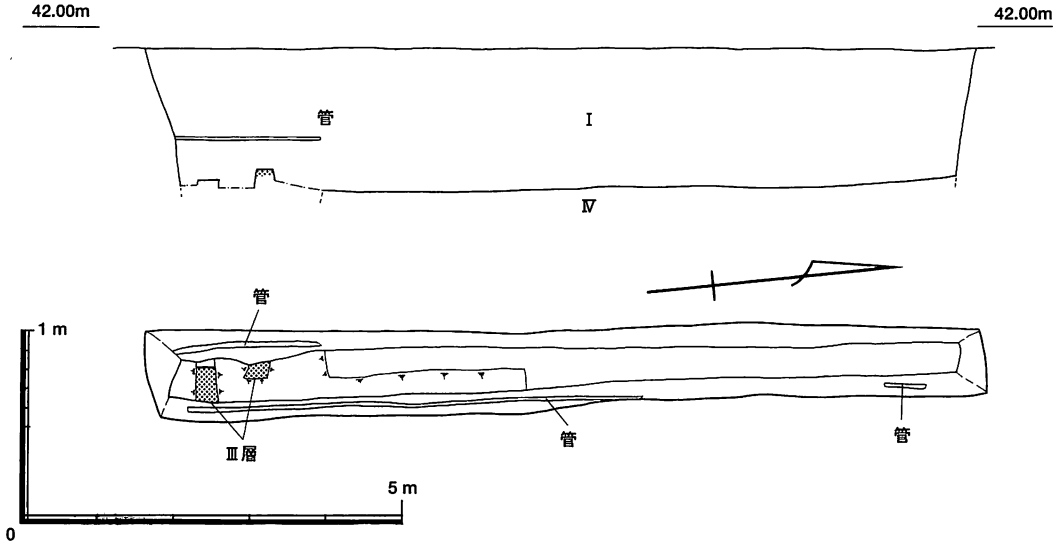


図５　00102調査１・２トレンチ位置図（縮尺 1/400）

〔2トレンチ〕



〔1トレンチ〕



1トレンチ
Ⅲ層：黒褐色（10YR2/2）砂質土。

2トレンチ
SP-1：黒褐色（10YR2/2）シルト。砂礫は含まない。
SK-2：黒褐色（10YR2/2）シルト。明褐色（2.5Y7/6）シルトの凸レンズ状ブロックを含む。砂礫は含まない。
SP-3：にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト。砂礫は含まない。

図6　00102調査1・2トレンチ実測図（縮尺 1/100・1/40）

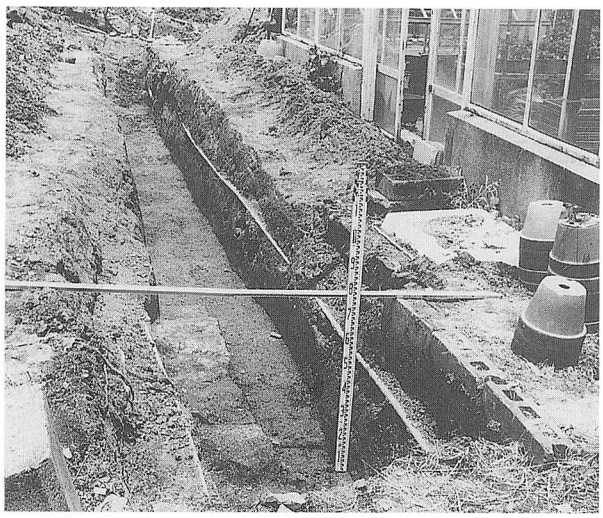


写真６　00102調査１トレンチ全景（南から）

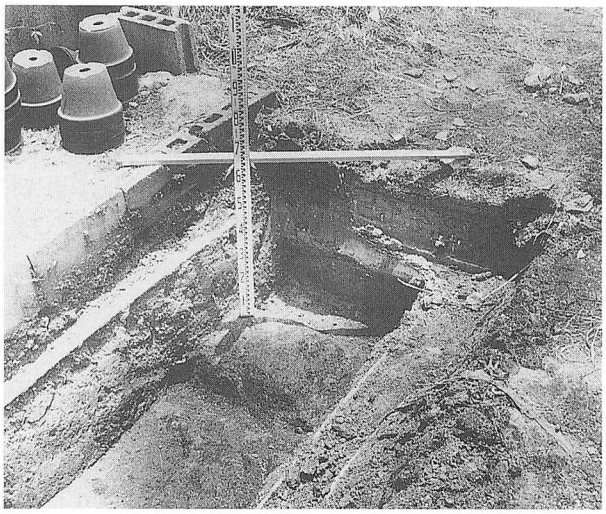


写真７　00102調査１トレンチ南端土層（北西から）

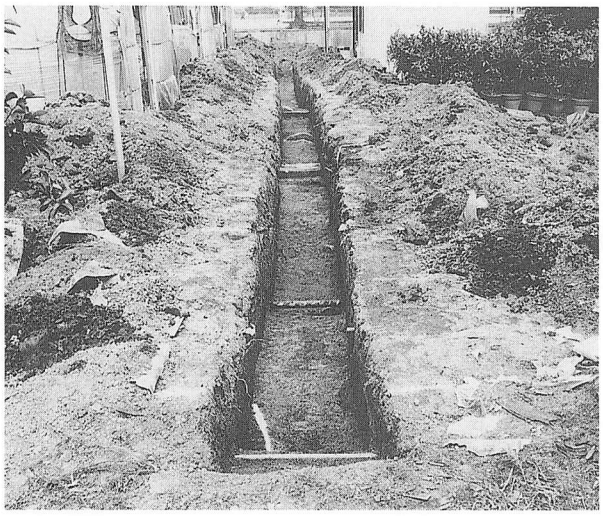


写真８　00102調査２トレンチ全景（西から）

写真９　00102調査２トレンチSK-1（南から）

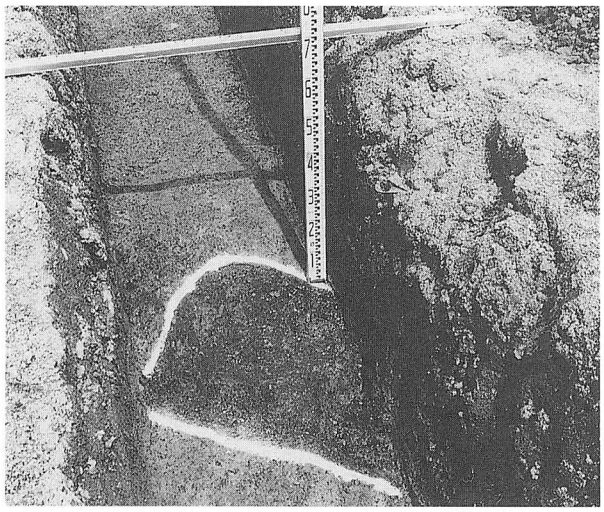


写真10　00102調査２トレンチSK-2（西から）

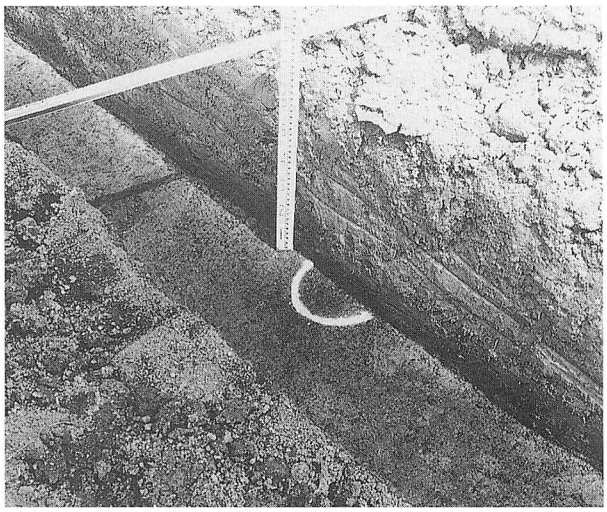


写真11　00102調査２トレンチSP-3（北西から）

1トレンチでは、南端以外にⅢ層の広がりは確認されず、以北では地表下70cm前後で、樽味団地基本層序のⅣ層があらわれた。ただしⅣ層も、樽味団地基本層序Ⅱ層の落ち込みによる凹凸が激しい。耕作土であるⅡ層の畝立てがⅣ層にまで及んだ結果と考えられる。このような状況は、西方の樽味遺跡5次調査のⅡ区南部でも認められ、付近一帯は、旧耕作土であるⅡ層による攪乱がⅣ層にまで及んでいる可能性が高い。

［**2トレンチ**］（図6上、写真8～11）

ガラス温室北側に設定した、幅1m前後・長さ約21.5mの東西方向のトレンチである。

1トレンチ北側と同様、包含層であるⅢ層は認められず、地表下60～70cmでⅣ層があらわれた。ただし、1トレンチで見られたような、畝状の起伏はこの位置までは及んでいない。

2トレンチでは、Ⅳ層上面において、遺構の残存を一部確認できた。SK-1は西端の北壁際で一部を検出した。埋土は黒褐色シルトで砂礫を含まない（写真9）。SK-2は、中央部で確認した方形ないし長方形の遺構。南はトレンチ外に広がる。埋土は黒褐色シルトで、明褐色シルトの凸レンズ状ブロックを含み、砂礫は含まない（写真10）。SP-3は東部の南壁際でほぼ半分を検出した径20cm弱の柱穴である。埋土はにぶい黄褐色シルトで、砂礫を含まない（写真11）。

3　調査のまとめ

今回の調査では、建設予定地一帯に遺物包含層であるⅢ層は、基本的には広がらないことがほぼ確定的となった。1トレンチや樽味遺跡5次調査Ⅱ区南部の所見から、予定地南部にはⅣ層に達するⅡ層の畝立てが及んでいる可能性が高い。ただし、それでも一部には包含層あるいは遺構が残っていることは、1トレンチ南端で見たとおりであるし、2トレンチでは明確な遺構の存在が確認できた。したがって、寄附建物建設に先立っては、掘削範囲の全面調査が必要となる。

（吉田・三吉）

00103　四国電力による城北団地構内高圧線敷設工事に伴う調査（文京遺跡23次調査）

調査地点　松山市文京町3番
　　愛媛大学城北団地（図1）
調査面積　17.3㎡
調査期間　2001年6月26日～7月9日
調査の種別　本格調査
調査担当　吉田広・三吉秀充

1　調査にいたる経緯

愛媛大学城北団地における相次ぐ新営建物の竣工に伴って、既設の電力供給施設では、大学への電力需要に十分対応しきれない状況となり、新たな電力引き込み線を確保することとなった。具体的には、城北団地南縁に沿って電柱を設置することになり、その工事に関しては、一般家庭等への電力供給と同様、電力需用者である愛媛大学ではなく、供給者である㈱四国電力負担の工事とすることが取り決められた。またこれによって、愛媛大学構内の電柱設置地点に関して、愛媛大学と㈱四国電力の間で、借地契約が取り交わされた。

一方、電柱設置地点の埋蔵文化財については、周辺の既往調査（調査番号：98401、99901、99709-7・8等）から、工事にあたって影響の及ぶことが予想でき、埋蔵文化財調査室では埋蔵文化財への十分な対応を求めた。しかし一方で、借地契約が結ばれたことによって、㈱四国電力を原因者とする発掘調査届の提出がなされたため、埋蔵文化財調査の具体的対応をめぐって、調整が難航した。そこで、㈱四国電力と愛媛大学（施設部・埋蔵文化財調査室）、そして松山市教育委員会による協議が行われた。その結果、松山市教育委員会立会のもと、実際の調査を愛媛大学埋蔵文化財調査室が行うこととし、調査終了後に概要報告書を松山市教育委員会へ提出することとした。

6月26日に松山市教育委員会立会の下、文京遺跡23次調査として着手し、遺跡の存在が確認されて以後、埋蔵文化財調査室が調査を行った。

2　調査の概要

調査地点は、愛媛大学城北団地南側囲障に沿って設置される電柱9本分と、その東西両端の電柱支線埋設部3箇所の、都合12箇所に及ぶ。東側から着手し、順

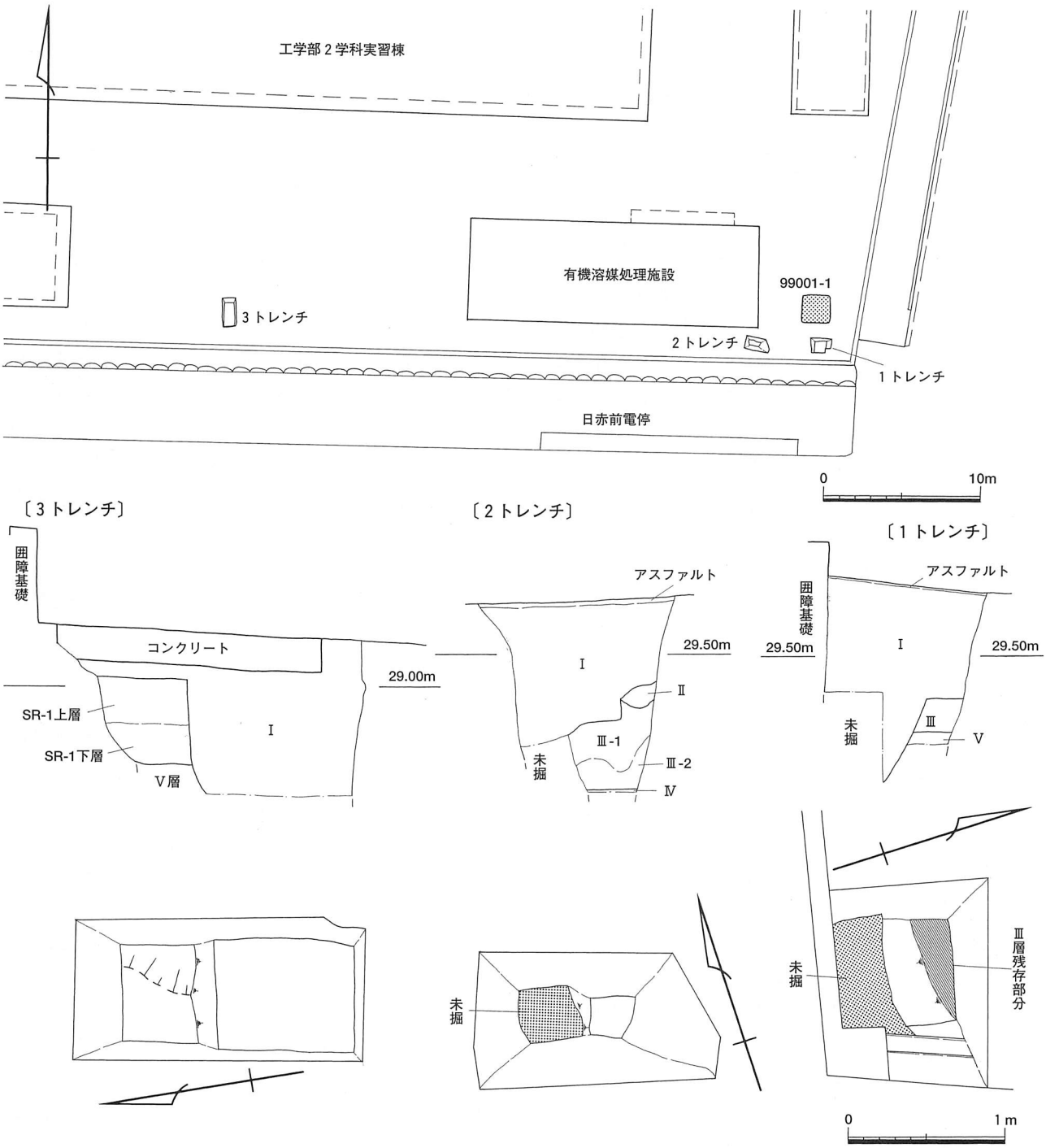


図７　00103調査（文京遺跡23次）１～３トレンチ位置図および実測図（縮尺 1/400、1/40）

に１～12トレンチとした。

［１トレンチ］（図７、写真12）

城北構内南東隅に接するように設置される電柱支線埋設に伴うトレンチで、電柱本体部分が２トレンチにあたる。トレンチは東西長約1.4ｍ・南北幅１ｍ。北壁に沿った幅約20㎝を除き、大半は攪乱を受けていた。

北壁際では、標高29.05～29.25ｍの間に城北団地基本層序Ⅲ層が存在する。このⅢ層は、にぶい黄褐色砂質土で、径１㎜前後の砂粒を含み、下部に鉄分の沈着が認められ、弥生土器片が１点出土している。Ⅲ層の下は、拳大の円礫を多く含んだ城北団地基本層序Ⅴ層

となる。

［2トレンチ］（図7、写真13）

東端電柱設置に伴うトレンチで、1トレンチの西約3mに位置する。東西長約1.5m・南北幅約0.8mを測る。トレンチ西側は大型の瓦礫が存在するため、調査は東側部分のみとなった。地表下60～90cmまでバラス層および瓦礫層が続く。東側の一部で、にぶい黄色砂質土を主体とする近現代の水田層と考えられる城北団地基本層序Ⅱ層を確認できた。約15cmの堆積である。

その下標高29.25mでⅢ層があらわれる。約60cmの堆積である。平面掘削時には確認できず、北壁清掃時に辛うじて確認できたことから、調査区南側の大半は攪乱が及んでいたと考えられる。この地点のⅢ層は二分できる。Ⅲ-1層は、にぶい黄褐色砂質土で、径1mm前後の白色砂粒を多量に含み、親指先大の円礫も認められる。一部鉄・マンガン分の沈着により、明黄褐色を呈する部分も見られる。Ⅲ-2層は、Ⅲ-1層とほぼ同様な色調ながら、砂質が強く、親指先大の円礫を少量含むのみで、砂礫はほとんど含まない。Ⅲ-2層は砂質が強く、流路内堆積の可能性が考えられる。Ⅲ層の下、28.65mでは灰白色砂質土を確認している。城北団地基本層序のⅣ層と捉えているが、Ⅲ-2層とともに、流路内堆積層の可能性も残る。

2トレンチでは、攪乱層出土遺物中に布目瓦があり、Ⅲ層からは弥生土器片が少量出土している。

［3トレンチ］（図7、写真14）

東から2本目の電柱に伴うトレンチで、工学部材料工学研究室の土砂置き場のコンクリート土間を切って設定した。北側に支線を同時に埋設するため、南北1.9m・東西0.9mの長方形を呈する。北側約1mは、地下タンクに伴うとみられる攪乱を被っている。

対して南側約50cmは、コンクリート土間下の砕石層下、標高29.55mで攪乱を被らない土層があらわれる。褐灰色砂質土で、にぶい黄褐色砂質土をラミナ状に含み、径5mmまでの砂粒を多く含む。砂粒の多い土層とにぶい黄褐色砂質土の多い土層がラミナ状に互層をなす。わずかに拳大の石を含み、土器片を多く含む。流路内堆積と判断でき、これをSR-1とした。さらにこの下には黒色粘質土が続き、これをSR-1下層、先の土層をSR-1上層とした。SR-1下層は、径1mmまでの砂粒を多く混じえ、拳大の石も多く含む。また粘性が強く、遺物は少ない。SR-1底面はⅤ層上面であり、やや凹凸がある。約29.00m以下のⅤ層は、拳大からやや大きめの塊石層で、にぶい黄褐色粘質土を塊石中に混じえ、しまりが強い。なお、限られた範囲のSR-1出土遺物は、弥生土器で占められている。

［4トレンチ］（図8、写真15）

東から3本目の電柱に伴うトレンチで工学部講義棟南に位置する。南北長2.5m・東西幅0.9mを測る。現地表下約60cmまでⅠ層が続く。

Ⅱ層は認められず、Ⅰ層直下の標高28.90m付近で、遺物包含層であるⅢ層となり、Ⅲ層を掘り下げる過程で、SX-3とSX-4を確認した。当初竪穴式住居を想定していたが、遺構埋土上層は黒褐色系砂質土を主体とし、下層については砂質が強く灰色系の砂質土を主体とし、少量ながら土器を包含し、竪穴式住居などの埋土とするには不自然さが残る。流路の可能性を高く考えておきたい。なお、Ⅲ層および遺構からは弥生土器片が出土している。

SX-3埋土は二分できる。①層は、にぶい黄褐色砂質シルトを主体しながら、明黄褐色砂質土の不定形ブロックと、径1mm前後の白色砂粒を含む。②層は灰黄褐色砂質土で、にぶい黄褐色砂質シルトのブロックを少量含み、径2～3mmの砂礫を多く含む。

SX-4埋土は4層に分けることができる。①層はにぶい黄褐色砂質シルトで、明黄褐色砂質土の不定形ブロックを少量含み、砂礫はあまり含まない。②層は、①層と同様の土質ながら、明黄褐色砂質土のブロックの割合が高く、さらに径1mm前後の砂粒を多く含む。③層は、にぶい黄褐色砂質土で、にぶい黄橙色砂質土の不定形ブロックを含む。④層は、にぶい黄橙色砂質土中ににぶい黄褐色砂質シルトのブロックを斑状に含む。

Ⅲ層および遺構直下はⅣ層となるが、検出地点でその特徴が大きく異なる。Ⅳ-1層は明黄褐色砂質土。Ⅳ-2層は灰白色砂礫土からなり、きめが粗い。Ⅳ-3層は、灰白色砂質土。ただし、Ⅳ-1層とⅣ-3層との層界はSX-4のたちあがりに続くことも考えられ、Ⅳ-3層がSX-4埋土の可能性も否定できない。

［5トレンチ］（図8、写真16）

工学部機械実習工場南側に位置する電柱埋設用のトレンチである。重機掘削の都合上、南東ー北西方向に斜交し、長約1.4m・幅0.8mを測る。北側は、ガス管埋設に伴う攪乱が標高28.40mまで及び、ガス管自身は28.60m付近に埋設されている。ガス管をそのままに、トレンチ内の南半についてのみ掘り下げを行った。

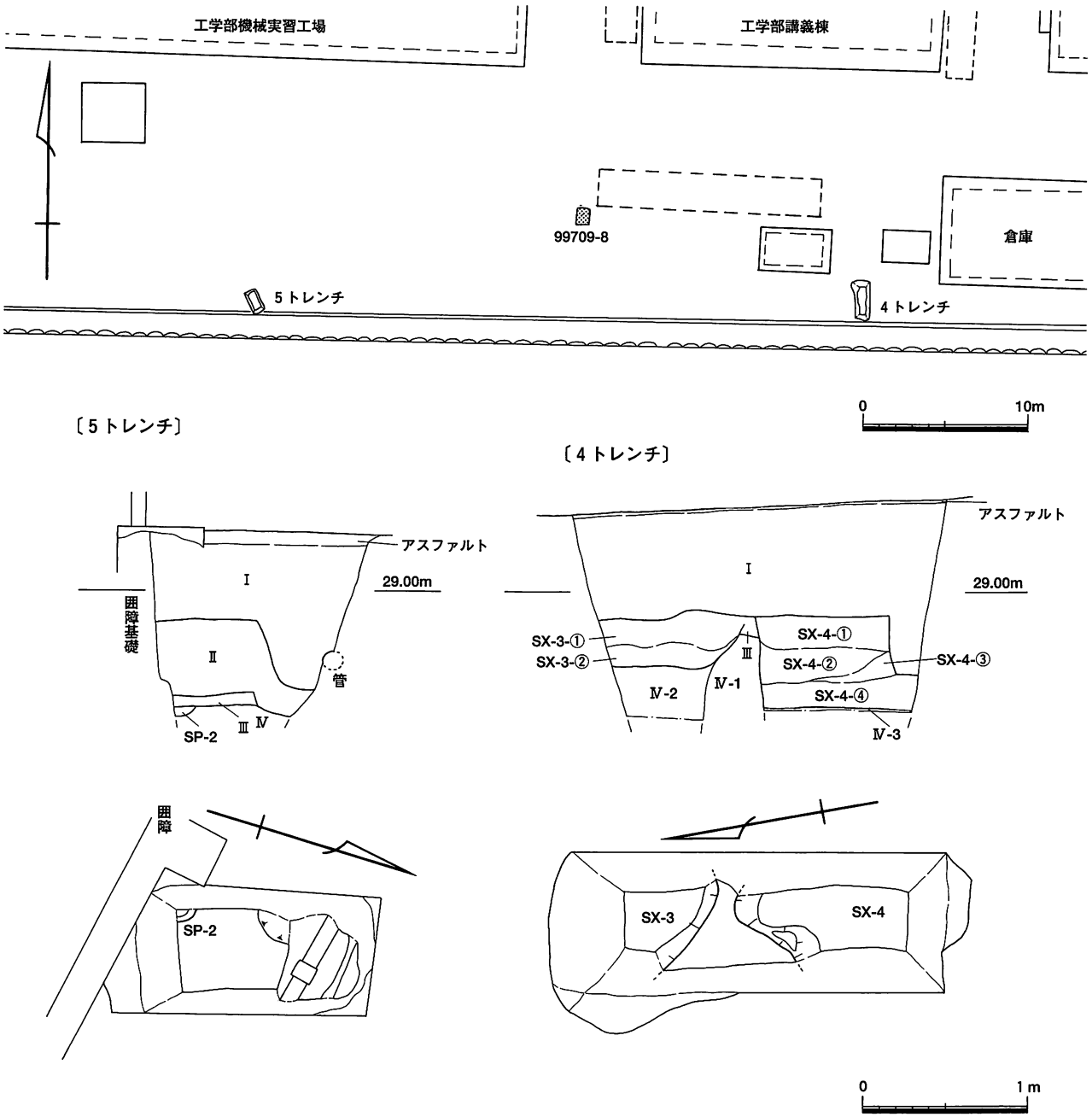


図８　00103調査（文京遺跡23次）４・５トレンチ位置図および実測図（縮尺 1/400、1/40）

標高28.80ｍまで表土層が続き、以下Ⅱ層が約50cmの厚さで堆積する。この下に厚さ10cm弱のⅢ層が薄く存在し、28.28ｍ以下はⅣ層となる。この地点のⅢ層は暗褐色砂質土で、径１cmまでのⅣ層粒や黒褐色砂質土粒を斑状に混在させ、径１mm前後の砂粒をやや含む。安定した包含層とは言えず、漸移層あるいは遺構内埋土かと推測される。トレンチ底南隅のⅣ層上面では、柱穴SP-２の一端を確認している。深さ10cm弱で、埋土は暗褐色砂質土。Ⅲ層に比べて砂粒の混じりが少なく、やや粘性に富む。

［６トレンチ］（図９、写真17）

工学部機械実習工場南西に設置したトレンチである。南北長1.9ｍ・東西幅0.9ｍ。トレンチ内南側には東西方向に延びる井水管に伴う掘削が現地表下110cmまで続く。調査は攪乱の及んでいない北側部分について行うこととした。

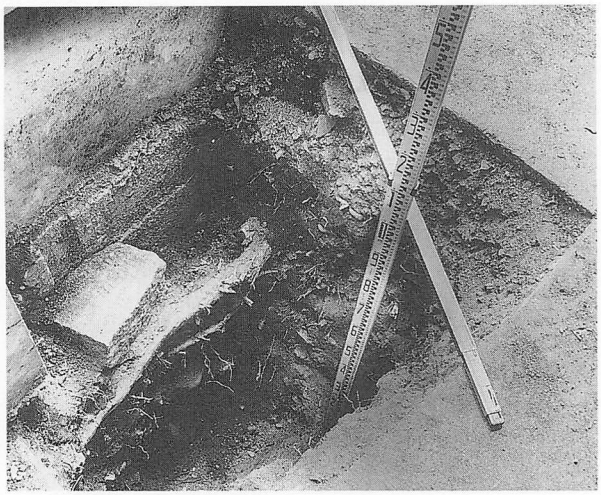


写真12　00103調査（文京遺跡23次）1トレンチ
（北東から）

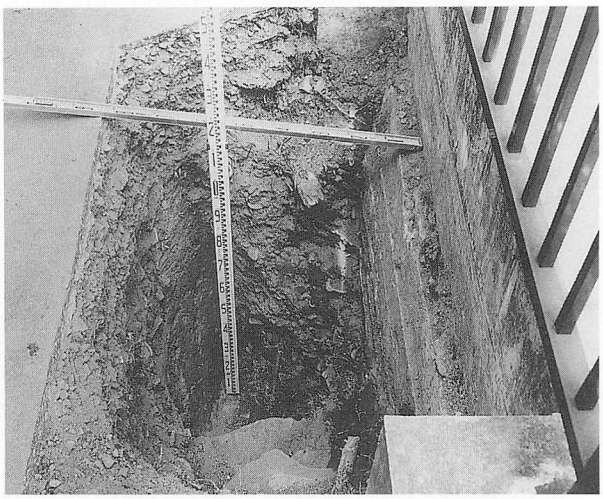


写真13　00103調査（文京遺跡23次）2トレンチ
（西から）

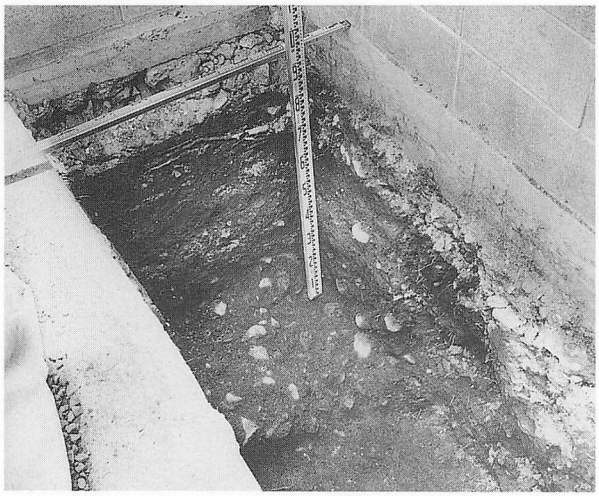


写真14　00103調査（文京遺跡23次）3トレンチ
（北東から）

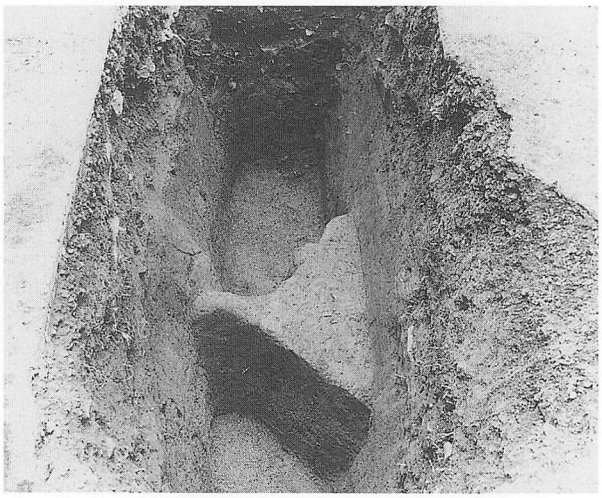


写真15　00103調査（文京遺跡23次）4トレンチ
（北から）

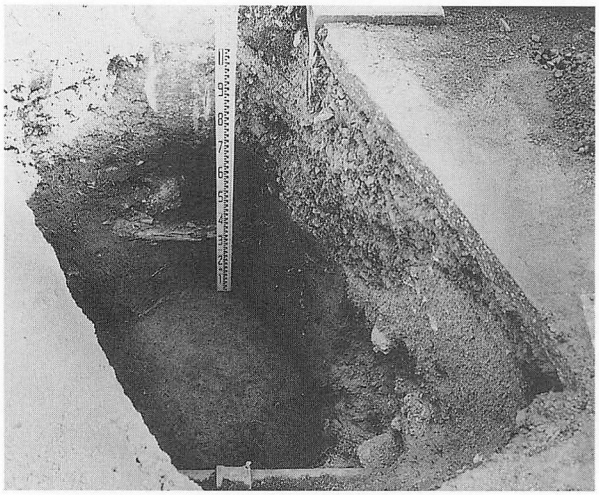


写真16　00103調査（文京遺跡23次）5トレンチ
（北から）

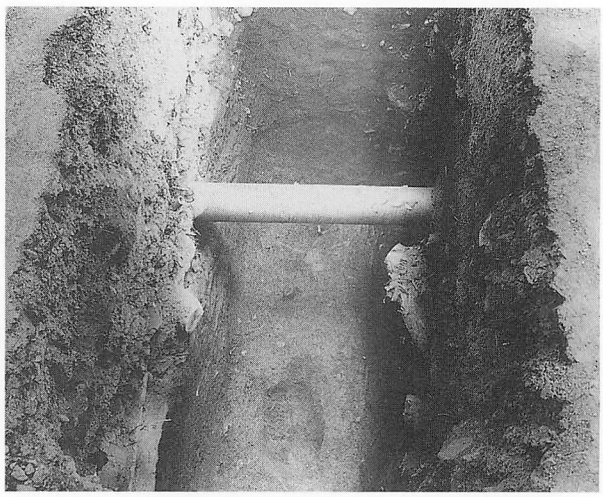


写真17　00103調査（文京遺跡23次）6トレンチ
（北から）

北側では、28.20m以下が遺物を包含する。当初包含層として取り上げたが、後の土層精査により、遺構埋土である可能性が高く、SK-6とした。SK-6埋土は3層に分けることができる。①層は暗褐色砂質土で、径1㎜前後の白色砂粒を含み、しまりもある。②層は暗褐色砂質土で、土質は①層と同様ながら、径1㎜前後の砂粒をごく少量しか含まない。③層は暗褐色砂質土で、親指～小指先大の円礫を含み、径1㎜前後の砂粒は含むが、①層より圧倒的に少なく、しまりもない。

SK-6からは弥生土器片が多く出土しており、後期や前期末の土器も見られる。また、一部攪乱も含んだ取り上げとなったため、古墳時代の須恵器もあり、当初から攪乱として取り上げた遺物中には、古墳時代の須恵器、練兵場時代の演習用青銅製薬莢等がある。

［7トレンチ］（図9、写真18～20）

工学部2号館の南、共同実験室の南西隅南に位置するトレンチである。やや不整形ながら南北約2m・東西約1.2mを測る。アスファルト下は、それに伴う砕石層に続いて、整然と並べられたように埋め戻されたコンクリートブロックが2段3段と重なる。おそらくかつての城北団地南側囲障であったコンクリートブロック塀を解体埋め戻したものと推定される。このコンクリートブロック埋設に先行して、井水管が標高約28.10mの位置に埋設されており、調査はこの管を活かしたまま行った。コンクリートブロック下はⅡ層であり、このⅡ層は二分できる。耕作土にあたるⅡ-1層とした暗灰黄色砂質土は、径1～3㎜の砂粒を混じえ、粘性がややある。対してⅡ-2層はオリーブ褐色砂質土で、径1～3㎜の砂粒をやや多く混じえ、鉄分の沈着が認められ、しまりがある。上層耕作土の床土部分にあたる。

27.95m前後からは、遺物包含層があらわれる。ただし、北側はやや高いレベルでⅢ層となるものの、南側はこのⅢ層を切る、砂礫を多く含む流路内堆積が認められ、SR-5とした（写真18）。トレンチ内がこの流路のちょうど北岸にあたり、南岸は不明。SR-5埋土は灰黄褐色砂礫質土で、径1～10㎜の砂粒・砂礫を多く含み、10㎝大の石も少量含む。また下層に均質な砂質土をラミナ状に含み、しまりがややある。出土遺物中には須恵器があり、古墳時代の堆積と推測できる。

以下のⅢ層は、断面精査により、3層に分けることができる。Ⅲ-1層は暗褐色砂質土で、径1～3㎜の、ときには径5㎜前後の砂粒を多く混じえ、炭化物粒も含み、しまりがある。古墳時代の包含層ないしは遺構埋土とみられる。この土層に類する遺構埋土をもつのがSP-10である。対してⅢ-2層は、同じ暗褐色砂質土ながら、砂粒をほとんど含まない均質な砂質土で、わずかにⅣ層の微細ブロックを含み、粘性がむしろある。弥生時代の包含層ないしは遺構埋土とみられ、SP-10以外の柱穴埋土がこれに類似する。Ⅲ-3層はにぶい黄褐色の、砂粒をほとんど含まない均質な砂質土で、Ⅳ層の1～2㎝大ブロックを多く斑状に含む。Ⅲ-Ⅳ層の漸移層とみられる。

これらⅢ層を除去したⅣ層の上面で、SP-7～12の遺構を検出した（写真19・20）。前述したように、SP-10が古墳時代、その他が弥生時代の遺構とみられる。

SP-7は、径約30㎝で深さ7㎝弱の柱穴。埋土は暗褐色の均質な砂質土で、径1㎝のⅣ層ブロックを少量含む。

SP-8は、径約30㎝の2段掘の柱穴で、深さ50㎝を超える。2段掘りの下段から、敲石が出土している。埋土は暗褐色の均質な砂質土で、ほとんど砂粒を含まない。微細な炭化物粒をわずかに含み、粘性がややある。

SP-9は、暗褐色の均質な砂質土を埋土とし、わずかにⅣ層の微細ブロックをラミナ状に含み、部分的に径1㎜前後の砂粒を混じえる。

SP-10は、調査区東壁際で半分のみ検出できた柱穴で、径20㎝弱・深さ35㎝を測る。Ⅲ-1層下面からの掘り込みが確認でき、検出遺構の中では層序的に最も新しく、古墳時代の柱穴と推定できる。

SP-11は、SP-8によって切られた柱穴で、径約50㎝、深さ約60㎝を測り、底はⅣ層下のⅤ層上面に達する。埋土は上下に二分でき、上層は暗褐色の均質な砂質土で、やや粘性の高いⅢ層ブロックを多く含み、2㎝大のⅣ層ブロックを少量混じえる。対して下層は褐色砂質土で、大半を占めるⅣ層中に、ラミナ状あるいは1～2㎝大の小ブロック状にやや粘性のあるⅢ層を混在させる。

SP-12は、SP-9に西側を切られ、東側は調査区東壁にかかる、長楕円形の柱穴である。深さは約15㎝。埋土は暗褐色の均質な砂質土で、やや粘性の高いⅢ層をラミナ状に含み、Ⅲ-3層に比べてⅣ層ブロックの混在が少ない。なおこの柱穴からは、弥生時代終末期の鉢が出土している。

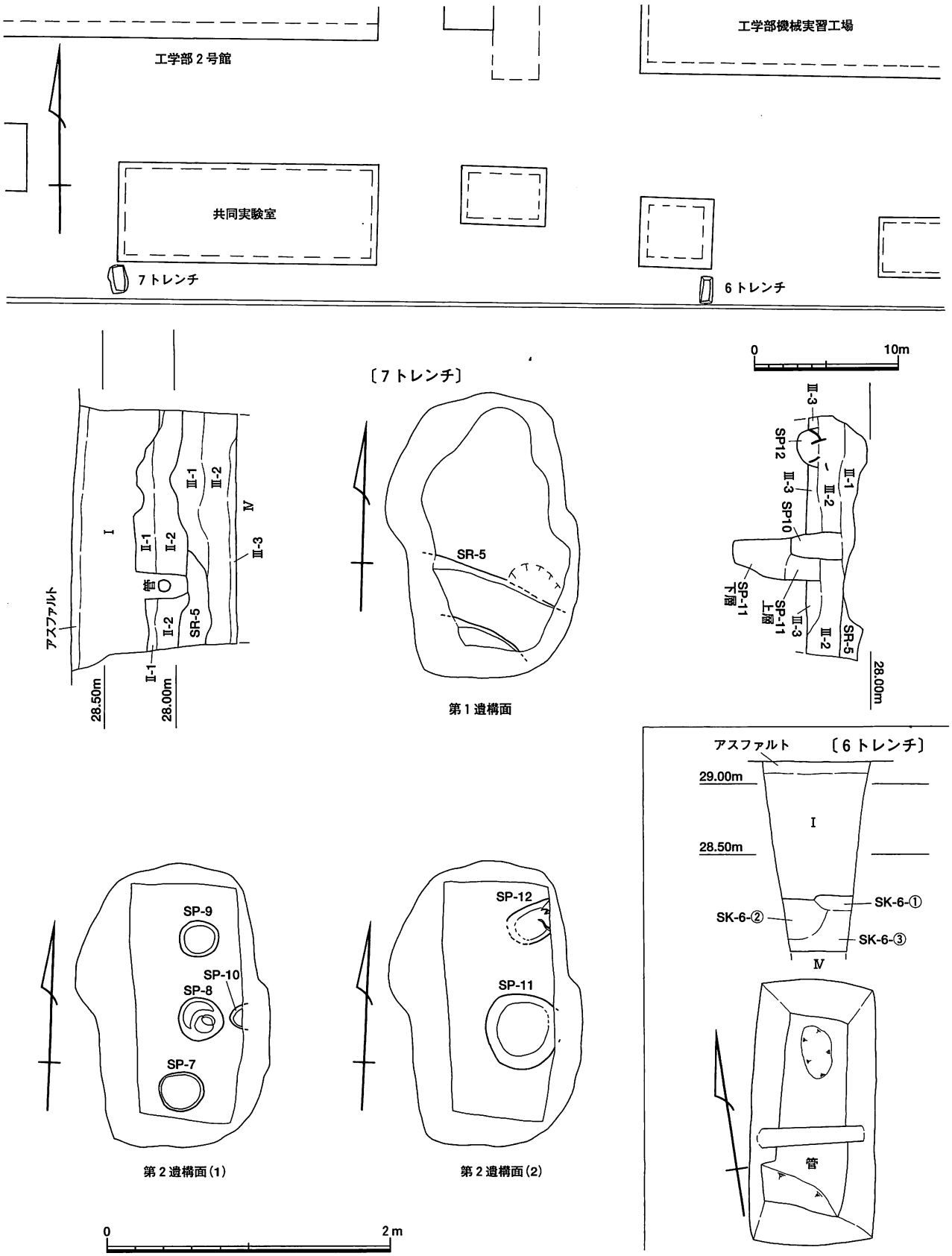


図９　00103調査（文京遺跡23次）６・７トレンチ位置図および実測図（縮尺 1/400、1/40）

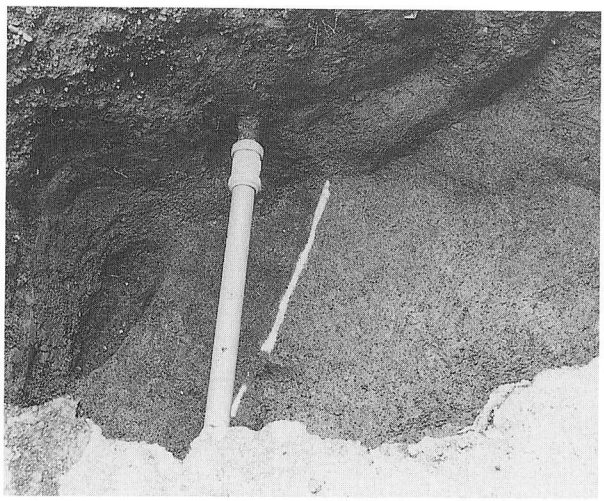


写真18　00103調査（文京遺跡23次）７トレンチ
SR-５（東から）

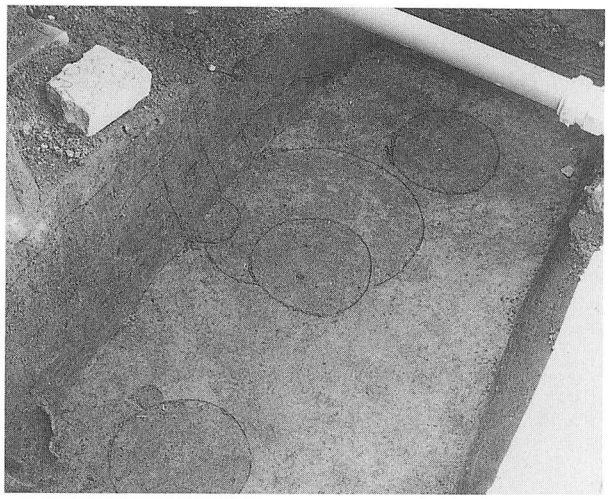


写真19　00103調査（文京遺跡23次）７トレンチ
Ⅳ層上面遺構検出（北西から）

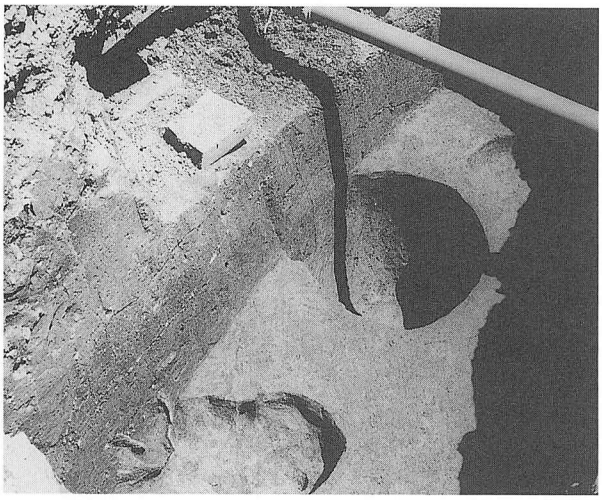


写真20　00103調査（文京遺跡23次）７トレンチ
完掘（北西から）

写真21　00103調査（文京遺跡23次）８トレンチ
（北西から）

［８トレンチ］（図10、写真21）

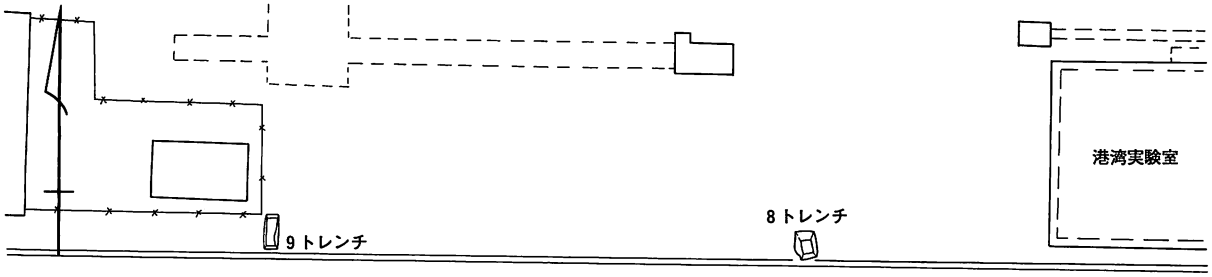
工学部港湾実験施設南西に設置したトレンチである。長さ1.5m・幅1.2mを呈する。Ⅰ層が現地表下約60cmまで続き、Ⅱ層は30～50cmの厚さで堆積し、下部に鉄分の沈着が認められる。

標高28.00m以下は流路内堆積となり、この流路をSR-14とした。狭いトレンチ調査のため、27.00m前後までで作業を中止し、最終底面については不明であるが、底面まで遺物をほとんど含まない砂礫層が続いていると想定する。確認した範囲のSR-14埋土は４層に分けられる。①層は灰黄色砂質土で、砂礫を大量に含む。②層はにぶい黄褐色砂質シルトを主体としながら、灰黄褐色砂質土のブロックを含み、弥生土器片を多く含む。③層は灰黄色砂質土で、遺物はごく少量しか含まない。④層は灰白色砂質土で、親指先大の円礫を含み、遺物は見あたらない。

［９トレンチ］（図10、写真22～25）

工学部２号館の南西に設置したトレンチである。南北長1.8m・東西幅0.8mを測る。トレンチ内の大部分は地表下約30cmまでⅠ層が続き、北壁近くでは現地表下80cm近くまで攪乱が及ぶ。Ⅰ層下にはⅡ層が約60cmの厚さで堆積する。

その直下、標高約27.50mで、径１mm前後の砂粒を少量含む灰黄褐色砂質シルトのⅢ層を検出した。また、検出と同時に、大量の弥生土器群があらわれた（写真22）。弥生土器群はトレンチ中央、幅約50cmで北西から南東の方向に土器片が折り重なりながら流れ落ちるような状況で検出され、土器群の傾斜と重なり具合な



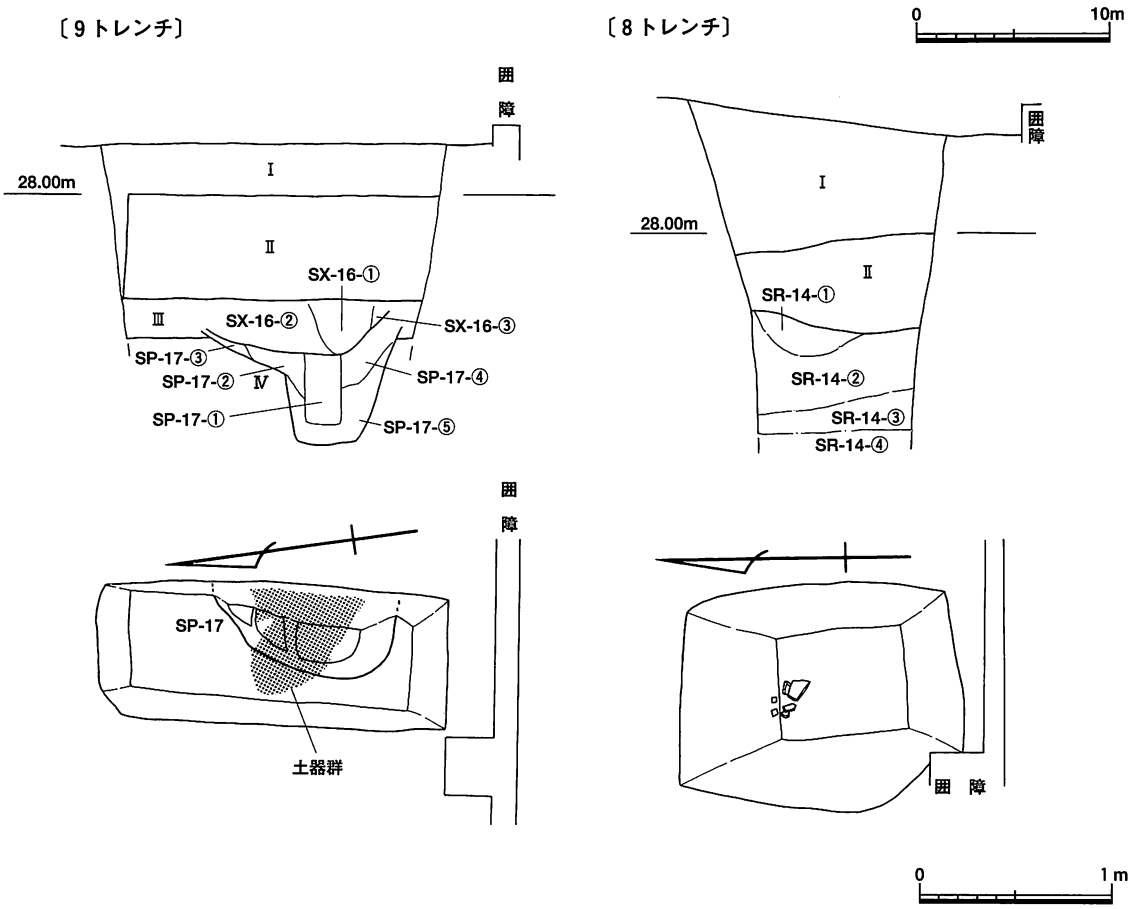


図10　00103調査（文京遺跡23次）8・9トレンチ位置図および実測図（縮尺 1/400、1/40）

どから、北西側から南東方向に向かって投棄したものと考えられる。土器群除去後、遺構検出を行うと同時に、東西両壁の精査から、大量の弥生土器群は土器溜まりを形成していたことが判明し、これをSX-16とした（写真23）。SX-16は、後述するSP-17埋没後に形成された落ち込み状の遺構であるという以外、明確な形状については確認できていない。埋土は3層に分けることができる。①層は、灰黄褐色砂質シルトを主体として明黄褐色砂質土の丸いブロックと、小指先大の円礫、炭化物を含む。②層は①層とほぼ同じ土質ながら、明黄褐色砂質土ブロックは①層に比べて少なく、親指先大の円礫を含む。土器群直下には薄い炭層が面的に広がる。③層は、灰黄褐色砂質シルトで、明黄褐色砂質土のブロックを含まない。

SX-16の下層には、明らかに埋土の状況が異なる遺構が存在する。SP-17である。SP-17は、トレンチ東壁に沿って隅丸長方形の平面プランを確認し、残り半分は調査区外へと続く。掘り方は一辺約1m、柱痕径約20cmを測る。埋土は5層に分層できる（写真24・25）。①層は柱痕部である。灰黄褐色砂質土で、小指先大の炭化物ブロックを含み、砂礫は含まない。後記する②～⑤層に比べて、またSX-16埋土に比べて圧倒的に粘

写真22　00103調査（文京遺跡23次）9トレンチ
SX-16土器出土状況（北から）

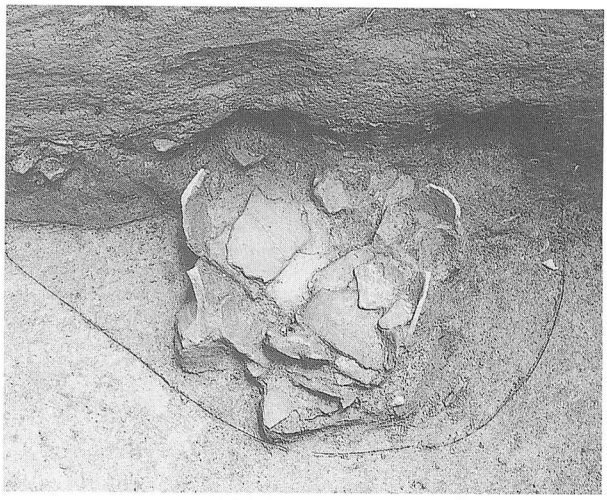


写真23　00103調査（文京遺跡23次）9トレンチ
SX-16検出状況（西から）

写真24　00103調査（文京遺跡23次）9トレンチ
完掘（北西から）

写真25　00103調査（文京遺跡23次）9トレンチ
東壁土層（西から）

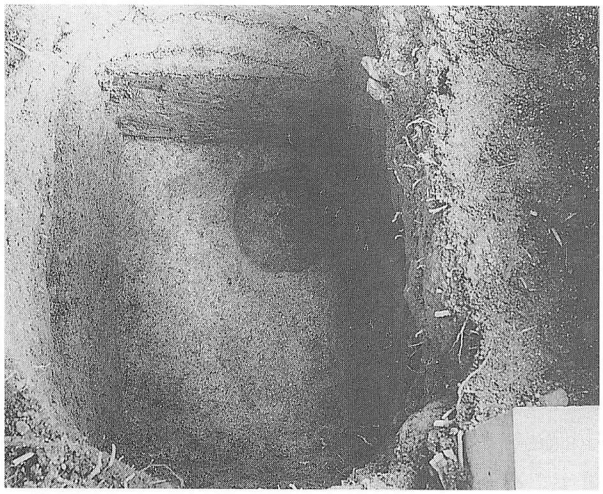


写真26　00103調査（文京遺跡23次）10トレンチ
（西から）

写真27　00103調査（文京遺跡23次）11トレンチ
（西から）

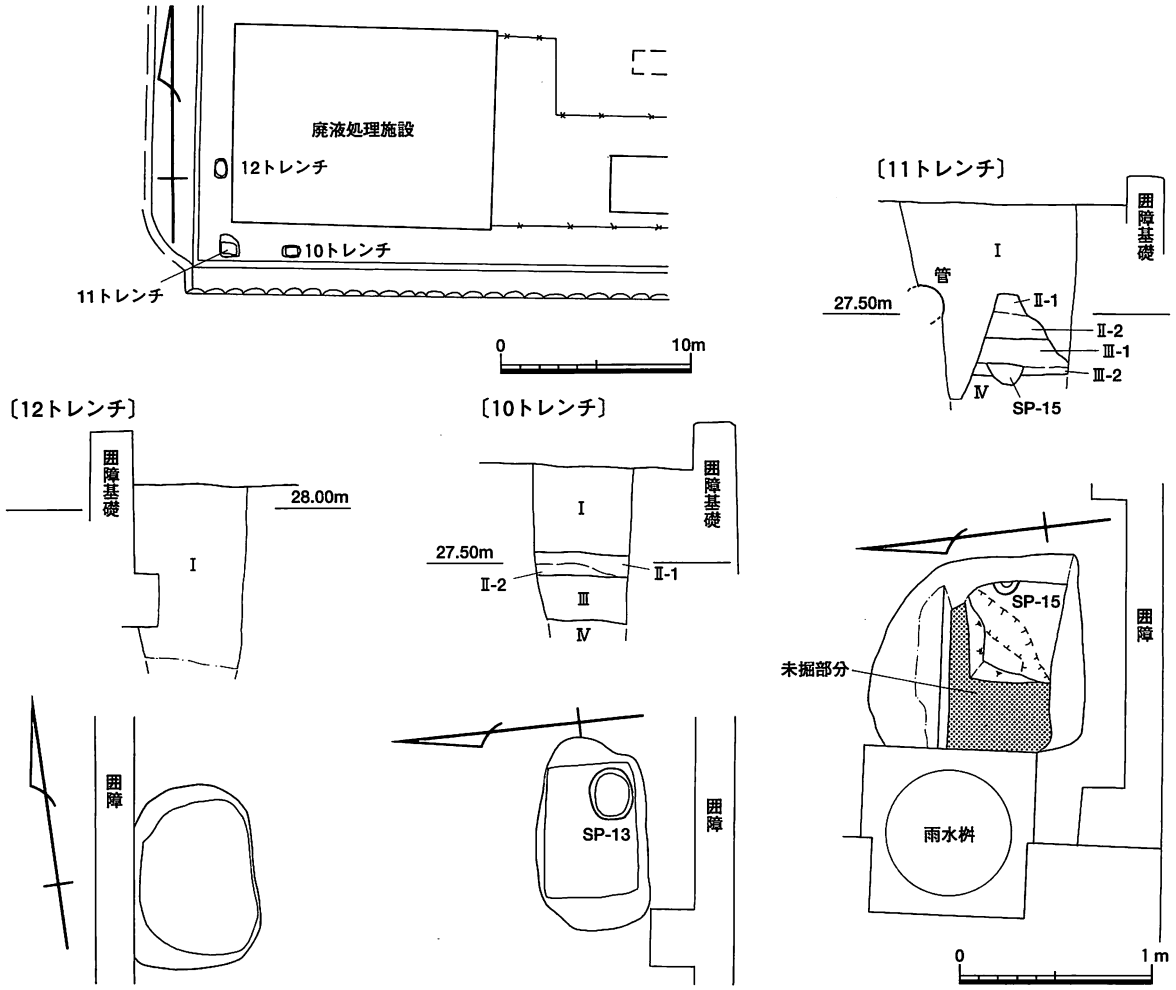


図11　00103調査（文京遺跡23次）10～12トレンチ位置図および実測図（縮尺 1/400、1/40）

性が高い。②～⑤層は柱を支えるために強固に突き固められ、しまりの強い土層である。②層は灰黄褐色砂質土で、砂礫は含まないが、砂質が強い。明黄褐色砂質土の丸いブロックが約半分を占める。③層は②層とほぼ同じ土質で、明黄褐色砂質土の割合が高い。④層は、明黄褐色砂質土のレンズ状ブロックと灰黄褐色砂質土をほぼ同じ割合で含み、砂礫は含まないが、砂質が強い。⑤層は灰黄褐色砂質土を主体とし、灰黄色砂質土のブロックを含む。親指先大の円礫を含み、炭化物は含まない。出土土器は、いずれも押しつぶされた小片である。

SX-16出土弥生土器群はいずれも、中期後葉の凹線文盛行期の資料であり、またその中に焼成剥離土器片や接合すると色調がモザイク状を呈する土器を多く含み、焼成時の破損品を一括投棄したものと判断できる。土器編年上の良好な一括資料としてだけでなく、文京遺跡における土器生産を考える上でも、良好な資料である。また、Ⅲ層出土遺物には、鏡形とみられる土製模造品もあり、文京遺跡の古墳時代集落像を描く上での貴重な資料も含んでいる。

［10トレンチ］（図11、写真26）

11トレンチの電柱を支える東側支線埋設のために設定されたトレンチ。城北構内南西隅の廃液処理施設南側、11トレンチからは東約2.5mに位置する。東西約0.9m・南北約0.6mを測る。地表下45cmまではⅠ層で、その下に約15cmのⅡ層が確認できる。Ⅱ層は、炭化物粒を少し含んでしまりのやや弱い、粘性のややある暗灰黄色砂質土であるⅡ-1層と、径1mm前後の砂粒を少し混じえ、鉄分の沈着があり、しまりのある褐色砂質土であるⅡ-2層に分かれる。

地表下約60cmの標高27.42mからはⅢ層となり、以下27.20mまで続く。この地点のⅢ層は暗褐色砂質土

で、径１㎜以上の砂粒をほとんど含まず、炭化物粒を少し含み、粘性がややある。なおⅣ層上面で、径30㎝弱・深さ10㎝弱の柱穴SP-13を検出している。埋土は暗褐色砂質土で、やや粘性の高い１～２㎝大のⅢ層小ブロックとⅣ層の同大ブロックが斑状に混在する。

［11トレンチ］（図11、写真27）

城北構内南西隅の廃液処理施設南西隅に接するように設置される電柱に伴うトレンチである。約１ｍ四方のトレンチを設定したが、トレンチに接して西側に雨水用排水枡があり、この埋設余掘りと、この枡に引き込まれる管路により、トレンチ西側と北側には攪乱が及ぶ。また南側も、南側囲障の設置に伴う余掘りがトレンチ南壁に迫る。したがって、本来の土層が残存するのは南東側50㎝四方程度に過ぎない。東壁での所見によれば、Ⅱ層が表土下50㎝弱であらわれる。このⅡ層は炭化物粒をわずかに含み、しまりはやや弱く、粘性のややある、暗灰黄色砂質土のⅡ-１層と、径１㎜前後の砂粒を少し混じえ、砂質がやや強く、鉄分が沈着してしまりのある褐色砂質土のⅡ-２層に分かれる。

Ⅱ層の下、標高27.36ｍ付近から包含層であるⅢ層があらわれ、そのうち上部約15㎝ほどのⅢ-１層は暗褐色砂質土で、径１㎜前後の砂粒と径１㎜の炭化物を少量、１㎝大のⅣ層ブロックをわずかに含み、粘性がややある。対して下部５㎝ほどのⅢ-２層は、暗褐色砂質土で、Ⅲ-１層に比べて、Ⅳ層の１～２㎝大ブロックを多く含み、しまりがある。なお、調査区東壁際で、Ⅲ-１層下面から掘り込まれた、径20㎝弱・深さ10㎝強の柱穴SP-15を検出している。この埋土は暗褐色砂質土で、砂粒をほとんど含まず、Ⅳ層の１㎝大未満のブロックを少量含み、粘性がややある。また、Ⅳ層上面には溝状の凹部があるが、これは根によるⅢ層の落ち込みとみられる。11トレンチの攪乱層およびⅢ層からは、前期末に遡る弥生土器が出土している。

［12トレンチ］（図11）

11トレンチの電柱を支える北側支線埋設のために設定されたトレンチ。城北構内南西隅の廃液処理施設西側、11トレンチの北約３ｍに位置し、西側囲障に接する、南北約１ｍ・東西約0.7ｍのトレンチである。トレンチの東約0.2ｍに建物が迫り、地表下約１ｍまで掘り下げたが、攪乱を受けたⅠ層が続き、人力掘削できる範囲も限られ、また隣接する南側11トレンチでの包含層検出レベルとも比較して、この深度までで調査を終えた。

3　調査のまとめ

今回の調査は、愛媛大学城北キャンパスの南縁に沿ってほぼ等間隔に調査区が設定された。そのため、一連の長いトレンチではないが、キャンパス南縁に東西方向のトレンチを設定したことにもなり、この地点の遺跡の広がりについて、新しい知見を多く得ることができた。

まず、ほぼ一貫して、キャンパス南縁付近が、およそ東西方向へと走る自然流路の北岸付近に当たることが判明した。とりわけ、東部の１～４トレンチは、その流路にほぼ接するか、その中に含み込まれるかの地点にあたり、３トレンチSR-１、４トレンチSX-３・４は一連の可能性が指摘できる。そして、これら流路の埋没時期は、現時点では弥生時代に遡りそうである。なお、松山市教育委員会による松山赤十字病院南西部での試掘調査でも、やはり流路内堆積層が確認されている。

一方、５～７トレンチは、流路からは離れて安定した地点となるようである。つまり、東西方向の自然流路がこの地点でやや南に移動し、東西方向の微高地帯が南に張り出した格好になると推測できる。99709調査８トレンチで検出した弥生時代終末期の遺構も、この高まりの上に位置し、７トレンチSP-12とともに、一帯に弥生時代終末期の遺跡が展開したことが窺える。また、６トレンチでは古墳時代の遺物も確実に出土しており、文京遺跡５次調査（調査番号：98401）地点や99709調査７トレンチなど、古墳時代においても遺構が確認できる。ただし、７トレンチでは、古墳時代に下る流路SR-５の北岸が検出されており、古墳時代には一部自然流路が北に拡張することがあるらしい。

さてこのような状態も、８トレンチでは大きく変化し、弥生時代の自然流路SR-14の本流部となる。この流路が西流するこれまでの一連の流路の本流となるのか、それともこの流路に合流する南流する流路に当たるのかは確定しきれない。ただし、北側でのこれまでの調査成果を総合してみても、南北方向の大きな流路は見出しがたい。両隣の７・９トレンチとの差は大きいが、８トレンチの位置で、南側の自然流路が大きく北側に湾入していたものとみておきたい。

SR-14を一連の東西方向の一部とすると、９～12トレンチで検出された遺構は、文京遺跡１次調査はじめ、北側で検出されている遺構群と一連の広がりと理解す

ることができる。9トレンチでは、弥生時代中期後葉の土器焼成時破損品一括投棄、あるいはその下で比較的大型の柱穴があり、10･11トレンチでも柱穴が検出されており、一連の生活域の広がりが想定されよう。さらにこの地点では、遺構に伴うものではないが、少なからず前期に遡る弥生土器が出土しているし、9トレンチからは、古墳時代中期と推定される土製模造鏡が出土しており、これまでの文京遺跡には稀薄な時期の資料が得られたことにもなる。　（吉田・三吉）

00104　工学部屋外給水管布設替工事に伴う調査

調査地点　松山市文京町3番
　　愛媛大学城北団地（図1）
調査面積　0.6㎡
調査期間　2001年8月1日
調査の種別　立会調査
調査担当　吉田広・三吉秀充
依頼文書　施設部施設課長発事務連絡
　　（平成13年8月1日付）

1　調査にいたる経緯

先に行われた文京遺跡23次調査（調査番号：00103）の7トレンチにおいて、重機掘削中に給水管が検出され、一部損傷を与えた。調査中は応急処置を講じてそのまま調査を終えたが、調査中も管を伝っての漏水が続き、錆化した管の交換が必要とされる状況にあった。そこで、調査終了後、速やかにこの給水管改修工事が計画された。23次調査で明らかなように、攪乱の及ん

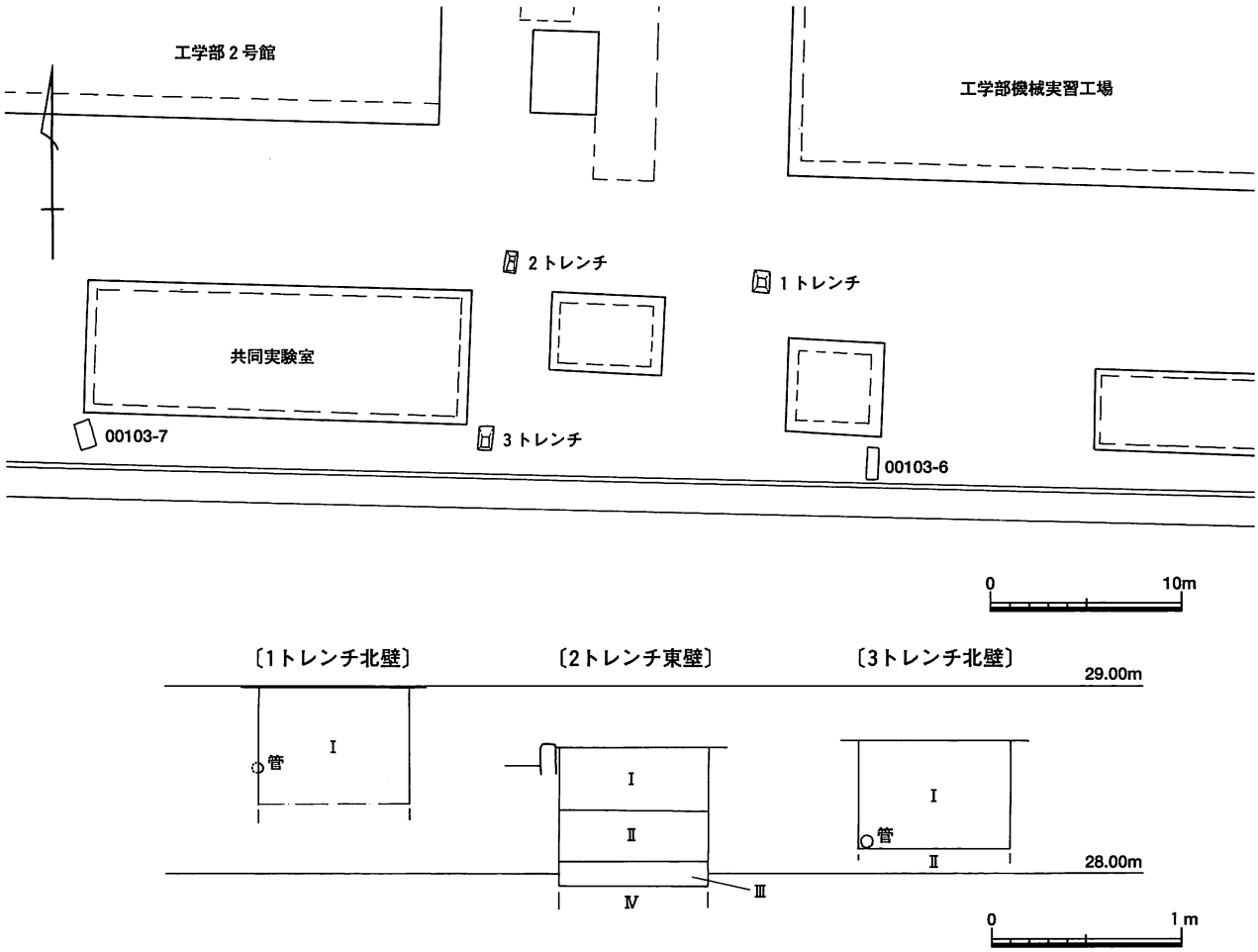


図12　00104調査1～3トレンチ位置図および土層柱状図（縮尺 1/400、1/40）

写真28　00104調査港湾実験室南側
掘削状況（西から）

写真29　00104調査１トレンチ（北から）

写真30　00104調査２トレンチ（西から）

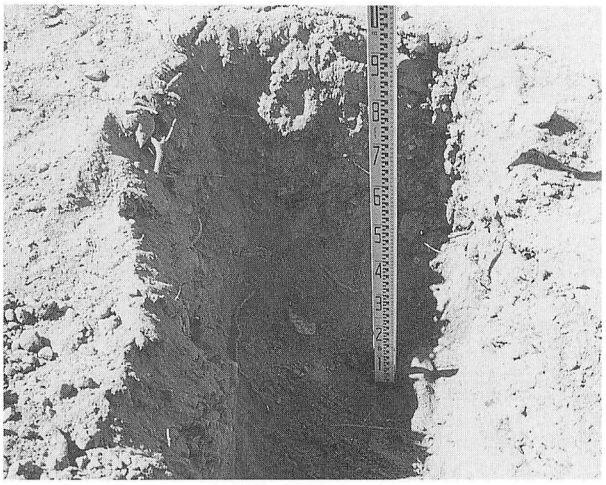


写真31　00104調査３トレンチ（北から）

でない箇所では、遺物包含層の残存が容易に推測でき、埋蔵文化財調査室としては、既設の給水管を掘り返すにしても、かつての掘削範囲の確定もあり、工事にあたって立会調査を実施することとした。

2　調査の記録

まず、港湾実験室と共同実験室の南側については、文京遺跡23次調査の６～８トレンチの所見から、既設給水管の掘削深度では、遺物包含層に達していないことが推測された。とりわけ、建物と南側囲障との狭い範囲しかない港湾実験室南側では、建物や囲障の余掘り内である可能性が高く、また浅い位置での埋設も確認されたので（写真28）、以後の慎重工事を依頼した。また、工学部機械実習工場南西隅へと道路を横断する箇所についても、既に深い位置への埋設が行われているため、これについても、慎重工事を依頼するに留めた。

一方、共同実験室東側のブロック建物周辺については、計画では、建物の西側と北側に埋設された既設給水管を再掘削するとされていたが、実際にはその位置に既設管がないことが判明し、ブロック建物の南側と東側への埋設が推測された。しかし、支線の配置上、新設給水管は当初の既設管想定位置に埋設することとなり、この実質新設となる管路部分について立会調査を実施することとした。調査対象としたのは給水管各クランク部分に相当し、機械実習工場南西隅と道路を挟んだ箇所を１トレンチ、共同実験室北東部を２トレンチ、共同実験室南東部を３トレンチとした（図12）。

［1トレンチ］（図12、写真29）

重機掘削により、トレンチ西壁で現地表下約40cmで既設給水管が検出された。トレンチ中央はさらに掘り下げたが、地表下約65cmまで攪乱を受けたⅠ層が続く。なお、1トレンチから北へは、道路横断部であり、既設管の埋設はさらに深くなると推定される。

［2トレンチ］（図12、写真30）

新設給水管のクランク部分に相当する。重機で掘り下げを行った結果、アスファルトおよび攪乱を受けたⅠ層が現地表下約35cmまで、その下に城北団地基本層序のⅡ層が現地表下約60cmまで続く。そして現地表下約60～75cmの間で城北団地基本層序のⅢ層が検出され、以下城北団地基本層序のⅣ層となった。この地点のⅢ層は、径1mm前後の砂粒をあまり含まず、弥生時代の包含層である可能性が高い。

［3トレンチ］（図12下段右、写真31）

既設給水管のクランク部分であり、その継ぎ手をトレンチ西寄りで検出した。検出レベルは、地表下約60cmで、現地表下約65cmまで掘り下げた周辺の土層は城北団地基本層序Ⅱ層であった。

3　調査後の対応

2トレンチにおいて遺物包含層であるⅢ層が地表下約60cmで検出され、また周辺の文京遺跡23次調査の6・7トレンチでも同様のレベルで検出されていることから、一帯は、およそ地表下約60cmが遺物包含層検出の目安となるものと推測できた。したがって、新設管路部分の掘削深度を地表下60cmとする工法変更を指示して、以後の慎重工事を依頼した。（吉田・三吉）

00105　（城北）総合研究棟新営（Ⅱ期）工事に伴う調査（文京遺跡24次調査）

調査地点　松山市文京町2番5号
　　愛媛大学城北団地理学部構内（図1）
調査面積　640m²
調査期間　2001年10月1日～2002年3月26日
調査の種別　本格調査
調査担当　吉田広・三吉秀充
依頼文書　理学部事務長発事務連絡
　　（平成12年10月25日付）

1　調査にいたる経緯

先に平成12年度補正予算で行われた、（城北）総合研究棟新営（Ⅰ期）工事に引き続いて、平成13年度予算において、同（Ⅱ期）工事が行われることとなった。これによって、文京遺跡21次調査に続いて、同（Ⅱ期）工事に伴う調査を、文京遺跡24次調査（調査番号：00105）として行うこととなった。

2　調査の概要

調査地点は、先の文京遺跡21次調査の東側にあたり、調査区の南辺と西辺は、21次調査区に連続する。調査面積は640m²。

城北団地基本層序であるⅠ・Ⅱ層を重機で取り除いた後、以後手作業で掘り下げを行った。Ⅰ層中からは、焼夷弾が1点出土している。戦時下における、大学周辺の状況を知る好資料である。

Ⅱ層の下、城北団地基本層序Ⅲ層の上で、主に水流に伴う砂質土堆積の遺構を検出した。これら遺構の堆積は、調査区北半で良好に残り、錯綜した溝・流路群が復元できる。なお、砂質土堆積の一部からは、斜縁の破鏡1点が出土している。

続いて、Ⅲ層を掘り下げたが、Ⅲ層自体、調査区の南部に薄く広がる程度で、出土遺物は少ない。この薄いⅢ層を除いて検出した遺構には、先の21次調査でも検出していた、弥生時代前期の住居・貯蔵穴、溝、土器溜まり等がある。

これら遺構の地山層であり、城北団地基本層序Ⅳ層にあたる黄褐色砂質～シルト質土についても、先の21次調査で縄文土器の出土が確認されたため、調査区全面について、城北団地基本層序Ⅴ層上面まで掘り下げを行った。結果、Ⅳ層中から炭化物・焼土の集中地点5箇所を確認し、調査区北部で大きく落ち込むⅣ層の堆積中からは、比較的多くの縄文土器の出土を得た。

（1）　Ⅲ層上面検出の遺構・遺物

（図13、14、写真32～35）

Ⅰ・Ⅱ層を除去した後、Ⅲ層上面で検出した遺構・遺物である。ただし、実際にⅢ層上で検出できたのは

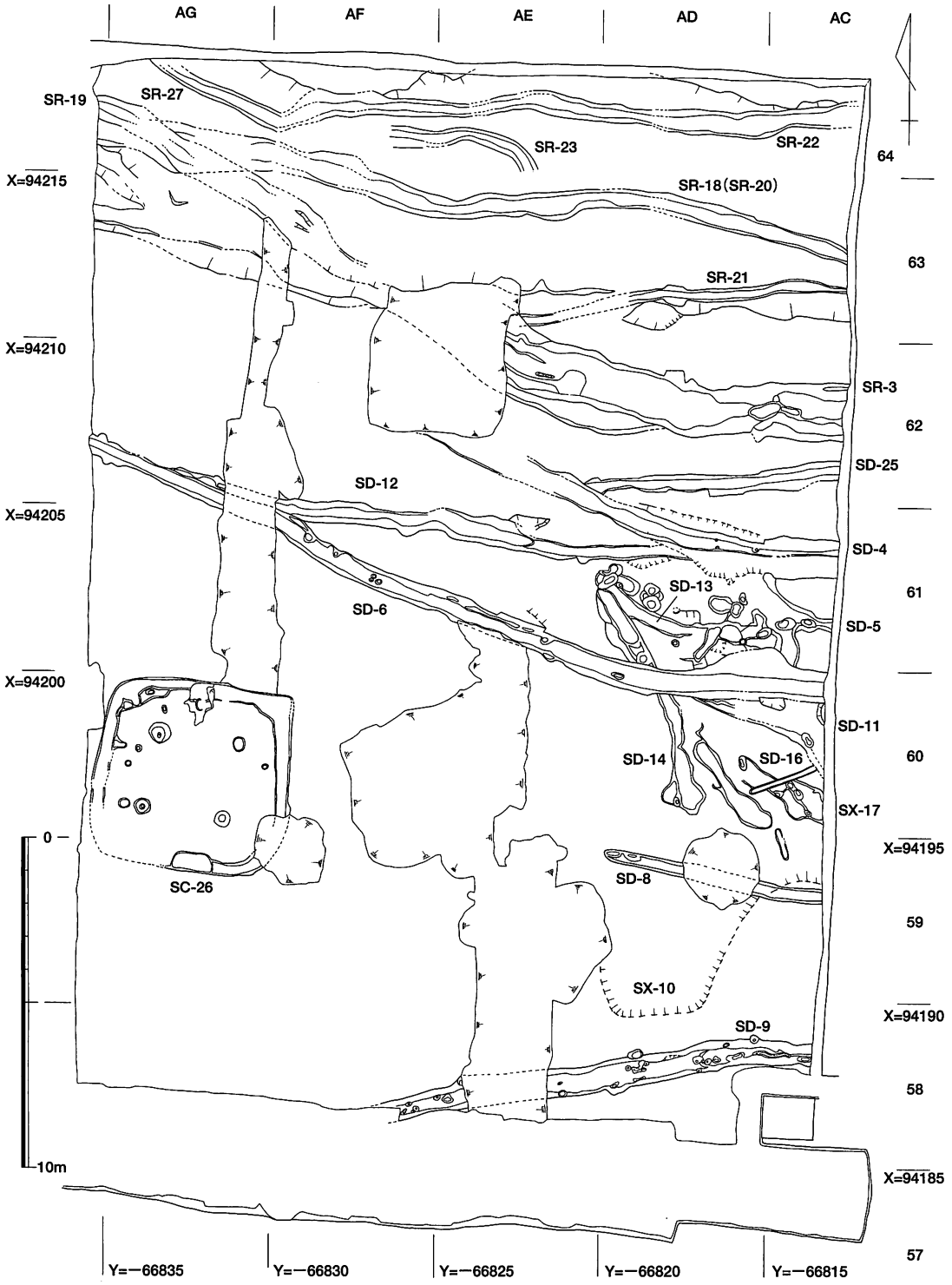


図13　00105調査（文京遺跡24次）Ⅲ層上面遺構全体図（縮尺 1/200）

写真32　00105調査（文京遺跡24次）Ⅲ層上面遺構完掘全景（西から）

写真33　00105調査（文京遺跡24次）SD-12・SD-6（西から）

写真34　00105調査（文京遺跡24次）SC-26（南から）

調査区の中央部のみで、同様の埋土の遺構として、Ⅲ層遺構埋土の上面、あるいはⅣ・Ⅴ層上面で検出した場合が多い。これらの遺構の多くは東から西へと流れる溝・流路で、水流によって埋まったものがほとんどである。他に唯一、調査区西辺中央部で、竪穴式住居1棟がある。

まず、調査区北部では、全面に溜まり状の堆積SX-1が認められ、その下は砂質土から砂・砂礫層堆積となる。大きくは、SR-2として西流する流路堆積である。ただし、その埋没途中では、人工的な溝の掘削・埋没を繰り返す。SD-18～23がこういったSR-2埋没過程での溝群である。SR-2は、21次調査SR-17に一致し、縄文時代晩期～古墳時代中期の土器が出土している。後述するⅢ層遺構SX-28上面で牛の足跡を検出しているが、これは、径0.1～1㎜前後の灰白色砂礫・径1㎜前後の砂礫を少量含む浅黄色砂質土・径1㎜前後のにぶい黄橙色砂質土等を埋土とし、SR-2埋没途中の踏み込みである。足跡は、検出面で5～10㎝

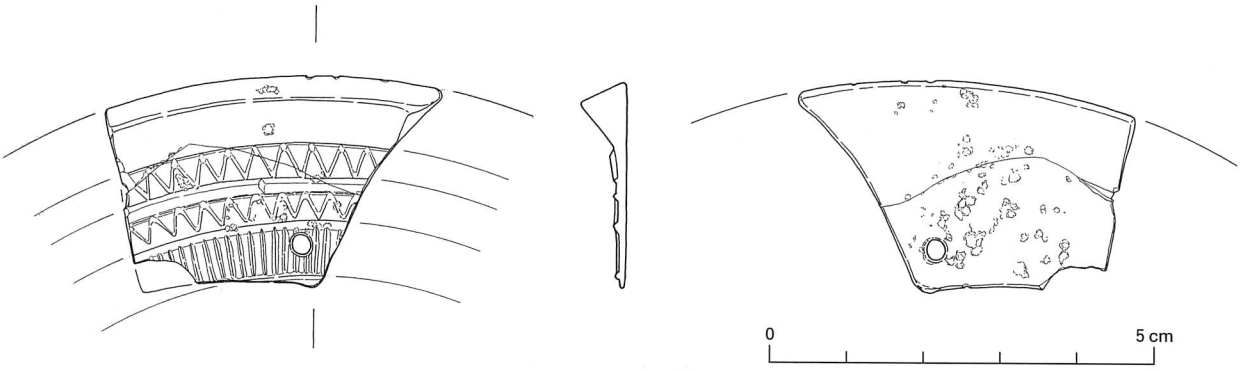


図14　00105調査（文京遺跡24次）SX-10出土破鏡実測図（縮尺 1/1）

前後のやや歪んだ円形を呈する。

調査区中央部にも、やはり西流する多くの溝群を検出している（写真33）。SR-3から南へとSD-25・4・12・5・6・11・14で、若干東南東－西北西方向に傾き、北側のSR-2と西方で合流していたものと推測できる。ただし実際は、上部の攪乱・削平により、最北のSR-3で合流状況を確認できるに留まる。このうち、SD-6は21次調査SD-2に一致する。SR-3からは、古墳時代中・後期の須恵器・土師器が出土し、格子叩きをもつ軟質系土器も見られる。切り合い関係から最新のSD-6からは、6世紀代の須恵器が出土している。

SD-6より南は、一部を除き、明確な砂・砂礫層堆積は及ばず、微細な土器片程度しか含まない、均質な砂質土堆積であるSX-10が広がる。溝群を埋めた水流の南縁に形成された堆積とみられるが、この堆積中から、破鏡1点が出土した（図14・写真35）。この破鏡は、鏡縁から外区までの4×3㎝ほどの破片で、復元面径は16.1㎝。鏡縁は斜縁。文様は、外区に外から外向鋸歯文・無文・外向鋸歯文・櫛歯文を確認できる。破片周縁をほぼ全周にわたって研磨し、角がとれて丸みをもつ。そして、櫛歯文帯に径約2.5㎜の孔を開ける。破断面は白銀色を呈し、銅質は良好である。このような特徴から、後漢後半期の舶載獣帯鏡と推定される。

SX-10の堆積を切る最も新しい遺構としては、SD-16・8があり、調査区南辺際では、やはり西流しながらも、今度は若干南へと流れを振るSD-9が認められる。このSD-9は、21次調査SD-6に連続する溝で、7世紀後葉の須恵器が出土している。

以上の流路・溝群が調査区の北から東側で認められたのに対し、調査区南西部にはこれが及んでいない。

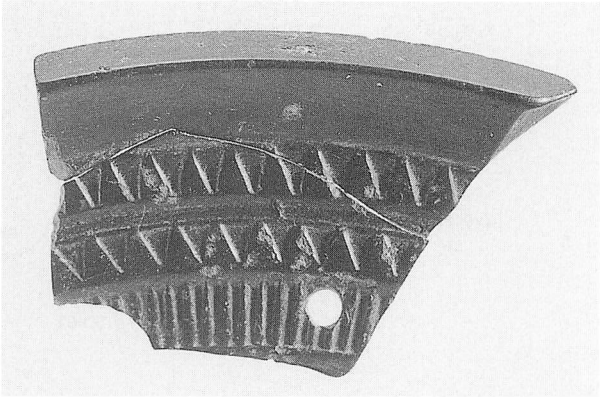


写真35　00105調査（文京遺跡24次）
SX-10出土破鏡

代わってここでは、1棟の竪穴式住居SC-26を検出している（写真34）。埋土はⅢ・Ⅳ層をブロック状に含み、しかもⅡ層とも見える黄褐色砂質土のブロックも混じえ、これまでの文京遺跡検出の竪穴式住居埋土とは、様相を異にする。平面約6×5.5mの長方形。床面の残存は良好でないが、4本主柱穴で周溝をもつ。また北辺中央部に接して、カマドを造り付けている。カマド部分からの出土須恵器により、この住居の年代を6世紀後葉以降に求めることができる。

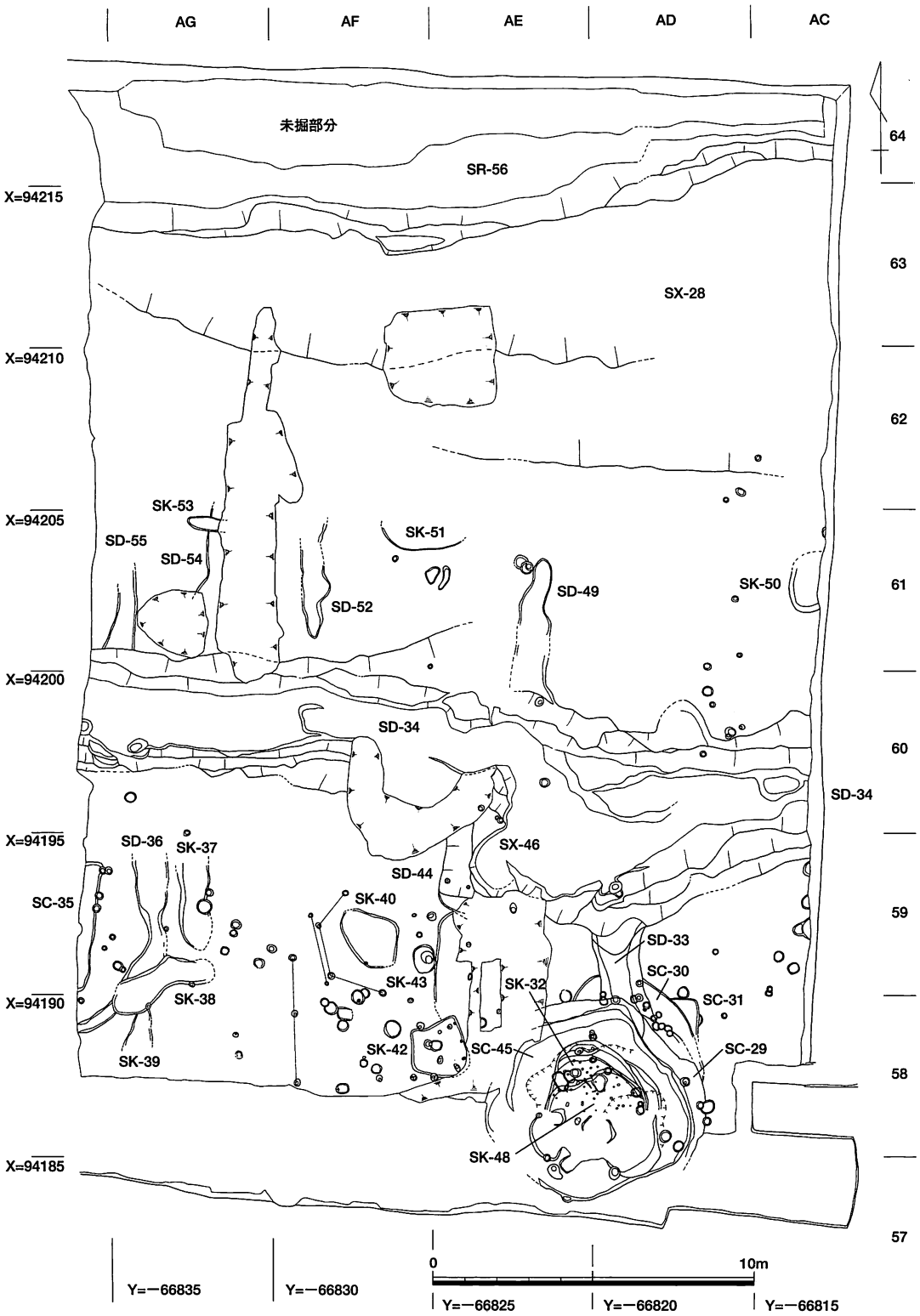


図15　00105調査（文京遺跡24次）Ⅲ層遺構全体図（縮尺 1/200）

写真36　00105調査（文京遺跡24次）Ⅲ層遺構完掘全景（北西から）

（2）　Ⅲ層の遺構・遺物（図15、写真36～42）

Ⅲ層上面遺構完掘後、包含層であるⅢ層を城北団地区割に基づいて１ｍ方眼単位で掘り下げた後、検出した遺構・遺物である。なお、包含層であるⅢ層自体、調査区の南西側に限られており、出土遺物も少ない。

検出した主な遺構は、調査区南東部での竪穴式住居・貯蔵穴と、調査区中央部を東西に横断する溝と、調査区北半の低地部に形成された土器溜まり・自然流路である。これらはいずれも、先の21次調査で確認された遺構に連続する。この他には、調査区南西部に柱穴と浅い土壙・溝があり、一部竪穴式住居の上部削平を想定できる例がある。

調査区南東部の竪穴式住居・貯蔵穴は、SD-９の下層にあたる。最上層は、SC-29を中心とした遺構群で、これにSD-33が切られ、さらにSC-30・31がSC-29とSD-33に切られている。SC-30・31はいずれも浅い掘り込みの残存しかなく、SC-30は長軸4.5ｍほどの平面楕円形の竪穴式住居。SC-31は方形のコーナー部分のみの検出で、土壙の可能性もある。SC-29は、21次調査SC-30にあたり、先の調査と併せて、径約７ｍの円形となる。埋土は均質な砂質土で、30㎝前後の深さを残す。下層にさらに遺構があるために、床面でこの住居に伴う柱穴などは検出できていない。SC-29の下には、径３ｍ強の不整な円形土壙SK-32があり、21次調査のSK-33にあたる。上層埋土はSC-29埋土にほぼ一致するが、下層埋土に粘性がある。しかも、床面として黄褐色シルト質土が貼られ、この床面に径５～10㎝の小さな杭状の痕跡が多数認められた（写真39）。SK-32の下にも、やや小さめの土壙SK-48が存在する。21次調査では認識していないが、後述するSC-45埋土に比べて、炭化物の混在が多く粘性のある埋土が、長軸３ｍほどの不整な半楕円形状に広がっている。そし

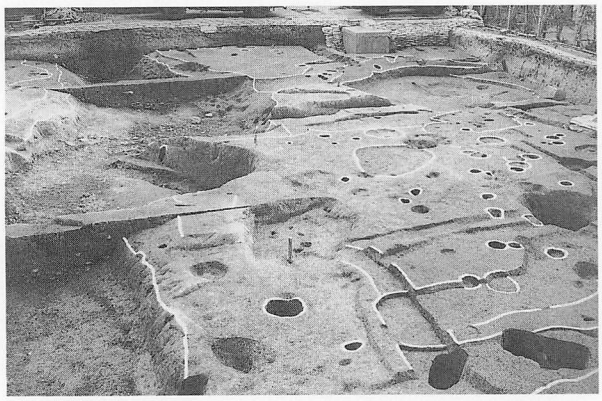


写真37　00105調査（文京遺跡24次）南半Ⅲ層遺構（西から）

写真38　00105調査（文京遺跡24次）SD-34（西から）

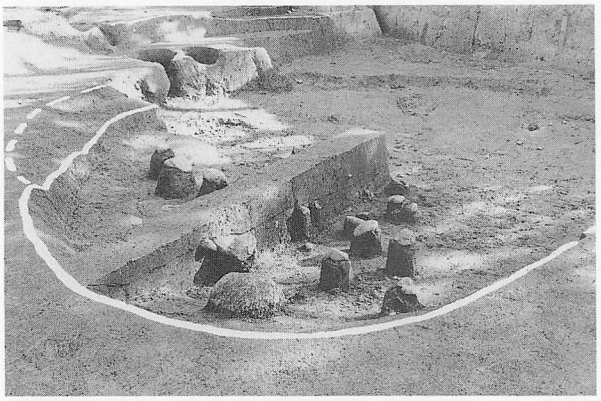


写真39　00105調査（文京遺跡24次）SK-32（北西から）

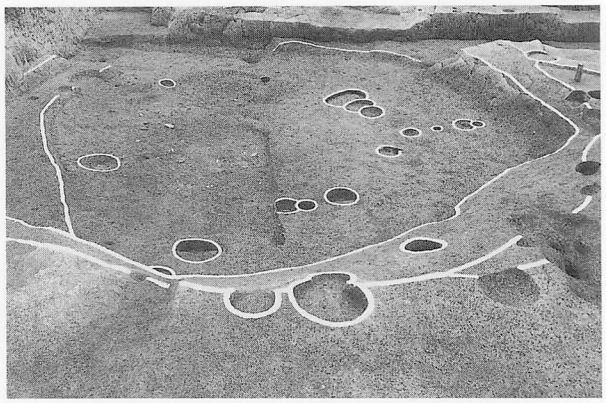


写真40　00105調査（文京遺跡24次）SC-45（東から）

写真41　00105調査（文京遺跡24次）SX-28上層下部遺物出土状況（北東から）

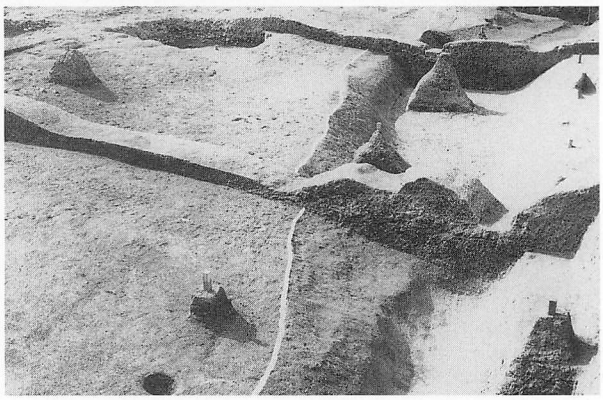


写真42　00105調査（文京遺跡24次）SX-28・SR-56（東から）

て以上の遺構の最下層として、竪穴式住居SC-45があり、21次調査のSC-34にあたる。21次調査区内では円形と見られたが、24次調査検出分を併せると、不整な隅丸方形の平面となり、一辺約5.5mの規模である。床面では、土壙や主柱穴などは検出できなかった（写真40）。以上の遺構からは、弥生時代前期中葉の幅にほぼ収まる土器が出土するとともに、多くのサヌカイト剝片や敲石・台石等があり、石器製作を窺わせる。また、土壌水洗により、径約4㎜の石製小玉2点も出土している。

調査区中央部を東西に走る溝SD-34は、先の21次調査で認められたSD-11にあたる（写真38）。調査区内

を東西に横断し、今回検出した長さは23m、21次調査と併せると、約65mに及ぶ。埋土は上・中・下層に三分でき、上層はⅢ層にほぼ共通するにぶい黄褐色砂質土で、中層はにぶい黄橙色砂質土、下層が灰黄褐色砂～砂礫層である。いずれの層も遺物を含み、その時期は南側の竪穴式住居・貯蔵穴とほぼ一致する。また、SD-34は、調査区内で一部クランク状を呈する。この部分をSX-46とした。ちょうど南側に同時期の住居跡が営まれる地点で、このSX-46が、西流するSD-34の水流を一旦受け止め、その流れを北に振り、再度西流させる格好となっている（写真37)。何らかの水利調整施設と思われるが、攪乱を挟むためもあって、その具体的構造を推し量る付随遺構は見出せていない。ただし、同時期の住居との関連や、さらにこのSD-34と住居群を結ぶかのようなSD-33の存在からして、住居と何らかの関わりのある施設であったことが推察できる。

調査区中央部でⅤ層は大きな高まりを形成し、北側に向かって急激に落ち込んでいく。そのためⅣ層の堆積もⅤ層により形成された地形の影響により、調査区北側に向けて大きく谷状に落ち込む。このⅣ層が形成する谷部を削り取りながら東西に流れるのがSR-56である。SR-56は先の21次調査で認められたSX-400の下部にあたる。SR-56は、調査区西端付近でやや北西方向に流れを振る。SR-56埋土は、主に灰色系の砂質土が主体であるが、一部にはⅣ層の二次堆積も見られる。埋土中から縄文時代後・晩期の土器・石器が磨滅をほとんど受けない状態で出土している。SR-56の埋没後も、谷部が完全に覆いつくされることはない。その後も、流水活動は断続的に続き、調査区北壁にかけて径１㎜前後の砂礫を主体とした砂礫群の堆積が見られる。この砂礫群堆積以降もSR-56の連続性で捉えることが可能であるが、調査段階ではSX-28として別の単位として認識した（写真42)。先の21次調査で認められたSX-400にあたる。SX-28の砂礫群堆積は、SR-56とⅣ層によって形成された谷状地形に規制され、調査区西側付近で大きく北西に振れる。この砂礫群は、谷状地形の南肩には見られず、北肩のみに見られることから、SR-56埋没以降、調査区北側方面に向けて大規模な洪水砂の展開があったことが想定される。その後再び流水活動が始まるが、SX-28の埋土には、暗褐色粘質土や黄褐色粘質土からなる堆積層が数単位見られ、流水も断続的かつ小規模のなものであったと考えられる。SX-28は、調査区の東から、調査区北側中央付近で北西に方向を変えるが、これらの粘質系埋土が堆積する段階には、ちょうどこの変換点で流水が弱まり、溜まりを形成していたと考えられ、台石や自然礫に混じって縄文晩期の土器・石器が密集して出土した（写真41)。なお、SR-56・SX-28からは、わずかながらも明確な弥生土器の出土がある。

（３）　Ⅳ層の遺構・遺物（図16、写真43～47)

Ⅲ層遺構を完掘後、その地山層であるⅣ層中で検出した遺構・遺物である。遺構としては、焼土・炭化物の集中する箇所が５地点で、土器は主に調査区北部のⅣ層が大きく落ち込んだ部分で出土している。

SX-71～75は、焼土・炭化物の集中地点。SX-71は、調査区西辺に接し、21次調査のSX-415の連続である。SX-72は、SD-34とSX-46による攪乱で全形を窺い得ない。SX-73～75は調査区中央東部に位置し、互いに近接する。SX-73は、径2.5mほどの焼土・炭化物の集中である。中でも50㎝内外の範囲に集中が著しく、縄文後期と推定される無文の粗製浅鉢も出土している（写真44)。SX-74はSX-73の北東、1.5mほどの空隙を空けながら、長軸２ｍ・短軸１ｍほどの楕円形の範囲での炭化物の集中で、焼土・土器片は少ない。SX-73の北約５ｍ、炭化物・焼土が径１ｍほどの範囲に集中するのがSX-75である。ここでは、特に大きな焼土塊が目立つ（写真45)。

調査区中央部のⅤ層の盛り上がり以北では、大きくⅣ層が落ち込む（写真47)。その落ち込んだⅣ層中から、縄文土器がややまとまって出土している。とは言え、いずれも小破片で時期決定すら難しいが、それでも、大きく落ち込んだⅣ層の最下部、ほぼⅤ層の上面から、縄文前期末に遡る土器が出土している（写真46)。

以上のように、ほぼ調査区全域でⅣ層を取り除き、Ⅴ層上面を検出した（図16、写真43)。

3　調査のまとめ

今回の調査では、先の21次調査とも併せて、理学部構内における面的な調査として多くの成果を得ることができた。

まず、旧地形について、調査区中央部でのⅤ層の盛り上がりにより、その北方で大きくⅣ層が落ち込み、南側に比較的安定した微高地が形成される状況が明らかになった。このような地形の形成、すなわちⅤ層の

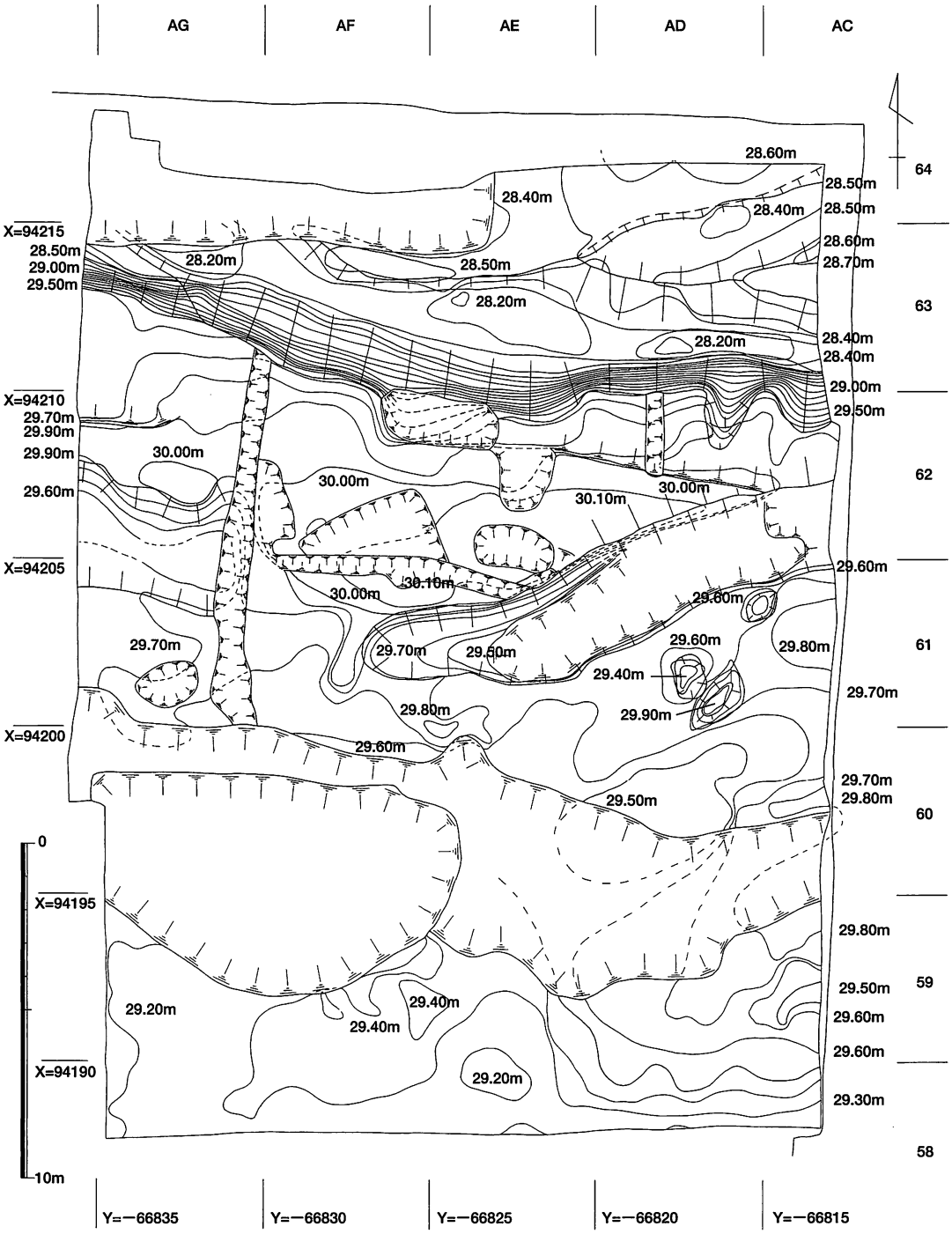


図16　00105調査（文京遺跡24次）Ⅴ層上面地形図（縮尺 1/200）

写真43　00105調査（文京遺跡24次）Ⅳ層完掘全景（西から）

写真44　00105調査（文京遺跡24次）SX-73
土器出土状況（南西から）

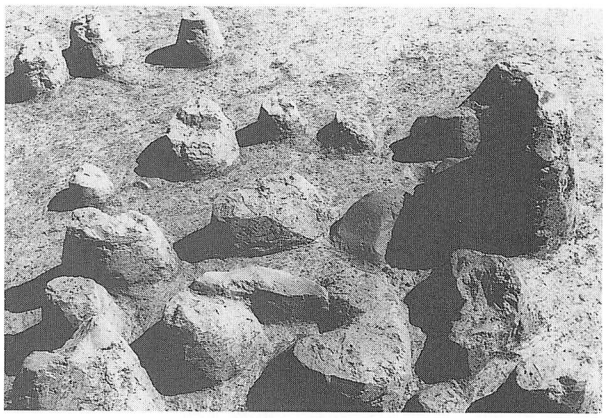


写真45　00105調査（文京遺跡24次）SX-75（西から）

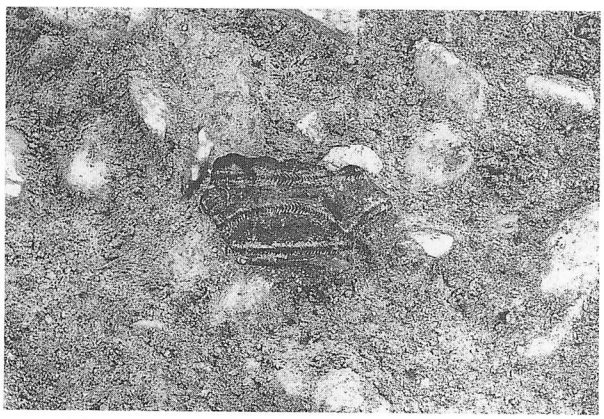


写真46　00105調査（文京遺跡24次）Ⅳ層中
土器出土状況（北東から）

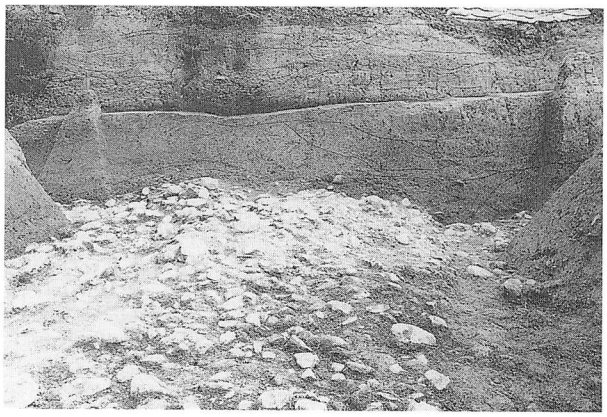


写真47　00105調査（文京遺跡24次）
東壁北部土層（西から）

堆積は、Ⅳ層が大きく落ち込んだ地点でのⅤ層直上近くから出土した土器によって、縄文時代前期末に遡ることが推察できる。これ以降、西に延びる微高地の北縁辺という地形環境が決定し、以後の弥生集落あるいは古代中世に及ぶ土地利用のあり方を規定していったのである。

とりわけ、水稲農耕開始期の集落として、このような地形環境が選択されて、松山平野最古の本格的集落が展開した状況を明らかにできたことは、大きな成果である。すなわち、文京遺跡４次調査の成果も含めて、微高地上に散在的に住居を営み、居住地の低地側に大溝を掘削して、低地部に想定される水田へと導水とする様を復元することができる。また、古代から中世にかけても、北側窪地からの取水、あるいは窪地への排水を意図した溝が、時代を越えて営まれ、周辺での旺盛な耕作活動が想定される。

一方、大型掘立柱建物を中心とした、旧グラウンド周辺の弥生時代中期後葉から後期中葉の時期については、今回の調査地点では、明確な遺構を見出すことができず、該期の出土遺物も少ない。ところが、鏡式からこれに後続する時期の破鏡１点の出土は特筆できる。弥生時代終末から古墳時代初頭の遺物は、流路・溝跡からも出土しているが、この時期に関しては、周辺の状況はほとんど不明であったのが実際である。むしろ後期中葉以降、集落の主体は、西側の松山大学構内へと移動していくものと考えられていたが、今回の調査地点を含めた東側にも、このような舶載文物を所有した集団を想定する必要があろう。道後城北遺跡群の動向を考察する上で、重要な資料である。

（吉田・三吉）

00106　農学部寄附建物新営工事に伴う調査（樽味遺跡６次調査）

調査地点　松山市樽味３丁目５番７号
　　愛媛大学樽味団地（図２）
調査面積　1,205㎡
調査期間　2001年11月15日～2002年２月６日
調査の種別　本格調査
調査担当　田崎博之
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　農学部事務長発事務連絡
　　（平成13年10月17日付）

１　調査にいたる経緯

2001年５月22日に、農学部長から、三浦工業株式会社から寄付講座（環境産業科学講座）の充実拡大と環境分野研究の発展のため研究施設を寄附されることが提示され、建物建設に伴う発掘調査について検討が要望された。ところが、外部資金導入という形式での建物建設であり、調査費用・調査後の整理費・報告書刊行費用などが確保されているか未決定の状況であった。しかも、この時点では、城北団地理学部構内において、総合研究棟新営（Ⅰ期）工事に伴う調査を実施中であり、引き続いて総合研究棟新営（Ⅱ期）工事に伴う調査が予定され、発掘調査日程の調整が難しい状態にあった。そこで、埋蔵文化財調査室は、建物建設予定地の試掘調査を行うとともに、調査期間の調整や発掘費用についての協議を、農学部・施設部と進めることとした。

試掘調査（調査番号：00102）は６月７日に実施し、建設予定地内に一部遺物包含層や遺構の残ることを確認した。その調査結果と、全面調査が必要であるとの判断を、施設部を通じて農学部に報告した。７月４日に開かれた埋蔵文化財調査委員会では、埋蔵文化財調査室長から、今回の発掘調査について経緯と対応が報告され、調査費用の負担とその執行方法、調査後の整理費・報告書刊行費用の負担などの発掘調査の条件整備の対応についての要望が出された。これに対して、委員長から調査費は国費で執行されることが確認された。また、農学部長からは、今後事務局と調整を行い、発掘調査に関わる条件整備を行いたい旨の発言があった。この委員会を承け、７月18日に、施設部・農学部・埋蔵文化財調査室で協議を重ね、11月上旬に発掘調査に着手すること、調査対象面積、調査期間を短縮するために工事に伴う掘削範囲をできるだけ縮小する調整を行うことが確認された。

実際の発掘調査は、樽味遺跡６次調査（調査番号：

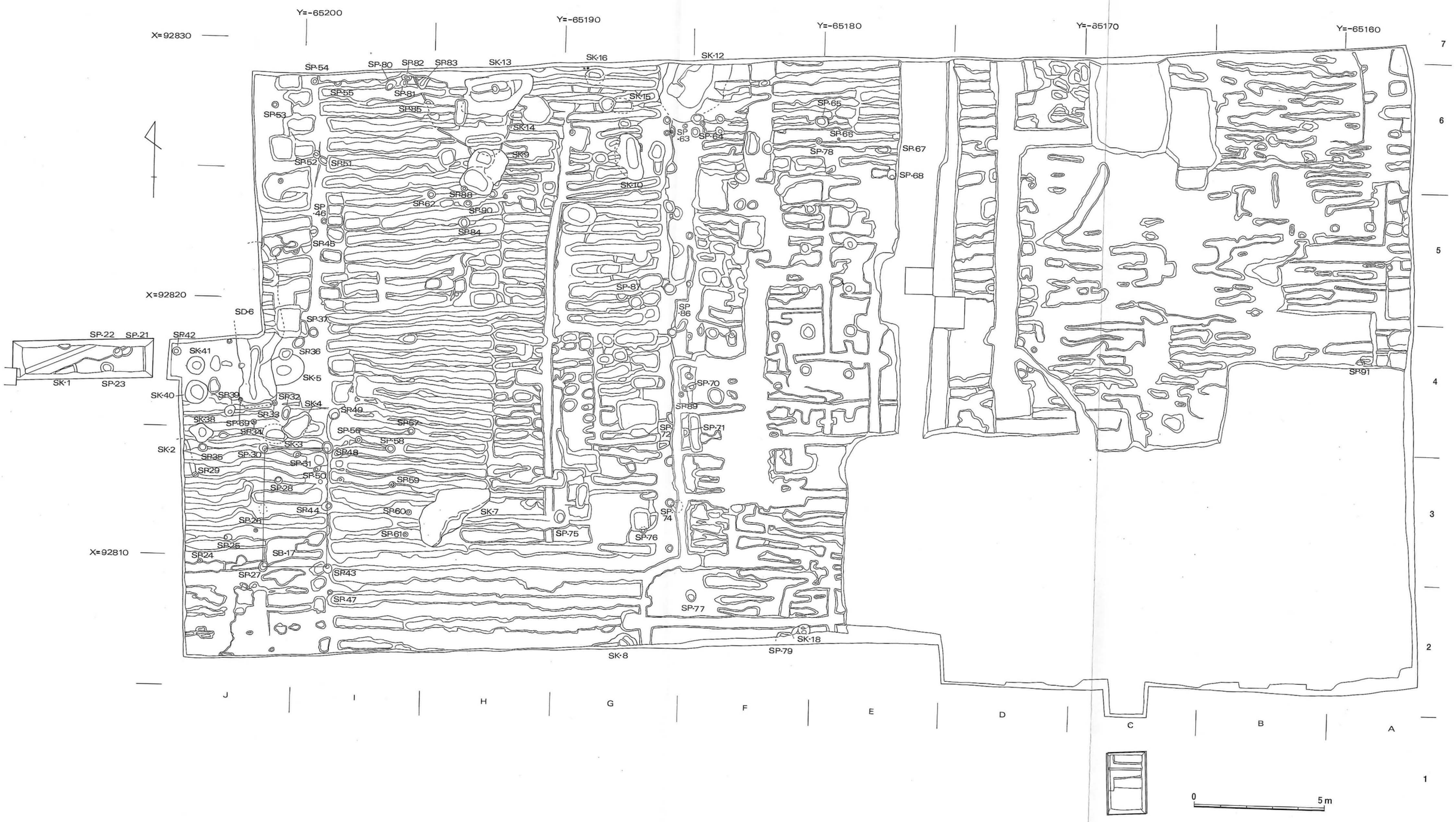


図17　00106調査（樽味遺跡６次）全体図（縮尺 1/150）

00106）として11月15日に着手した。

2　調査の概要

調査にあたっては、日本測地系平面直角座標系第Ⅳ系にしたがい、（X=92800，Y=－65155）を基点として、５ｍごとに東から西へA・B……K・L、南から北へ１・２……５・６とする５ｍ方眼の調査区割を設定した。遺構の位置表示やⅢ層の掘り下げに際する遺物の取り上げなどに利用した。

また、樽味団地では、団地全域にわたる基本層序Ⅰ～Ⅴ層を設定している。今回の調査では、調査区全面が天地返しされていたとともに、東半部は団地造成時に削平され、表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分であるⅠ層、団地造成以前の灰色系の近世～近代の水田層のⅡ層を除去すると、黄褐色系のシルト～砂質土層のⅣ層があらわれ、他の調査地点で確認されている弥生時代以降の遺物を包含するⅢ層は見られない（写真50）。

（１）　遺構・遺物

今回の調査では、以下の掘立柱建物と土壙、溝、柱穴・小穴の遺構が出土した。掘立柱建物・土壙・溝には１～18、柱穴・小穴には21～91の遺構番号を調査順に与え、遺構種別を表す略号を冠して表記している。なお、32・38・40・41号遺構については、当初柱穴もしくは小穴として遺構番号を付したが、調査後に土壙と判断した。また、11・19・20・73号は欠番である。

掘立柱建物	１棟	（SB-17）
土壙	19基	（SK-１～５・７～10・12～16・18・32・38・40・41）
溝	１条	（SD-６）
柱穴・小穴	61基	（SP-21～26・28・29・31・33～37・39・42・45～47・49・50～72・74～91）

このように、調査面積に比べて、出土した遺構数は少なく、分布も調査区西半部に偏っている（図17、写真48・49）。Ⅳ層を観察すると、西半部では黄褐色シルトであるのに対して、東半部では砂礫が多く混じる黄褐色砂質シルトである。既往の調査では、東半部で見られるような砂礫が多く混じる黄褐色砂質シルトは、本来、黄褐色シルト下に堆積する土層である。Ⅲ層が調査区内ではまったく残存していないこともあわせ、調査区東半部を中心に削平を受けているため、前述したような遺構分布を見せるものと考えられる。

さて、これらの遺構を埋土の特徴別に見ると、ａ～ｃに区分できる（ただし、SP-78・80・90は、記録を混乱させたため、埋土の詳細不明）。

ａ：黒褐色粘質土もしくは黒褐色シルトを埋土とする遺構（SB-17、SK-１～５・８～10・12～16・18・32・38・40・41、SD-６、SP-21～24・26・29・31・34～37・39・42・45～47・49・55・61・63～72・74～77・79・81～83・85～89）

ｂ：褐色シルトを埋土とする遺構（SK-７、SP-25・33・50～52・54・56～60・84・91）

ｃ：その他の埋土をもつ遺構（SP-28・53・62）

この中で、ａの埋土をもつSK-２・９・12、SD-６には、部分的にｂの埋土の褐色シルトが見られる。また、ａ・ｂの埋土をもつ遺構からは、いずれも古代末～中世前期の遺物が出土している。埋土の違いはあるが、ともに当該期の遺構であると考えられる。

①　掘立柱建物

掘立柱建物はSB-17の１棟が出土している(写真52)。調査区西半部のⅠ・Ｊ-２・３区に位置する。西側の桁行中央の柱穴を欠くが、SP-27・30・43・44・48から構成される梁間１間、桁行２間の掘立柱建物である。主軸はほぼ真北方向。梁間長は、南側のSP-24・43間が2.49ｍであるのに対して、北側のSP-30・48間が2.36ｍと若干狭い。桁行長は、東西ともに4.54ｍを測る。

②　土壙

SK-１～５・７～10・12～16・18・32・38・40・41の19基の土壙が出土した。いずれも調査区の西半部に位置する（写真49）。

その中で、SK-７・12・13は、半月形の土壙で、ひっくり返されたように大きなブロックでⅣ層が埋土に混じる特徴から風倒木痕と判断した（写真55～57）。この他、SK-14が比較的大型で竪穴式住居の可能性も考えられるが、比較的小型のものが大半を占める。また、遺物を出土している遺構も少ない。その中で、SK-40・41からは、古代末～中世前期の土師器皿および坏が出土した（写真54）。

③　溝

調査区西端でSD-６の溝が１条出土した。南北に延びる溝で、部分的に攪乱で破壊されているが、溝幅1.1～1.8ｍを測る。北端では深さ10㎝と比較的浅いが、南側は23㎝とやや深く細い溝状の窪みが見られる（写真53）。

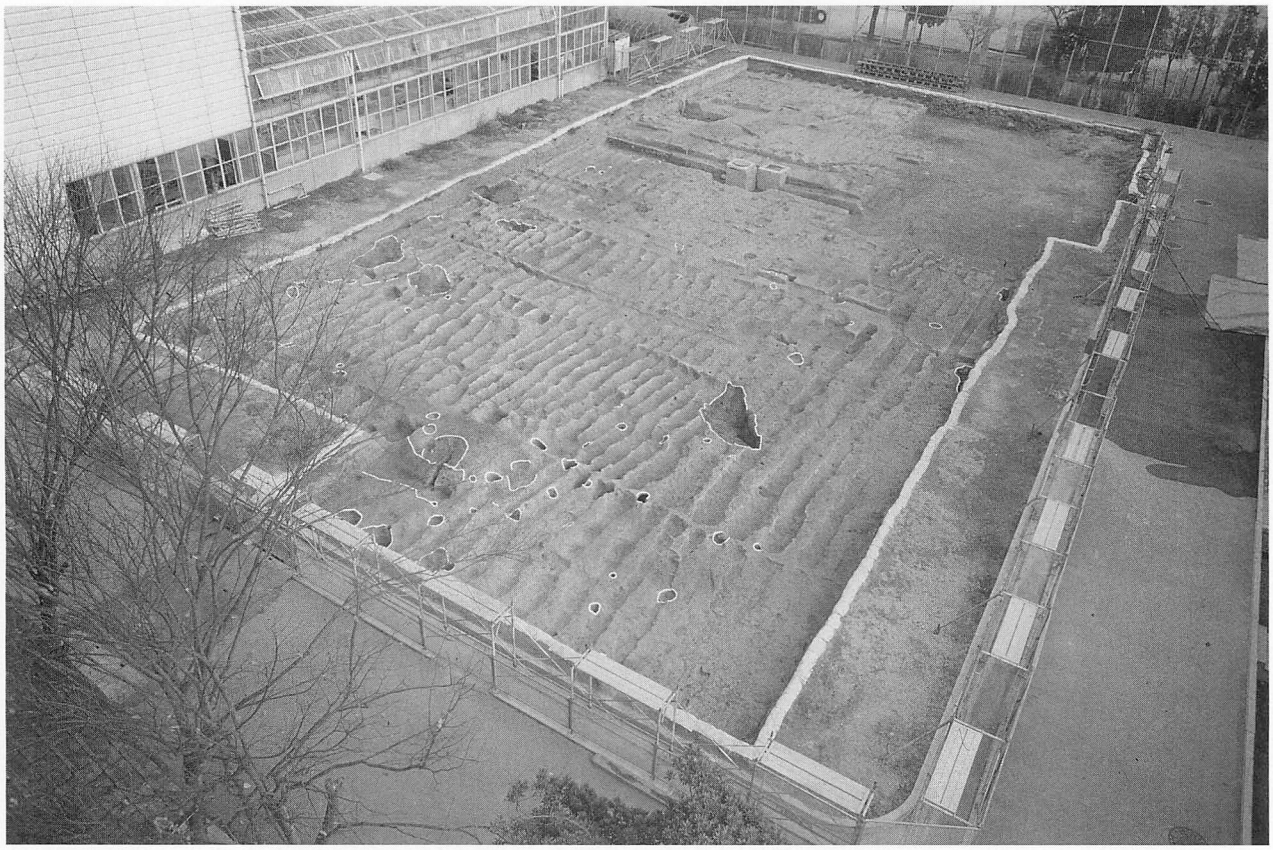


写真48　00106調査（樽味遺跡６次）完掘全景（西から）

写真49　00106調査（樽味遺跡６次）完掘西半部（南から）

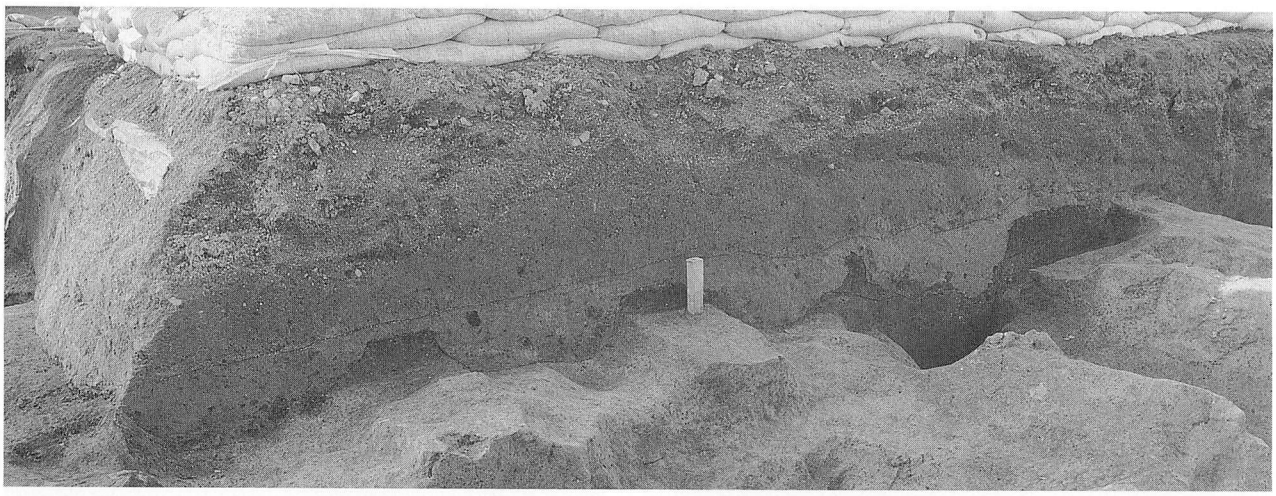


写真50　00106調査（樽味遺跡６次）西壁土層（東から）

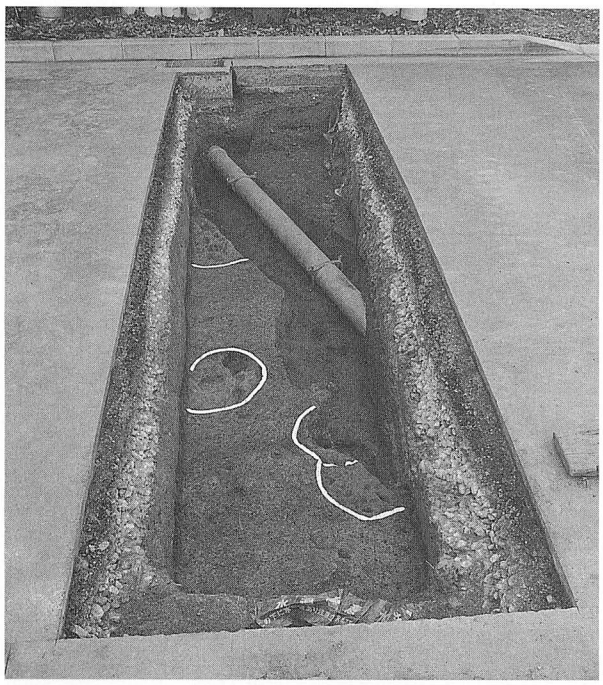


写真51　00106調査（樽味遺跡６次）K・L－６区
管路部分（東から）

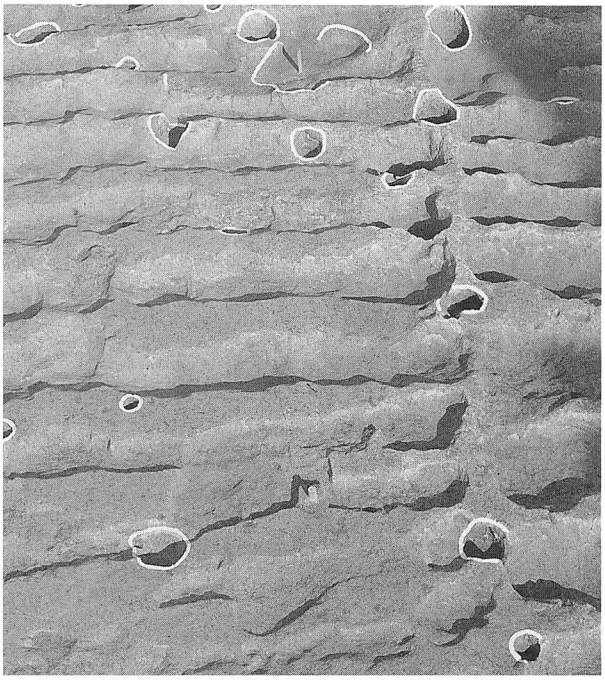


写真52　00106調査（樽味遺跡６次）SB-17（南から）

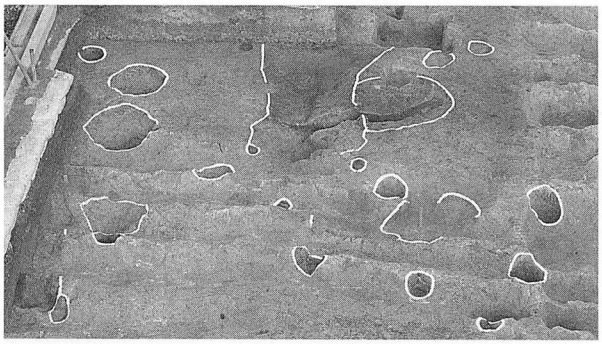


写真53　00106調査（樽味遺跡６次）Ｉ・Ｊ－４・５区
完掘（南から）

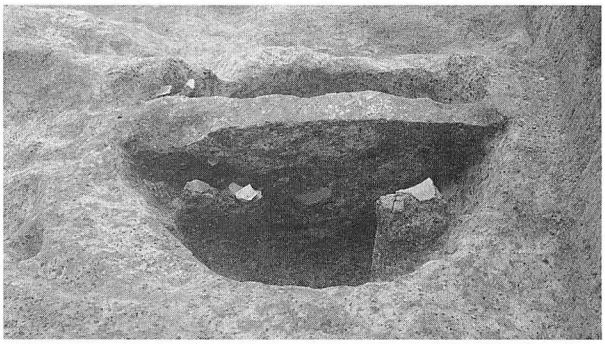


写真54　00106調査（樽味遺跡６次）SK-40（北から）

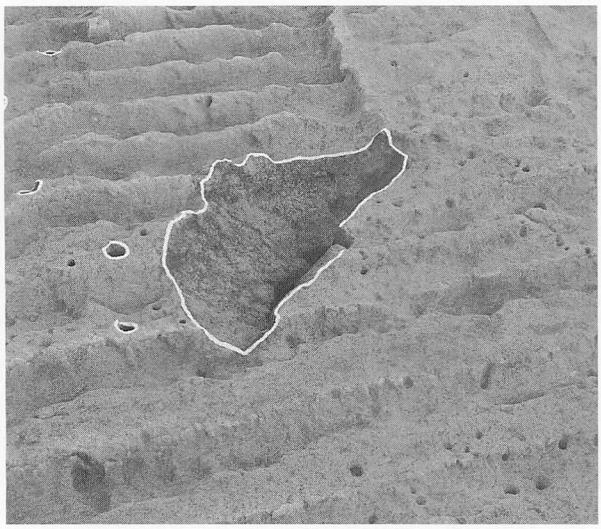


写真55　00106調査（樽味遺跡６次）SK-７（南から）

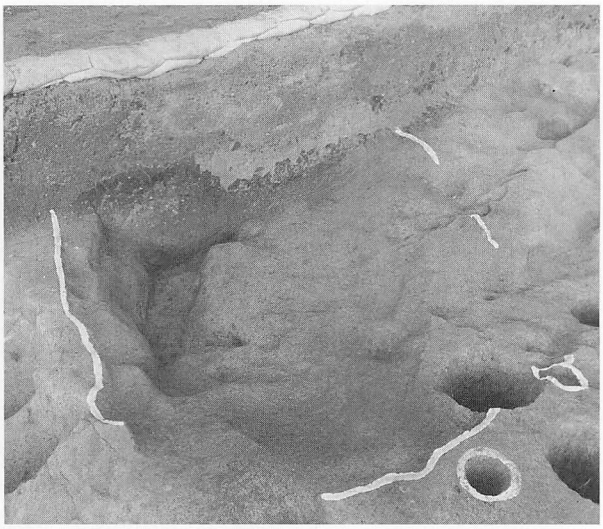


写真56　00106調査（樽味遺跡６次）SK-12（南西から）

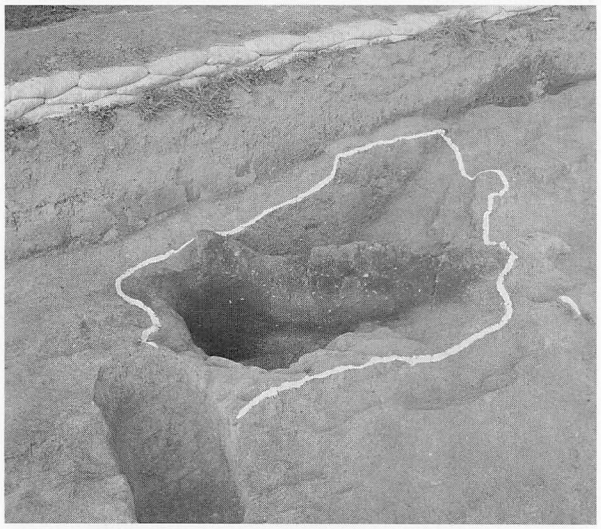


写真57　00106調査（樽味遺跡６次）SK-13（東から）

写真58　00106調査（樽味遺跡６次）SP-39土層（北から）

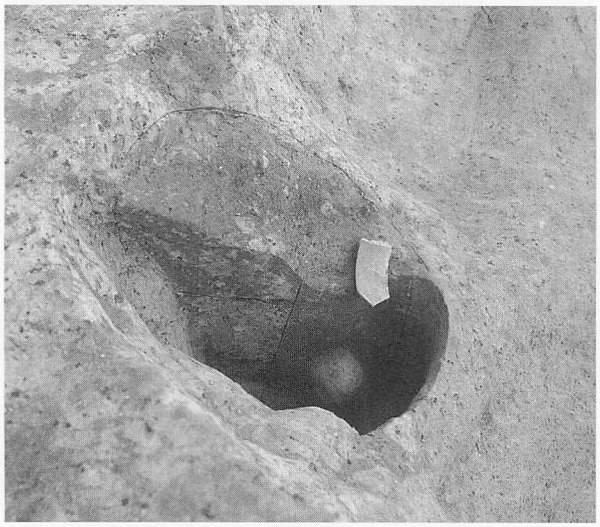


写真59　00106調査（樽味遺跡６次）SP-49土層・
遺物出土状況（南西から）

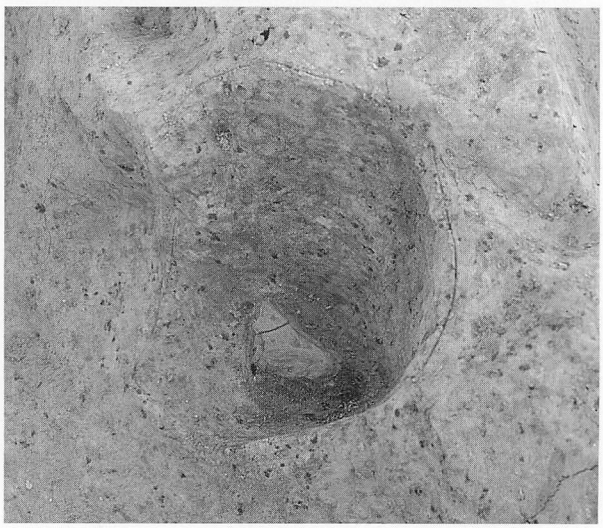


写真60　00106調査（樽味遺跡６次）SP-59
遺物出土状況（西から）

④　柱穴・小穴

調査区西半部を中心として61基の柱穴・小穴が出土した。その中で、SP-22・39・49・74・75は、立柱もしくは杭の痕跡をもつ（写真58・59）。また、SP-35・42・59も、比較的深くしっかりした掘方をもつ小穴で、立柱痕跡は確認できなかったが、柱穴である可能性が高い。また、SP-49では亀山焼・土師器・敲石が出土した（写真59）。柱の抜き取り跡に詰め込まれた遺物である。SP-59でも、底面からやや浮いた状態で底部を下にして土師器椀が詰め込まれていた（写真60）。

3　調査のまとめ

今回の調査では、調査面積に対して、出土した遺構・遺物は少ない。これは、調査区東半で本来Ⅳ層の下半部に堆積する砂礫が多く混じる黄褐色砂質シルト層がⅡ層直下であらわれることから、調査区東半部を中心として削平を受けているためと考えられる。一方、調査区西半部では、少ないながら古代末～中世前期の遺構を確認できた。今回の調査区の南側に隣接する樽味遺跡５次調査（調査番号：99807）Ⅲ・Ⅳ区では、10～14世紀の自然河道が発見されている。当該期の集落が自然河道北側の、今回の調査区西半部を中心として営まれていたことを明らかにできる。　（田崎）

00107　事務局構内外灯設備移設工事に伴う調査

調査地点　松山市道後樋又10番13号
　　愛媛大学城北団地事務局構内（図１）
調査面積　6.0㎡
調査期間　2001年11月21・27日
調査の種別　立会調査
調査担当　吉田広
依頼文書　施設課長発事務連絡
　　（平成13年11月５日付）

1　調査にいたる経緯

事務局構内の整備に伴い、外灯設備移設工事が行われることなった。電線管の埋設深度は地表下80cmで、既往調査の所見から、埋蔵文化財に影響はないと判断されたが、掘削深度が地表下150cmに及ぶ外灯基礎部分２箇所については、既往調査の所見では不明なため、工事に伴い立会調査を実施することとした。

2　調査の記録

調査地点は２箇所で、工事日程の関係から、間をおいて２回の調査を行うこととなった。先に行った、事務局建物南側の外灯基礎新設部分が１トレンチ、事務局建物西側・テニスコート南側の外灯基礎新設部分が

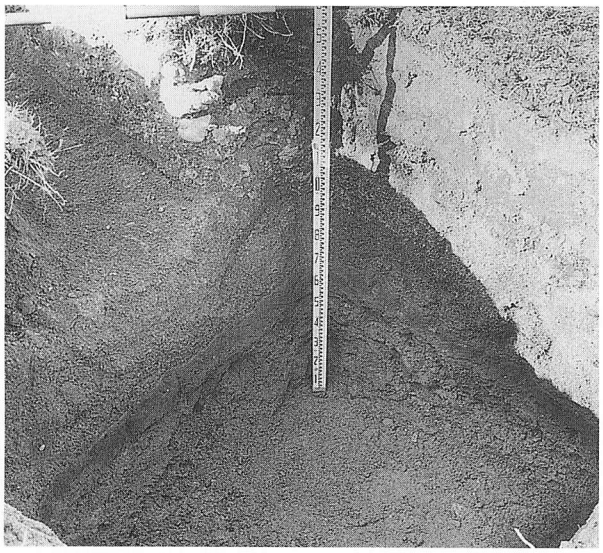
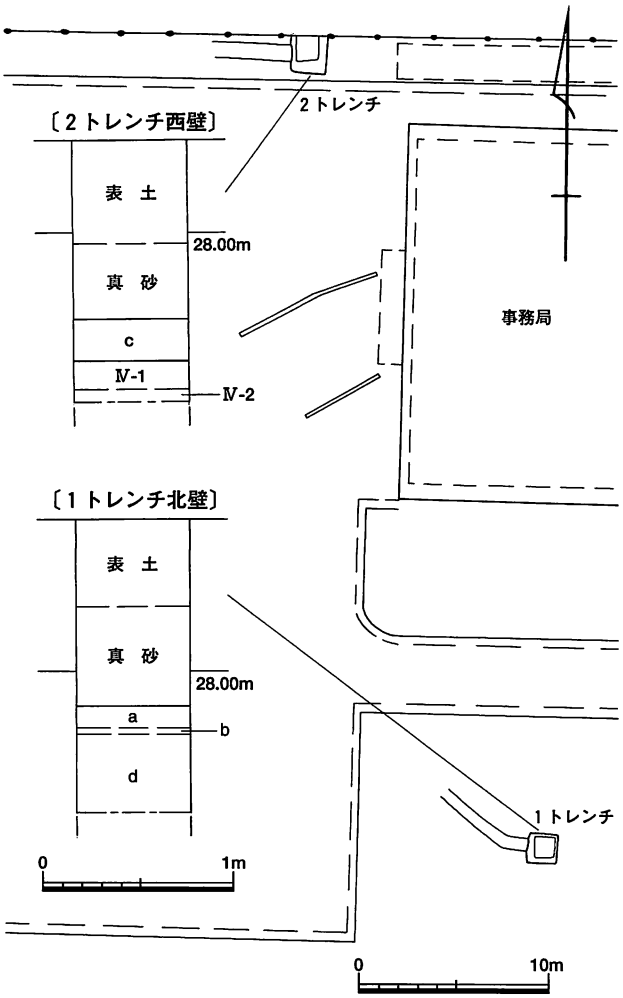


写真61　00107調査１トレンチ（南東から）

写真62　00107調査２トレンチ（南東から）



a ：暗青灰色（10BG3/1）粘土。径1㎜までの砂粒をやや含む。
b ：オリーブ灰色（2.5GY5/1）シルト。径1㎜前後の砂粒をやや含む。a層との間に鉄分の沈着有。
c ：緑黒色（10G2/1）粘土。径1～2㎜の砂粒を少量含む。上下層との間とも、鉄分の沈着有。
d ：灰色（10Y5/1）砂。径0.5㎜までの砂粒を主体とし、それ以上の砂粒も多く含む。拳大の塊石も有。しまり弱い。
Ⅳ-1：明黄褐色（2.5Y6/6）シルト。径1～2㎜の砂粒を多く含む。
Ⅳ-2：明黄褐色（2.5Y6/6）シルト質土。Ⅳ-1に比べ、より細かい砂粒が多く、砂質やや強い。

図18　00107調査1・2トレンチ位置図および土層柱状図（縮尺 1/400、1/40）

2トレンチである（図18）。

［1トレンチ］（写真61）

地表下約100㎝までは表土層であるが、下部約55㎝は、均質な真砂土が認められた。その下で、グライ化した粘土層（a・b層）が約15㎝あり、以下地表下155㎝まで、砂層が続いた。この砂層（d層）は、拳大の塊石も含むが、しまりがない。中世以降の水流に伴う堆積と推測されるが、出土遺物も見られず、時期の詳細は不明である。

［2トレンチ］（写真62）

1トレンチ同様、表土層の下に均質な真砂土層が現地表下約95㎝まで認められ、その下ではやはり20㎝ほどの厚さでグライ化した粘土層（c層）が堆積する。ところが2トレンチでは、この粘土層の下で、城北団地基本層序のⅣ層があらわれる。地表下約140㎝まで掘り下げたが、なおⅣ層が続く。

3　調査のまとめ

城北団地事務局構内においては、低湿地に溜まるグライ化した粘土層が広がっており、これに対応すべく、真砂土40～50㎝によるかさ上げ工事が行われている。粘土層の下では、流路内堆積の地点とⅣ層が検出できる地点とがあり、事務局構内北側を西流する現行の大川が、かつて事務局構内を一部貫流し、網の目状の流路と、その間の微高地を形成していたと推測される。

4　調査後の対応

掘削深度内までの土層堆積状況を記録して、以後の慎重工事を依頼し、調査を終えた。　（吉田）

00108　教育学部4号館便所改修電気設備工事に伴う調査

調査地点　松山市文京町3番
　　愛媛大学城北団地（図1）
調査面積　1.5㎡
調査期間　2002年3月26日
調査の種別　立会調査
調査担当　田崎博之
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設部施設課長発事務連絡
　　（平成14年3月14日付）

1　調査にいたる経緯

施設部から、城北団地北半部に位置する教育学部４号館の便所改修工事に伴い、建物北側に接地極を埋設する電気設備工事が行われる旨、連絡があった。地点的には、４号館もしくは北側から延びる共同溝建設時の余掘り部分にあたる可能性が高いが、余掘りがどの程度の範囲にあるか、正確な記録がないため、立会形式で調査を実施することとした。

2　調査の記録（図19、写真63・64）

調査地点は、教育学部４号館北側の玄関西部分である。地表下約65cmで共同溝があらわれ、攪乱されていた。教育学部４号館に向かって北側から延びる共同溝の両側１ｍは、建設時の余掘りとして掘削され、埋蔵文化財は既に破壊されている。

3　調査後の対応

工事による掘削範囲を共同溝壁から１ｍ以内に留めることを依頼し、調査を終了した。　（田崎）

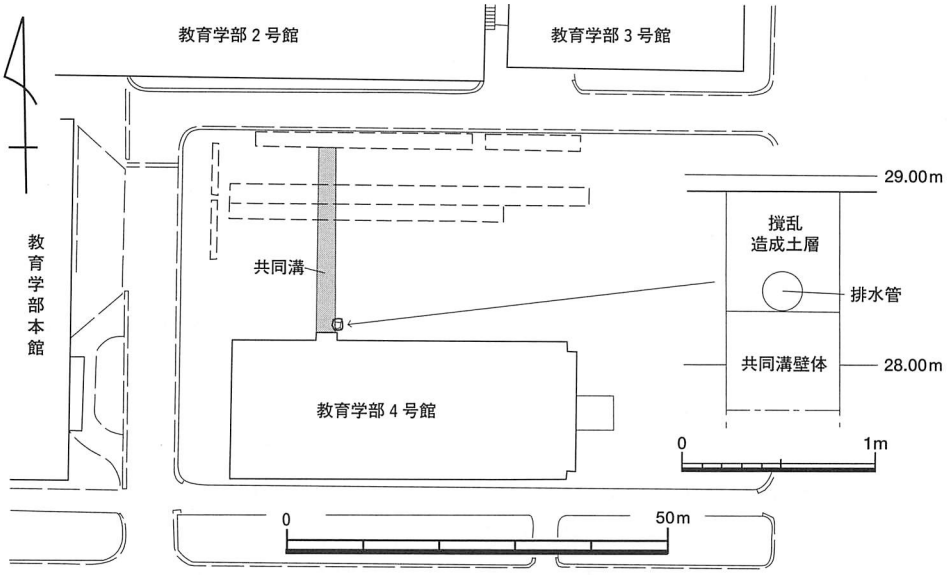


図19　00108調査地点位置図および土層柱状図（縮尺 1/1,000、1/40）

写真63　00108調査地点（西から）

写真64　00108調査地点土層（北西から）